看　護　学　分　野

発達過程に共通する看護実践

2025年04月11日　時点

授業科目	基礎薬理学	科目責任者	土屋　裕義	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者	平尾　温司	時間数	１５	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	薬物療法と看護を理解するために必要な基礎的な薬理学について理解する。
	到達目標	１．薬物動態について説明する。 ２．薬力学について説明する。 ３．医薬品の開発について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	薬理学序論	[講義]薬物療法の目的について学習する。薬物療法に重要な看護師の役割について学習する。	土屋
2	薬理学総論（１）	[講義]薬物作用のメカニズムについて学習する。薬物の吸収・分布について学習する。	土屋
3	薬理学総論（２）	[講義]薬物の代謝・排泄について学習する。	土屋
4	薬理学総論（３）	[講義]薬物の血中濃度について学習する。	土屋
5	薬理学各論（１）	[講義]神経系に作用する薬について学習する。	土屋
6	薬理学各論（２）	[講義]循環器系に作用する薬について学習する。	土屋
7	薬理学各論（３）	[講義]上記２カテゴリー以外の薬について学習する。	土屋
8	評価		土屋

教科書	「薬がみえる（vol. １）（第２版）」医療情報科学研究所編集、メディックメディア、２０２１年 ※初回授業時に購入指針を説明する。	参考書等	「ＮＥＷ薬理学（改訂第７版）」田中千賀子ら編、南江堂、２０１７年 「系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　第１５版」吉岡充弘著、医学書院、２０２２年 「薬がみえる（vo１２，３）（第２版）」医療情報科学研究所編集、」メディックメディア、２０２３年
履修条件	なし	評価方法	１．課題レポートあるいは筆記試験（１００％） ２．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	薬物療法時の看護を考える上で基礎となる科目である。授業時に口頭による解答を求める。教科書の関連する部分に目を通して授業に参加するとともに、事後学習を行うことが望ましい。予習復習時間は２３時間以上。初回参加時には、身の回りの医薬品にどのようなものがあるか、ニュースでは医薬品に関してどのようなことが報じられているか、調べておくと良い。		

2025年04月11日　時点

授業科目	臨床薬理学	科目責任者	桂田　健一	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者	倉科　智行	時間数	１５	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	薬物療法と看護を理解するために必要な臨床的な薬理学について理解する。
	到達目標	１．医薬品の安全な使用（効果的な活用と薬害の防止）について理解する。 ２．処方箋の意味を理解する。 ３．臨床で働く医師や薬剤師の役割について理解する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	薬物治療の意義と倫理性	［講義］薬物療法の理論、意義、評価法および臨床研究・薬害の歴史、臨床試験の意義と倫理性について学習する。	今井（靖）
2	薬の吸収・分布・代謝・排泄	［講義］薬物の体内動態、治療薬物モニタリング（ＴＤＭ）の必要性、方法について学習する。	桂田
3	薬物相互作用	［講義］薬物相互作用について学習する。	澤城
4	病態に応じた薬物治療①	［講義］小児、高齢者における薬物投与方法について学習する。	藤田
5	病態に応じた薬物治療②	［講義］腎障害患者、肝障害患者における薬物投与方法について学習する。	今井（利）
6	処方箋と薬剤師業務	［講義］処方箋の見方や薬剤師の業務について学習する。	荒川
7	病態に応じた薬物治療③	［講義］妊産婦、授乳婦における薬物投与方法について学習する。	大柿
8	試験		桂田

教科書	「臨床薬理学　第４版」日本臨床薬理学会編、　　医学書院、２０１７年	参考書等	指定しない
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．学習態度（２０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	現代の医療には薬物療法が不可欠である。看護を行う上で、最低限知っておきたい薬物療法の理論・倫理性を学習し、実際の臨床の場で薬物療法がどのように実施されているのか、何が問題でどんな点に気をつければよいのかを知るための講義である。受講にあたっては、講義前に教科書等により予習し、講義終了後、教科書や配布資料等を用いて復習を行うこと。予習復習時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	臨床検査学	科目責任者	倉科　智行	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	診療場面で一般的に行われる検査の役割および診断･治療との関係性を理解し、対象者の看護援助の原理原則を学習する。
	到達目標	１．疾病診断に用いられる基本的な検査法について理解したことを表現する。 ２．疾病診断に用いられる基本的な検査機器･用具について理解したことを表現する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	臨床検査の役割と意義 検体の取り扱いと感染	［講義］　臨床検査の役割と意義を学習する。 検体の取り扱い方と医療者の感染予防を学習する。	倉科
2	検体検査（１）	［講義］　一般、生化学、血液、微生物の検査と結果の評価法を学習する。	倉科
3	生理機能検査	［講義］　生理機能検査（心電図、スパイログラム等）の実施法および評価法を学習する。	倉科
4	検体検査（２）・内視鏡検査	［講義］　一般、生化学、血液、微生物の検査と結果の評価法、内視鏡検査の検査法を学習する。	倉科
5	超音波検査	［講義］　超音波の結果の評価法を学習する。	紺野
6	放射線検査	［講義］　X-P、MRI、CT、血管造影の結果の評価法を学習する。	木島
7	臨床検査の有用性と限界	［講義］　臨床検査の診療における位置づけと評価の注意点を学習する。	倉科
8	試験		倉科

教科書	「なるほどなっとく！臨床検査第１版」、浅野嘉延著、南山堂、２０２１年	参考書等	なし
履修条件	なし	評価方法	１．試験（９０％） ２．小テスト（１０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	予習として前学期に学ぶ「病態学各論Ⅰ・Ⅱ」における検査についての項目を確認し講義に臨み、課題を念頭に置いて復習を行うこと。予習復習時間は合計２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	病態学概論	科目責任者	倉科　智行	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	病変の生じるプロセス、病気の定義・病因などの基本を学習する。
	到達目標	１．生体のシステムと病気、生命現象について理解したことを表現する。 ２．細胞の変性と壊死について理解したことを表現する。 ３．損傷修復と再生について理解したことを表現する。 ４．循環障害について理解したことを表現する。 ５．炎症について理解したことを表現する。 ６．腫瘍について理解したことを表現する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	病気と病理学・細胞の異常	［講義］　病気とは何か、病理学とは何か、および細胞の変性と壊死、組織の修復と再生について学習する。	倉科
2	先天異常・循環障害１	［講義］　先天異常および循環障害について学習する。	倉科
3	循環障害２	［講義］　循環障害について学習する。	倉科
4	代謝障害・老化	［講義］　代謝障害および老化について学習する。	倉科
5	感染	［講義］　感染と感染症について学習する。	倉科
6	免疫・炎症	［講義］　免疫と免疫異常、炎症について学習する。	倉科
7	腫瘍	［講義］　腫瘍について学習する。	倉科
8	試験		倉科

教科書	「なるほどなっとく！病理学 plus: 病態形成の機序と各器官の疾病の特徴第１版」、小林正伸著、南山堂、２０２２年	参考書等	なし
履修条件	なし	評価方法	１．試験（９０％） ２．小テスト（１０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	基礎から臨床への橋渡しとなる科目である。病気の定義を知り、病むことと癒えることを動的に理解することで２年次の「病態学各論」をより深く学べるようになる。教科書を用いた予習・受講後の復習を２３時間以上十分行うこと。予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。受講にあたっては「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」の復習は必須である。		

2025年04月11日　時点

授業科目	病態学各論Ⅰ（消化器・循環器）	科目責任者	倉科　智行	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	機能障害を引き起こす疾患と治療、ならびにその発生要因について理解する。
	到達目標	１．各機能障害を引き起こす疾患について理解したことを表現する。 ２．疾患に伴う治療の特徴について理解したことを表現する。 ３．疾患・治療、検査と機能障害の発生との関連について理解したことを表現する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	消化器疾患１	［講義］　消化器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
2	消化器疾患２	［講義］　消化器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
3	消化器疾患３	［講義］　消化器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
4	循環器疾患１	［講義］　循環器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
5	循環器疾患２	［講義］　循環器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
6	循環器疾患３	［講義］　循環器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
7	病態と検査・治療１	［講義］　症例を通じて、消化器疾患、循環器疾患における検査・治療を学習する。	倉科
8	試験		倉科

教科書	「はじめの一歩の病態・疾患学第１版」、林洋著、羊土社、２０１７年 「なるほどなっとく！臨床検査第１版」、浅野嘉延著、南山堂、２０２１年	参考書等	「なるほどなっとく！内科学改訂第３版」、浅野嘉延著、南山堂、２０２３年 「看護のための臨床病態学改訂第５版」、浅野嘉延著、南山堂、２０２３年
履修条件	なし	評価方法	１．試験（９０％） ２．小テスト（１０％） ３．学習態度（減点法） 【試験結果のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	主要疾患の病態生理を理解していることが、よりよい看護実践の根幹となる。受講にあたっては、教科書での予習各回の講義の復習を２３時間以上行うこと。「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「病態学概論」の復習をして講義に臨み、理解を揺るぎないものにして欲しい。		

2025年04月11日　時点

授業科目	病態学各論Ⅱ（呼吸器・腎・血液・神経・内分泌代謝・がん）	科目責任者	倉科　智行	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	機能障害を引き起こす疾患と治療、ならびにその発生要因について理解する。
	到達目標	１．各機能障害を引き起こす疾患について理解したことを表現する。 ２．疾患に伴う治療の特徴について理解したことを表現する。 ３．疾患・治療、検査と機能障害の発生との関連について理解したことを表現する。

回数（１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	呼吸器疾患１	[講義]　呼吸器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
２	呼吸器疾患２	[講義]　呼吸器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
３	腎疾患１	[講義]　腎疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
４	腎疾患２	[講義]　腎疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
５	血液疾患	[講義]　血液疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
６	病態と検査・治療２	[講義]　症例を通じて、呼吸器疾患、腎疾患、血液疾患における検査・治療を学習する。	倉科
７	神経疾患１	[講義]　神経疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
８	神経疾患２	[講義]　神経疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
９	神経疾患３	[講義]　神経疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
１０	内分泌疾患	[講義]　内分泌疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
１１	代謝疾患１	[講義]　代謝疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
１２	代謝疾患２	[講義]　代謝疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
１３	がん	[講義]　がんの主要病態・症状の発現のしくみを学習する。	倉科
１４	病態と検査・治療３	[講義]　症例を通じて、神経疾患、内分泌・代謝疾患、がんにおける検査・治療を学習する。	倉科
１５	試験	［評価］試験	倉科

教科書	「はじめの一歩の病態・疾患学第１版」、林洋編、羊土社、２０１７年 「なるほどなっとく！臨床検査第１版」、浅野嘉延著、南山堂、２０２１年	参考書等	「なるほどなっとく！内科学改訂第２版」、小林正伸著、南山堂、２０２０年 「看護のための臨床病態学改訂第５版」、浅野嘉延著、南山堂、２０２３年
履修条件	なし	評価方法	１．試験（９０％） ２．小テスト（１０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	主要疾患の病態生理を理解していることが、よりよい看護実践の根幹となる。受講にあたっては、教科書での予習・各回の講義の復習を十分行うこと。「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「病態学概論」の復習をして講義に臨み、理解を揺るぎないものにして欲しい。予習復習時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	生化学	科目責任者	坂下　英司	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者	倉科　智行	時間数	１５	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	物質の代謝から人体(生物体)について学習する。
	到達目標	１．生化学の意味と人体の科学的組成を説明する。 ２．生体の酸化還元と代謝の調節を説明する。 ３．糖質、脂質、タンパク質の化学と代謝を説明する。 ４．核酸の化学と代謝を説明する。 ５．ミネラルとビタミンの代謝を説明する。 ６．ホルモンについて説明する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	代謝総論、酵素	[講義]　異化と同化、生体の酸化還元、酵素について学ぶ。	魚崎
2	糖代謝	[講義]　解糖系、TCA回路、グリコーゲン代謝、糖新生、ペントースリン酸回路について学ぶ。	徳山
3	脂質代謝	[講義]　脂質の合成と分解について学ぶ。	冨永
4	タンパク質代謝	[講義]　アミノ酸代謝について学ぶ。	冨永
5	ヌクレオチド代謝	[講義]　核酸の合成と分解について学ぶ。	坂下
6	遺伝情報、先天代謝異常	[講義]　遺伝のしくみ、タンパク質の合成について学ぶ。遺伝子病について学ぶ。	坂下
7	ホメオスターシス	[講義]　恒常性の維持、体液のバランス、ホルモンの役割について学ぶ。	坂下
8	試験	［評価］試験	坂下

教科書	「ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能②　臨床生化学 第７版」宮澤恵二編、メディカ出版、２０２４年	参考書等	「わかりやすい生化学 第５版」石黒伊三雄ら編、ヌーヴェルヒロカワ、２０１７年
履修条件	なし	評価方法	１．多肢選択問題および／または記述問題による試験（９０％） ２．参加態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	医学、看護学を学ぶために基礎となる科目である。講義前までに、課題内容に相当する教科書の項目を予習し臨むこと。講義後は、配布プリントを含め内容を整理し理解を深める復習を行う。これら予習および復習は合わせて２３時間以上かけて十分に行うこと。		

2025年04月11日　時点

授業科目	栄養学	科目責任者	堀内　由布子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者	井上　育子	時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	食物の成分としての栄養について理解し、健康を保つために必要な栄養について学習する。
	到達目標	１．栄養学の三本柱(食品・人体・人文・社会)について説明する。 ２．炭水化物・脂肪・たんぱく質の栄養について説明する。 ３．ミネラルとビタミンについて説明する。 ４．食品群の考え方を説明する。 ５．調理と栄養について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	人間栄養学と看護 栄養ケアマネジメント	[講義] 栄養の意義と栄養学の歴史、保健指導や栄養療法などの場面における看護師の役割、栄養状態のアセスメントとその適正化の方法について学習する。	堀内
2	生命科学に基づいた栄養に関する基礎知識（１）	[講義] 主要栄養素の種類と働きについて学習する。	堀内
3	生命科学に基づいた栄養に関する基礎知識（２）	[講義] 食物の消化・吸収・代謝にかかわる仕組みと働き、各栄養素の消化・吸収・代謝について学習する。	堀内
4	生命科学に基づいた栄養に関する基礎知識（３）	[講義・演習] 食品のエネルギー、体内のエネルギー出納と代謝の過程、エネルギー代謝の測定とエネルギー消費について学習する。	堀内
5	生命科学に基づいた栄養に関する基礎知識（４）	[講義] 食品群とその分類、食品表示、食品の調理、食事摂取基準について学習する。	堀内
6	ライフステージと栄養	[講義] ライフステージ別における健全な成長や疾病の予防、疾病の治療について学習する。	堀内
7	臨床栄養	[講義] 病院における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法について学習する。	堀内
8	試験		堀内

教科書	「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［３］　栄養学　第１４版」小栗靖生ほか著、医学書院、２０２５年	参考書等	「系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　第５版」有本正子ほか著、医学書院、２０２５年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（７０％） ２．学習態度（２０％） ３．課題レポート（１０％） 【評価のフィードバック方法】 模擬解答等を掲載する

備考	食事の援助は、看護師が自身の専門性に基づいて行う基本的技能の１つである。 患者の食欲がわく環境を整えたり、栄養状態をアセスメントしたり、食生活に関する相談・指導を行ったりするために、本授業で栄養学の知識を深めること。 教科書にて予習・復習を行って講義に臨むこと。 予習復習時間は２３時間以上を必要とする。

2025年04月11日　時点

授業科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論・組織・筋骨格・体液・呼吸・循環）	科目責任者	平尾　温司	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	正常な人体の構造とその機能について、系統的（細胞、組織、筋骨格、体液、呼吸、循環系）に理解する。
	到達目標	１．人体の器官系（筋・骨格・呼吸器・循環器）における正常構造とその機能を説明する。 ２．人体を構成する組織とその働きについて説明する。 ３．人体における液状成分とその働きについて説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	細胞から人体へ	[講義]人体の構成要素、体腔、器官系、人体の相対的位置を示す用語およびホメオスタシスについて学習する。	平尾
２	細胞	［講義］細胞の構造、細胞膜および細胞内小器官について学習する。	平尾
３	組織と膜	［講義］器官系を構成する主要な４つの組織について学習する。	平尾
４～６	骨格系	［講義］骨の一般的な構造と働き、各部を構成する骨格および関節の作用について学習する。	平尾
７・８	筋系	［講義］骨格筋の形状と名称、体の動作、各部の骨格筋とその作用等について学習する。	平尾
９	血液と免疫系	［講義］血液の一般的な性質、血液凝固、血液型および免疫系について学習する。	平尾
１０	リンパ系と水、電解質、酸－塩基平衡	［講義］リンパ液および体液の区分、組成と酸塩基平衡について学習する。	平尾
１１・１２	呼吸器系	［講義］呼吸に関わる臓器の構造と機能、呼吸のしくみ等について学習する。	平尾
１３・１４	循環器系	［講義］心臓および血管系の構造と機能について学習する。	平尾
１５	評価		平尾

教科書	「ヒューマンボディ　原著第７版」Barbara Herlihy著、エルゼビア・ジャパン、２０２３年	参考書等	「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井建雄・橋本尚詞著、成美堂出版、２０１８年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．復習テスト（２０％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答を掲載する
備考	毎回、講義の冒頭で３問の復習テストを行うので、受講後はしっかりと復習をすること。予習復習時間は４６時間以上		

2025年04月11日　時点

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ（消化器・泌尿器・内分泌・生殖器・神経・感覚）	科目責任者	平尾　温司	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	正常な人体の構造とその機能について、系統的（消化器、泌尿器、内分泌、生殖器、神経および感覚系）に理解する。
	到達目標	１．人体の器官系（消化器・泌尿器・内分泌・生殖器・神経・感覚器）における正常な構造とその機能を説明する。 ２．人体を構成する組織とその働きについて説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１・２	消化器系	[講義]消化管および消化腺の構造と機能について学習し、食物の消化・吸収のしくみについて理解する。	平尾
３・４	泌尿器系	[講義]泌尿器の構造と機能および尿の生成等について学習する。	平尾
５	内分泌系	[講義]ホルモンを分泌する内分泌腺の構造およびホルモンの作用について学習する。	平尾
６・７	生殖器系	[講義]男性生殖器と女性生殖器の構造と機能、配偶子形成、排卵、受精、着床、妊娠までの機構について学習する。	平尾
８～１２	神経系	[講義]中枢神経系（脳と脊髄）および末梢神経系（体性神経と自律神経）の構造と機能について学習する。	平尾
１３・１４	感覚系	[講義]感覚器（視覚器、聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚等）のの構造と機能について学習する。	平尾
１５	試験		平尾
１６	解剖見学実習	[実習]解剖体の見学を通じて、人体の構造について立体的に学習する。	平尾・西村・加藤・三木

教科書	「ヒューマンボディ 原著第５版」　Ｂａｒｂａｒａ Ｈｅｒｌｉｈｙ著、エルゼビア・ジャパン、２０１８年	参考書等	ぜんぶわかる人体解剖図」坂井建雄・橋本尚詞著、成美堂出版、２０１８年
履修条件	なし	評価方法	１.筆記試験（８０％） ２.小テスト（２０％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を提示する。
備考	毎回、講義の冒頭で３問の復習テストを行う。受講後はしっかりと復習を行うこと。予習復習時間は４６時間以上行うこと。		

2025年04月11日　時点

授業科目	免疫学	科目責任者	平尾　温司	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	免疫応答の仕組みと感染の仕組みについて学習する。
	到達目標	１．免疫応答の仕組みについて説明する。 ２．感染と生体防御の巧妙な仕組みについて説明する。 ３．免疫バランスの乱れにより惹起されるアレルギーおよびアナフィラキシーについて説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	免疫学の歴史	[講義]免疫とは何か、過去に大流行した感染症および新興感染症から免疫学の歴史について学習する。	平尾
2	２つの免疫系	２種類の免疫、白血球の働き、体液性免疫と細胞性免疫、抗原と抗体、免疫にかかわるリンパ組織について学習する。	平尾
3	B細胞と体液性免疫	[講義]B細胞と体液性免疫、抗体の働きと種類、抗体の多様性のしくみおよび抗原について学習する。	平尾
4	T細胞と細胞性免疫	[講義]T細胞と細胞性免疫について学習する。	平尾
5	NK細胞、NKT細胞、マクロファージとＭＨＣ	[NK細胞の働き、NKT細胞の働き、マクロファージの働き、自己の識別とMHCについて学習する。]	平尾
6	補体と腸管免疫および気道免疫について	補体の働きと作用、腸管免疫と気道免疫、免疫細胞の多様性の仕組み、HLAとCDについて学習する。	平尾
7	アレルギーとその分類について	[講義]アレルギーの分類とその疾患およびアナフィラキシーについて学習する。	平尾
8	評価		平尾

教科書	指定しない	参考書等	「新しい免疫学入門」審良静雄・黒崎智弘著、講談社、２０１４年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（１００％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を提示する。
備考	我々の身体は、細菌やウイルス等の病原体から、どのようにして守られているのか理解して下さい。また、アレルギーについても、どのようにして起こるのか、その仕組みを理解するようにして下さい。本科目の予復習は２３時間以上とします。		

2025年04月11日　時点

授業科目	微生物学	科目責任者	加藤　大智	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者	倉科　智行	時間数	３０	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	微生物の特徴とヒトに重要な影響を与える微生物について学習する。
	到達目標	１．微生物の特徴と分類を説明する。 ２．ヒトに重要な影響を与える微生物の特徴を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	微生物学　総論	［講義］微生物および感染症全体の概念を学習する。また、感染経路および感染時の免疫反応（ワクチンを含む）について学習する。	加藤
２	細菌学　総論	［講義］細菌（バクテリア）の構造・生理について学習する。	崔
３	細菌学　各論１（グラム陽性菌）	［講義］重要なグラム陽性菌について学習する。	相羽
４	細菌学　各論２（グラム陰性菌）	［講義］重要なグラム陰性菌について学習する。	渡邊
５	細菌学　各論３（その他の病原体）	［講義］マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、真菌について学習する。	相羽
６	細菌学　各論４（化学療法と耐性菌）	［講義］細菌感染症に対する化学療法と耐性菌について学習する。	渡邊
７	細菌学　各論５（滅菌・消毒と院内感染）	［講義］滅菌・消毒の方法について学習する。さらに、院内感染対策を手指消毒・マスク着用を中心に学習する。	崔
８	ウイルス学　総論	［講義］ウイルスの概念と構造・増殖について学習する。	村田
９	ウイルス学　各論１（DNAウイルス）	［講義］ヘルペス・麻疹・風疹・ムンプスウイルスなどの特徴と病原性について学習する。	村田
１０	ウイルス学　各論２（インフルエンザ・HIV）	［講義］インフルエンザウイルス・HIVなどの特徴と病原性について学習する。	村田
１１	ウイルス学　各論３（肝炎ウイルス）	［講義］肝炎を引き起こすウイルスの特徴と病原性について学習する。	村田
１２	ウイルス学　各論４（その他RNAウイルス）	［講義］ピコルナ・ノロ・デングウイルスなどの特徴と病原性について学習する。	村田
１３	寄生虫学１	［講義］寄生虫の形態、分類、感染経路、病態の概要について学習する。また、重要な蠕虫感染症について学習する。	加藤
１４	寄生虫学２	［講義］重要な原虫感染症、衛生動物による病害について学習する。	加藤
１５	試験		崔・村田・加藤

教科書	指定しない。	参考書等	「コンパクト微生物学改訂第５版」、小熊恵二・堀田博 編集、南江堂、２０２１年 「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」改訂３版、藤本秀士 編集、南山堂、２０１７年 「イラストでわかる微生物学超入門第２版」齊藤光正 編集、南山堂、２０２１年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験 (１００%) ２．学習態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	微生物それぞれの特徴を理解し、微生物が引き起こす感染症の全体像を把握する。また、感染に対する防御策を学習する。治療、看護を考えるための基礎となる科目である。参考書等を用いて予習・復習を十分に行い講義に臨むこと。予習復習時間は４６時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	グループ・アプローチ	科目責任者	井上　育子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	グループの特徴とグループ内で生じるプロセスやダイナミクスを理解し、看護実践の基盤となるグループ・アプローチの基本を理解する。
	到達目標	１．グループの特徴について説明する。 ２．小グループにおけるプロセスおよびダイナミクスの基本を説明する。 ３．社会的場面（対人的場面）における個人の心理や行動の基本を説明する。 ４．保健医療福祉に関連のあるグループ・アプローチの概略を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	グループとは	[講義]　グループの定義、グループの機能と構造について学習する。	井上
2	グループにおける相互作用	[講義]　グループにおける意思決定や関係性といった相互作用について学習する。	井上
3	グループ・アプローチを理解するために必要な概念	[講義]　グループ・アプローチを理解する上で必要となる概念について学習する。	井上
4	保健医療福祉におけるグループ・アプローチ①	[講義]　保健医療福祉におけるグループ・アプローチの概略について学習する。（第１回）	井上
5	保健医療福祉におけるグループ・アプローチ②	[講義]　保健医療福祉におけるグループ・アプローチの概略について学習する。（第２回）	井上
6	グループ・アプローチ演習①	[講義・演習]　演習を通し、グループ・アプローチの概略について理解を深める学習をする。（第１回）	井上・路川・地神・小野寺
7	グループ・アプローチ演習②	[講義・演習]　演習を通し、グループ・アプローチの概略について理解を深める学習をする。（第２回）	井上・路川・地神・小野寺
8	評価		井上

教科書	指定しない	参考書等	なし
履修条件	なし	評価方法	１．課題レポート（９０％） ２．学習態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、日常生活におけるあらゆるグループに生じる現象に関する理論、およびそれらに基づく有効なアプローチの基本的な考え方に関するもので、実習科目を含む多くの科目に関連している。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行うため積極的に取り組むこと。授業後は、講義で学んだことを復習し学習を深めること。予習復習時間は２３時間以上を必要とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	社会福祉論	科目責任者	中津原　　聖	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者	関山　友子	時間数	１５	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	社会福祉とは何か、現代社会における社会福祉の意義と位置および歴史的概観、法的・行政組織の体系、社会保障、ならびに社会福祉と社会政策との関連を理解する。
	到達目標	１．社会福祉に関する知識を習得する。 ２．福祉事業が発祥する、時代的社会的背景および福祉成立過程、過去から現在に至るまでの社会福祉の変遷を説明する。 ３．福祉の心を理解し、福祉のあり方について考えを述べる。 ４．福祉国家に向かって福祉文化の創造を考え、人間の尊厳の高揚、インフォーマルな人間性の支援体制のあり方、人権について探索したことを述べる。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	社会福祉総論	［講義］社会福祉と社会保障の全体像を学ぶ。	中津原
2	現代社会と社会福祉	［講義］不安定化する日本の現代社会の問題を考える。	中津原
3	社会福祉の目的	［講義］社会福祉や社会保障の意味や役割を考える。	中津原
4	貧困と社会福祉	［講義］貧困と生活保護について考える。	中津原
5	子どもと女性の社会福祉	［講義］子どもと女性の社会福祉について考える。	中津原
6	高齢者と社会福祉	［講義］高齢者の社会福祉について考える。	中津原
7	これからの社会福祉・社会保障	［講義］社会福祉・社会保障の課題を考え、これからの社会福祉や社会保障は、どのようにあるべきかを考える。	中津原
8	試験		中津原

教科書	指定しない	参考書等	なし
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（１００％） ２．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	「社会福祉学」は、看護の専門科目を学ぶときの基礎として重要な科目である。社会福祉の基本的概念や知識をよく習得すること。予習、復習として参考となる書物等は講義内で随時紹介するので、各自興味のある範囲のものに目を通しておくことを推奨する。予習復習時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	保健医療福祉システム論	科目責任者	関山　友子	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	わが国の社会保障制度とそれに基づくヘルスケアの提供システムについて、法的・経済的背景を含めた成り立ちを理解する。また、行政サービス組織の枠組みとその組織の特性を理解する。
	到達目標	１．保健医療福祉に関する法体系の概要について説明する。 ２．保健医療福祉行政の理念と制度について説明する。 ３．保健医療福祉行政の組織・機構、運営計画、財政的基盤について説明する。また、保健医療福祉計画の策定過程と評価方法の基本について説明する。 ４．保健医療福祉システム、公衆衛生行政の現状と課題について説明する。また、保健医療福祉従事者の機能・役割について説明する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	社会保障制度	［講義］わが国の社会保障制度について学習する。 保健医療福祉に関する法体系・制度・システムについて学習する。	市川
2	保健医療福祉行政の理念と原則	［講義］保健医療福祉行政の理念と原則について学習する。	島田
3・4	保健医療福祉行政の発展過程	［講義］公衆衛生の考え方と公衆衛生の発展過程を学習する。 ［講義］保健医療福祉行政の変遷と統合化、保健医療福祉行政における課題を理解する。	島田
5	医療提供体制	［講義］医療法と医療制度の変遷について学習する。	安藤
6・7	保健医療福祉行政の仕組み	［講義］国、都道府県、市町村の行政の仕組みを学習する。 ［講義］保健医療福祉にかかわる自治体行政の仕事と職員の責務、保健医療福祉の行財政と仕組みを学習する。	関山・塚本
8	公衆衛生行政１	［講義］地域保健法に基づく体制と動向を学習する。 一般衛生行政の現状と課題を学習する。	青木
9	公衆衛生行政２	［講義］労働衛生行政の現状と課題を学習する。	市川
10	公衆衛生行政３	［講義］学校保健行政の現状と課題を学習する。 環境保健行政の現状と課題を学習する。	青木
11	社会福祉の制度	［講義］生活保護制度について学習する。 社会福祉制度（児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉）について学習する。	関山
12	社会保険の制度１	［講義］介護保険制度について学習する。	塚本
13	社会保険の制度２	［講義］年金制度、その他の社会保険制度(労災保険、雇用保険など）について学習する。	島田
14	保健医療福祉計画	［講義］保健医療福祉計画の策定過程と評価方法の基本を学習する。	塚本
15	試験		関山

教科書	「ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障（４）：看護をめぐる法と制度　第６版」平林勝政　他編集、メディカ出版、２０２５年 「看護法令要覧令和７年版」日本看護協会出版会、２０２５年 「国民衛生の動向　２０２５/２０２６」厚生労働統計協会、２０２５年	参考書等	「国民の福祉と介護の動向２０２５/２０２６」厚生労働統計協会、２０２５年 「医療福祉総合ガイドブック　２０２５年度版」医学書院、２０２５年 「標準保健師講座　別巻１　保健医療福祉行政論　第６版」藤内修二、医学書院、２０２５年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験(８０％) ２．課題提出物(２０％) ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	本科目は、保健医療福祉システム下における看護活動を展開するうえで、必要な知識と態度を獲得するための基盤となる科目である。学生は、教科書等を用いて予習・復習と定期試験に加えて、授業中に課される課題遂行を通して、学習目的の達成度を高めることが期待されている。予習復習時間は４６時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	疫学	科目責任者	関山　友子	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	疫学とは何か、保健問題解決のためになぜ必要なのかを理解し、その方法論を習得する。また、健康指標、保健統計関連指標について理解する。
	到達目標	１．疫学の定義、公衆衛生との関連について説明する。 ２．記述疫学、疫学研究方法について説明する。 ３．疫学指標を正確に読み取る方法を習得する。 ４．感染症、食中毒に関わる問題の解決や疾病対策と疫学との関連について説明する。 ５．保健・看護活動に必要な保健・看護情報について適切に選択する方法を習得する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	疫学とは何か	［講義］疫学の定義、疫学の歴史、疫学史上のエピソードなどを学習する。	関山
2～4	健康と疾病異常の測定	［講義］健康と疾病の概念、代表的な疫学指標（罹患率、有病率、死亡率、致命率、生存率など）を学習する。	関山
5・6	疫学研究のデザイン	［講義］症例対照研究、コホート研究、介入研究などの疫学研究のデザインを学習する。	江角
7	疫学研究における偏りとその制御	［講義］疫学研究において生ずる誤差や偏りにはどのようなものがあるか、なぜ起こるのか、それらを取り除くにはどうすればよいのかを学習する。	関山
8	因果関係の判定と疫学要因	［講義］因果関係を判定するための基本的な考え方と条件、疫学要因を学習する。	関山
9～11	保健統計	［講義］人口静態統計、人口動態統計、疾病統計、保健行政統計などのとり方とその内容を学習する。	関山
12	サーベイランスと疾病登録	［講義］サーベイランスと疾病登録の定義、目的、内容などを学習する。	関山
13	スクリーニング	［講義］スクリーニングの定義、目的、意義、実施上の原則、評価方法などを学習する。	関山
14	疫学研究と倫理	［講義］疫学研究における倫理的な問題、対象者選択の問題、介入研究における介入の妥当性などについて学習する。	関山
15	試験		関山

教科書	指定しない	参考書等	「楽しく学べる!看護学生のための疫学・保健統計」浅野嘉延、南山堂、２０１８年 「基本からわかる疫学入門（第３版）」大木秀一、医歯薬出版、２０１７年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（８５%） ２．学習態度（１５%または減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	疫学は、保健問題を解決するための基本的な概念や方法論を提供する学問である。講義前に教科書を読んで予習をしておくことが望ましい。また、講義中は、「統計学」や「統計学演習」において学習した内容と結びつけながら理解する必要がある。教科書や配布資料等で十分復習して定期試験に臨むこと。予習復習時間は４６時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護学概論	科目責任者	小原　泉	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	看護の主要な概念や理論、関連する法と倫理、歴史的変遷および看護の提供の仕組みを理解し、看護学の基本を学習する。
	到達目標	１．看護の主要概念および看護理論の概要を説明する。 ２．看護に関連する法と倫理の概要を説明する。 ３．看護の歴史的変遷を踏まえ、看護の提供の仕組みの概要を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	看護および看護学の概要	［講義］看護および看護学とは何か、歴史的変遷を含めて概要を学習する。	小原
2・3	看護の主要概念	［講義］看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」について学習する。 ・看護の対象としての人間とは ・環境とは ・健康とは ・看護とは	小原
4	看護理論と看護実践への活用（１）	［講義］主要な看護理論として、ナイチンゲールの看護理論の概要と看護実践での活用について学習する。	小原
5	看護理論と看護実践への活用（２）	［講義］主要な看護理論として、オレムの「セルフケア理論」の概要と看護実践での活用について学習する。	内堀
6	看護に関連する法と倫理	［講義］看護に関連する法と倫理について学習する。	小原
7	看護の提供の場と仕組み	［講義］看護を提供する場とその仕組みやそこで求められている役割、看護をめぐる制度と政策、多職種との協働について学習する。	小原
8	評価		小原

教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論」志自岐康子他編、メディカ出版、２０２２年 「看護覚え書き」フロレンス・ナイティンゲール、小玉香津子・尾田葉子訳、日本看護協会出版会、２０１９年 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槙ます他訳、日本看護協会出版会、２０１６年	参考書等	「看護覚え書」F.ナイチンゲール著、小林彰夫他訳、うぶすな書院、１９９８年
履修条件	なし	評価方法	１．課題レポート（９０％） ２．学習態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	これから看護学を学ぶ上で基盤となる科目である。教科書や授業資料を用いて事前・事後学習を行い、不明な点は自ら調べたり質問をしたりして主体的に授業に臨むこと。予習復習時間は、２３時間以上を必要とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅰ（看護実践の基盤）	科目責任者	小原　泉	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	看護実践の基盤となる諸理論ならびに論理的な思考過程の概要を理解し、対象との人間関係の形成に基づいて看護を展開する方法を学習する。
	到達目標	１．看護実践の基盤となる看護理論を看護実践に活用する方法を説明する。 ２．対象と人間関係を形成する方法の概要を説明する。 ３．論理的な思考過程を用いて看護を展開する方法の概要を説明する。

回数（１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	看護実践の基盤となる看護理論	[講義]　主要な看護理論の概要と看護実践での活用について学習する。―ヘンダーソンの「１４の基本的ニーズ」	小原
2	対象との人間関係の形成	[講義]　コミュニケーションを通して看護の対象と人間関係を形成する方法を学習する。	内堀
3	論理的に看護を展開する方法（１）	[講義]　論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する。―論理的思考、批判的思考、看護過程―	小原
4	論理的に看護を展開する方法（２）	[講義・演習]　論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する。―主観的情報・客観的情報―	小原
5	論理的に看護を展開する方法（３）	[講義・演習]　論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する。―アセスメント・全体像―	小原
6	論理的に看護を展開する方法（４）	[講義・演習]　論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する。―看護計画・評価―	小原
7	論理的に看護を展開する方法（５）まとめ	[講義]　論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要と、看護実践における今後の課題について学習する。―看護記録、報告・連絡および相談―	小原
8	評価		小原

教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論」志自岐康子他編、メディカ出版、２０２２年 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槙ます他訳、日本看護協会出版会、２０１６年	参考書等	なし
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「看護学概論」（見込み）	評価方法	１．課題レポート（９０％） ２．学習態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	看護を実践するための基本となる考え方およびその展開方法を学習する重要な科目である。論理的思考や看護過程を学ぶために、教科書、資料をよく読み、疑問点をそのままにしない主体的な学習態度が求められる。予習復習時間は、２３時間以上を必要とする。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅱ（精神看護）	科目責任者	春山　早苗	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	精神の健康について身体･精神･社会的に理解し、精神の健康を促進する看護活動の概要を理解する。
	到達目標	１．精神の健康のとらえ方について説明する。 ２．精神の健康に影響する要因について説明する。 ３．精神看護の意義ならびに機能を説明する。 ４．精神看護学で用いる理論について概略を説明する。 ５．精神の健康に関する資源・法制度の概要について説明する。 ６．精神の健康の現状と精神の健康の維持増進について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	精神の健康とは	［講義］精神の健康を身体･精神･社会的にとらえることについて学ぶ。	春山
2	精神の健康と影響要因１	［講義］現代社会における精神の健康に影響する要因について、超高齢社会、少子化、自死（自殺）、災害、依存などの視点から学ぶ。	春山
3	精神の健康と影響要因２	［講義］現代社会における精神の健康に影響する要因について、超高齢社会、少子化、自死（自殺）、災害、依存などの視点から学ぶ。	春山
4	精神の健康の歴史	［講義］精神の健康に関するとらえ方、精神障害者のケアに関する歴史と法制度について学ぶ。	春山
5	精神の健康を守るためのシステム	［講義］精神の健康に関連する社会資源、地域包括ケアと多職種連携について学ぶ。	春山
6	精神看護とは	［講義］精神の健康の維持・増進に活用する理論、精神看護の意義、役割、機能について学ぶ。	路川
7	精神の健康の維持・増進	［講義］精神の健康の現状を踏まえ、維持・増進に向けた活動について学ぶ。	路川
8	試験		春山

教科書	「精神看護学概論／精神保健　第6版」岩﨑弥生、渡邉博幸編著、メヂカルフレンド社、２０２１年	参考書等	「障害者総合支援法とは　改訂第３版」丸山晃監修、東京都社会福祉協議会、２０２０年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験(６０%) ２．授業の小レポート（４０%） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	この科目は、「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」の履修条件となっている。 各回の関連部分を予習したうえで授業に臨み、受講後にも再読する復習を勧める。また、学習課題の理解を深めるためには、過去、現在、未来における国内外の社会情勢、医療、経済、政治状況等に関心を持ち、さまざまな文化や社会で生きる人々とそれらの人々を取り巻く環境について情報収集し、精神の健康について興味関心を高めることが求められる。予習・復習は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅲ（公衆衛生看護）	科目責任者	島田　裕子	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護の知識やあり方を習得する。
	到達目標	１．公衆衛生の理念・目標を追求する看護の機能を説明する。 ２．公衆衛生の理念・目標を追求する看護の対象、方法論を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	公衆衛生看護とは 公衆衛生看護に関わる概念	［講義］公衆衛生看護とは何か、対象や場を学習するとともに、健康と基本的権利、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションなど公衆衛生看護に関わる概念について学習する。	島田
2	公衆衛生看護の目的と原則	［講義］公衆衛生看護の目的、公衆衛生看護実践の原則、地域保健法下における保健師の役割を学習する。	島田
3	地区活動のプロセス(１)	［講義］地域における生活集団を対象とした看護のあり方と方法について学習する。 ・対象集団のとらえ方	青木
4	地区活動のプロセス(２) 家族を単位とした援助方法	［講義］対象の家庭や生活の場において生活の質を高めることを目指して行われる看護のあり方について学習する。 ・地域診断（地域アセスメント）、家庭訪問	青木
5	行政サービスにおける看護の実践方法	［講義］地区活動と保健事業、保健事業計画づくりについて学習する。	島田
6	予防的意義の高い看護実践	［講義］健康生活に関わる問題の予防と健康管理に関わる看護の意義と実践方法について学習する。	島田
7	公衆衛生看護の歴史（１）	［講義］公衆衛生看護の始まりと歴史的な発展を学習する。	市川
8	公衆衛生看護の歴史（２）	［講義］公衆衛生看護の始まりと歴史的な発展を学習する。	市川
9	公衆衛生看護の実践方法	［演習］事例を用いて公衆衛生看護の目的や実践方法の学習を深める。数グループに分かれてセミナー形式で行う。	安藤・島田・春山・塚本・市川・青木
10	地域資源利用に関わる援助方法 ヘルスケアチームづくり	［講義］地域資源利用に関わる援助方法について学習する。 地域におけるヘルスケアチームづくり、地域資源の組織化について学習する。	春山
11	ヘルスケアシステムづくり（１）	［講義］在宅療養者支援体制づくりにおける看護職の役割と実践方法について学習する。	市川
12	ヘルスケアシステムづくり（２）	［講義］住民との協働による地区活動の展開と地域づくり、ヘルスケアシステムづくりについて学習する。	春山
13	公衆衛生の目標を追求する看護職の活動の場と役割（１）	［講義］学校生活集団を理解し、学校保健システムにおける看護職の役割について学習する。	青木
14	公衆衛生の目標を追求する看護職の活動の場と役割（２）	［講義］職場生活集団を理解し、産業保健システムにおける看護職の役割を学習する。	塚本
15	試験		島田

教科書	「最新公衆衛生看護学 第３版 ２０２５年版　総論」宮崎美砂子、北山三津子他編、日本看護協会出版会、２０２５年	参考書等	「標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　第５版」中村裕美子他著、医学書院、２０２３年 「保健学講座　第２巻　公衆衛生看護支援技術　第１版」岸恵美子、平野かよ子他編、メヂカルフレンド社、２０２２年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．記録物の提出（２０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	公衆衛生看護学の概論について、主に行政に所属する保健師の活動を素材に教授する。 わが国のヘルスケアシステムについて学習した「保健医療福祉システム論」や「社会福祉論」をよく復習するとともに、教科書により予習して臨むこと。授業後は配布資料やノートで復習して学修を進めていくこと。予習復習時間は４６時間以上。 演習では、アクティブ･ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	ヘルスアセスメント演習Ⅰ（基礎）	科目責任者	内堀　真弓	単位数	1.0	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	ヘルスアセスメントの概念を理解し、基礎となる知識と技術を習得する。
	到達目標	１．ヘルスアセスメントの目的と成り立ちを説明する。 ２．フィジカルアセスメントに必要な主観的情報と客観的情報を得る方法を説明する。 ３．バイタルサインの測定方法について、人体の構造と機能をふまえて説明する。 ４．系統的なフィジカルアセスメントの実施方法について、人体の構造と機能をふまえて説明する。 ５．看護職に相応しい態度でフィジカルアセスメントを行う。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	ヘルスアセスメントの成り立ち	[講義]ヘルスアセスメントの目的・成り立ち、フィジカルアセスメントにおよび心理社会的状態のアセスメントの方法の概要について学習する。	内堀
２	主観的情報および客観的情報の収集方法	[講義]主観的情報および客観的情報を収集するために必要な看護技術（問診、視診、触診、聴診および打診）と、情報を整理する枠組みと記録方法について学習する。	内堀
３・４	バイタルサインの測定方法	[演習]バイタルサインの測定および評価方法について学習する。	鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺
５．６	消化器系のフィジカルアセスメントの方法	[演習]消化器系のフィジカルアセスメントの方法を学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
７・８	呼吸器系のフィジカルアセスメントの方法	[演習]呼吸器系のフィジカルアセスメントの方法を学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
９・１０	循環器系のフィジカルアセスメントの方法	[演習]循環器系のフィジカルアセスメントの方法を学習する。	小野寺・小原・内堀・井上・鈴木・大串
１１・１２	筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントの方法	[演習]筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントの方法を学習する。	大串・小原・内堀・井上・鈴木・小野寺
１３・１４	感覚器系・頭頸部のフィジカルアセスメントの方法	[演習]感覚器系および頭頸部のフィジカルアセスメントの方法を学習する。	大串・小原・内堀・井上・鈴木・小野寺
１５	評価		内堀

教科書	「はじめてのフィジカルアセスメント 第２版」 横山美樹、メヂカルフレンド社、２０１９年	参考書等	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、２０２２年 「看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術、第３版」角濱春美他編、メヂカルフレンド社、２０２０年
履修条件	・単位取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」	評価方法	１．事前・事後課題レポート：６０％ ２．筆記試験：３０％ ３．学習態度：１０％ 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する 筆記試験：模範解答等を掲載する
備考	ヘルスアセスメント演習Ⅰは、ヘルスアセスメント演習Ⅱと連動する科目構成となっている。基本的なヘルスアセスメントの知識と技術を習得する。中でもフィジカルアセスメントは「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を活用することが不可欠である。この授業では、看護実践者としてのふさわしい態度も求められる。身だしなみを整え、コミュニケーションスキルも磨きながら学習を進めること。予習や復習時間には、１２時間以上を必要とする。アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	ヘルスアセスメント演習Ⅱ（展開）	科目責任者	小原　泉	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	ヘルスアセスメントの実際に必要となる知識と技術を習得する。
	到達目標	１．フィジカルイグザミネーション技術およびバイタルサイン測定技術を習得して、シミュレーション場面で全身のフィジカルアセスメントを行う。 ２．フィジカルアセスメントに加えて心理社会的側面の情報取集方法を習得して、シミュレーション場面でヘルスアセスメントを行う。 ３．看護職に相応しい態度でヘルスアセスメントを行う。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１・２	フィジカルアセスメントの実際（１）（２）	［演習］事例を設定してバイタルサインを測定し、測定結果の評価と報告を適切に行う方法を習得する。	内堀 小原・井上・鈴木・大串・小野寺
３～６	フィジカルアセスメントの実際（３）（４）（５）（６）	［演習］設定された事例に対するバイタルサインの測定技術の習得状況を確認し、確実な技術を習得する。	内堀 小原・井上・鈴木・大串・小野寺
７・８	ヘルスアセスメントの実際（１）（２）	［演習］事例を設定して、心理社会的側面の情報を収集し、身体的側面と併せて対象の健康を総合的にアセスメントする方法を学ぶ。	内堀 小原・井上・鈴木・大串・小野寺
９～１４	ヘルスアセスメントの実際（３）（４）（５）（６）（７）（８）	[演習]模擬患者に対して必要なフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）およびバイタルサイン測定を実施し、得られた情報からヘルスアセスメントを行う。 ヘルスアセスメント場面を振り返り、ヘルスアセスメント技術の自己評価ならびに他者評価を通して、ヘルスアセスメント技術習得上の課題を認識する。	小原 内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
１５	評価		小原

教科書	「はじめてのフィジカルアセスメント 第２版」横山美樹、メヂカルフレンド社、２０１９年	参考書等	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ」松尾ミヨ子他編、メディカ出版、２０２２年 「看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術、第３版」角濱春美他編、メヂカルフレンド社、２０２０年
履修条件	・単位取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」	評価方法	１．技術試験：５０％ ２．事前・事後課題レポート:４０％ ３．学習態度：１０％ 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	ヘルスアセスメント演習Ⅱは、ヘルスアセスメント演習Ⅰでの学習内容をもとに、看護実践場面に適用できるヘルスアセスメント技術を習得する。実施場面の振り返りでは、学生同士で互いに学びあう態度が重要である。看護職に相応しい態度で、コミュニケーションスキルも高めながら学ぶことを期待する。予習や復習時間は、１２時間以上を必要とする。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護技術論Ⅰ（生活環境の調整）	科目責任者	井上　育子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	看護技術の基盤となる考え方をふまえて、対象の生活環境の調整に関する看護技術の原理や原則を学習する。
	到達目標	１．看護技術の基盤となる対象の安全、安楽および自立の考え方を説明する。 ２．対象のニードに合った看護技術を提供するために、対象を観察する方法を説明する。 ３．環境調整、活動・休息援助、および安全確保の看護技術の原理や原則を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	技術論概説	[講義]　看護における安全・安楽・自立の基本的考え方およびスタンダードプリコーションの考え方に基づいた感染予防の看護技術を学習する。	井上
2	生活環境の援助方法①	[講義]　安全・安楽かつ効率的な看護技術を提供するためのボディメカニクスの基本と、対象の生活環境の意義および看護技術を学習する。	井上
3	生活環境の援助方法②	[講義]　対象の生活環境を理解し、アセスメントする方法および看護技術を学習する。	井上
4	対象を観察する方法①	[講義]　バイタルサインの意義を理解し、対象のバイタルサインを観察・測定する看護技術を学習する。(第1回)	鈴木
5	対象を観察する方法②	[講義]　バイタルサインの意義を理解し、対象のバイタルサインを観察・測定する看護技術を学習する。(第2回)	鈴木
6	活動・休息のアセスメントおよび援助方法①	[講義]　活動・運動の意義を理解し、アセスメントする方法および看護技術を学習する。	井上
7	活動・休息のアセスメントおよび援助方法②	[講義]　休息・睡眠の意義を理解し、アセスメントする方法および看護技術を学習する。	鈴木
8	試験		井上

教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、２０２２年 「はじめてのフィジカルアセスメント　第２版」横山美樹、メヂカルフレンド社、２０１９年	参考書等	「看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　第３版」角濱春美ほか編、メヂカルフレンド社、２０２０年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「看護学概論」（見込み）	評価方法	１．筆記試験（９０％） ２．学習態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等の掲載
備考	看護技術論Ⅰは、看護技術演習Ⅰと連動する科目構成となっている。身体の部位の名称、姿勢や体位などの専門用語についての理解が必要となる。教科書を活用し事前学習・事後学習をしっかり行い、学びを整理していくこと。予習復習時間は、２３時間以上を必要とする。看護職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重要視する。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護技術論Ⅱ（日常生活援助）	科目責任者	鈴木　朋子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	看護技術の基盤となる考え方をふまえて、対象の日常生活を援助する看護技術の原理や原則を学習する。
	到達目標	１．対象の日常生活上のニードを説明する。 ２．　安全、安楽および自立の考え方をふまえて、対象の食事、排泄、清潔・衣生活を援助する看護技術の原理や原則を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	身体の清潔の意義と清潔に関する基礎知識 身体の清潔のニードのアセスメント方法とアセスメントに基づいた清潔に関する看護技術（１）	［講義］身体の清潔・衣生活の意義および清潔に関する基本的な知識（身体の清潔を保持する行動と皮膚粘膜の状態等）を学習する。 身体の清潔のニードのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術（足浴・手浴・爪切り）について学習する。	鈴木
2	身体の清潔のニードのアセスメント方法とアセスメントに基づいた清潔に関する看護技術（２）	［講義］身体の清潔のニードのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術（全身・部分清拭、洗髪）について学習する。	井上
3	衣生活の意義と清潔に関する基礎知識 衣生活に関するニードのアセスメント方法とアセスメントに基づいた衣生活に関する看護技術	［講義］衣生活に関するニードのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術（寝衣の選択、寝衣交換）について学習する。	井上
4	排泄の意義と排泄に関する基礎知識	［講義］排泄の意義および排泄に関する基本的な知識（排泄行動・排泄のメカニズム等）を学習する。	鈴木
5	排泄のニードのアセスメント方法とアセスメントに基づいた排泄に関する看護技術	［講義］排泄に関するニードのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術について学習する。	鈴木
6	食生活の意義と食事および栄養に関する基礎知識	［講義］食生活の意義と食事および栄養に関する基本的な知識（食行動・栄養摂取のメカニズム等）を学習する。	内堀
7	食事に関するニードのアセスメント方法とアセスメントに基づいた食事に関する看護技術	［講義］食事に関するニードのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術（食事介助、口腔ケア）について学習する。	内堀
8	試験		鈴木

教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、２０２２年	参考書等	「基礎看護技術第８版」阿曽洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、２０１９年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」	評価方法	１．筆記試験（９０％） ２．学習態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	看護技術論Ⅱは、看護技術演習Ⅱと連動する科目構成となっている。生理的なメカニズムの理解が重要となるため教科書を用いて事前学習・事後学習はしっかり行うこと。看護職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重要視する。予習復習時間は、２３時間以上を必要とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護技術論Ⅲ（診断・検査時の援助）	科目責任者	内堀　真弓	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	診断・検査・治療における看護職の役割を理解し、必要となる看護技術の原理や原則を学習する。
	到達目標	１．診断・検査・治療における看護職の役割を説明する。 ２．診断・検査・治療に伴う看護技術の原理や原則を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	診察・検査における看護専門職の役割と責務 感染予防と滅菌物の取り扱いに関する看護技術（１）	［講義］診断・検査の意義・目的および安全・安楽かつ確実な診断・検査の実施に求められる看護専門職の役割・責務について学ぶ。 感染成立のメカニズム、感染予防のプロセスおよび滅菌物の取扱いの基本を学ぶ。	内堀
2	感染予防と滅菌物の取り扱いに関する看護技術（２）	［講義］導尿（膀胱留置カテーテル）に必要な看護技術を学ぶ。	内堀
3	感染予防と滅菌物の取り扱いに関する看護技術（３）	［講義］静脈血採血に必要な看護技術を学ぶ。	内堀
4	健康障害のある対象の診断・治療のための看護技術（１）	［講義］薬物療法の種類と目的および安全・安楽かつ確実な薬物療法（経口・口腔内与薬、直腸内与薬等）の実施に求められる看護技術を学ぶ。	小原
5	健康障害のある対象の診断・治療のための看護技術（２）	［講義］安全・安楽かつ確実な薬物療法（筋肉内注射、皮下注射および皮内注射）と輸血の実施に求められる看護技術を学ぶ。	小原
6	健康障害のある対象の診断・治療のための看護技術（３）	［講義］安全・安楽かつ確実な薬物療法（点滴静脈内注射）の実施に求められる看護技術を学ぶ。	小原
7	呼吸機能障害のある対象への看護技術	［講義］呼吸機能障害のある対象を理解し、酸素療法、吸引および吸入の目的および安全・安楽かつ確実な実施に求められる看護技術を学ぶ。	内堀
8	試験		内堀

教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、２０２２年	参考書等	「基礎看護技術第８版」阿曽洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、２０１９年 その他、必要時提示する。
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」	評価方法	１．筆記試験（９０％） ２．学習態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	看護技術論Ⅲは、看護技術演習Ⅲと連動する科目構成となっている。教科書および配付資料を活用し事前学習・事後学習はしっかり行うこと。看護職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重要視する。予習復習時間は、２３時間以上を必要とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護技術演習Ⅰ（生活環境の調整）	科目責任者	井上　育子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	生活環境の調整に関する看護技術について、対象のニードに合わせて提供する方法を習得する。
	到達目標	１．対象の健康状態や生活環境を観察する方法を習得する。 ２．対象の健康状態や生活環境をふまえて、環境調整、活動・休息援助、および安楽確保の看護技術を提供する方法を習得する。 ３．提供した看護技術についての自己の課題を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１・２	安全な技術の提供	[演習]　スタンダードプリコーションの考え方に基づいた感染予防方法を学習し、手指衛生および感染防護用具の使用方法について学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
３・４・５	生活環境の援助技術	[演習]　安全・安楽な技術提供をするためのボディメカニクスの基本を通して、対象者の生活環境の整備について学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
６・７・８	看護の対象を観察する技術	[演習]　バイタルサインの観察・測定の原理を通して看護の対象を観察する方法を学習する。	鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺
９・１０	活動・休息の援助技術①	[演習]　対象者の安全・安楽な活動・運動を援助するための体位変換について、ボディメカニクスを活用した方法を学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
１１・１２	活動・休息の援助技術②	[演習]　対象者の安全・安楽な移動・移送（車椅子・ストレッチャー）・歩行介助について、ボディメカニクスを活用した方法を学習する。	鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺
１３・１４	対象者のニードに応じた基本的援助方法のまとめ	[演習]　対象者のニードに応じた基本的援助方法のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
１５	試験		井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺

教科書	・「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、２０２２年 ・「はじめてのフィジカルアセスメント　第２版」横山美樹、メジカルフレンド社、２０１９年	参考書等	・「看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　第３版」角濱春美ほか編、メジカルフレンド社、２０２０年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「看護学概論」（見込み）	評価方法	１．技術試験（５０％） ２．事前・事後課題および演習参加態度（５０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	看護技術演習Ⅰは看護技術論Ⅰと連動する科目構成となっている。手順や留意点、および自分の身体の動かし方のイメージを持ち主体的に演習に臨むことが重要となる。看護技術論Ⅰの講義内容をよく復習し、かつWEB教材や書籍を活用して毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進めること。予習復習時間は１２時間以上を必要とする。スキルズラボ入室時は、ユニフォーム・名札・ナースシューズを着用し、常に身だしなみを整えること。アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護技術演習Ⅱ（日常生活援助）	科目責任者	鈴木　朋子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	日常生活援助に関する看護技術について、対象のニードに合わせて提供する方法を習得する。
	到達目標	１．対象の日常生活状況を観察し、ニードを把握する方法を習得する。 ２．対象の日常生活上のニードをふまえて、食事援助、排泄援助、および清潔・衣生活援助の看護技術を提供する方法を習得する。 ３．提供した看護技術についての自己の課題を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１・２	清潔の看護技術（１）	［演習］身体の清潔行為に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニードに応じた看護技術（足浴・手浴）を学習する。	鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺
３・４	清潔の看護技術（２）	［演習］身体の清潔行為に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニードに応じた看護技術（全身清拭）を学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
５・６	清潔の看護技術（３）	［演習］身体の清潔行為に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニードに応じた看護技術（洗髪台・洗髪車を用いた洗髪）を学習する。	井上・小原・内堀・鈴木・大串・小野寺
７・８	排泄の看護技術	［演習］排泄行動に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニードに応じた看護技術（便器・尿器を用いた床上排泄・陰部洗浄）を学習する。	鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺
９・１０	食事の看護技術	［演習］食事行動に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニードに応じた看護技術（食事介助、口腔ケア等）を学習する。	内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺
１１・１２	対象のニードに応じた基本的援助方法のまとめ（１）	［演習］対象のニードに応じた基本的援助方法のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を学習する（第1回）。	鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺
１３・１４	対象のニードに応じた基本的援助方法のまとめ（２）	［演習］対象のニードに応じた基本的援助方法のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を学習する（第2回）。	鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺
１５	試験		鈴木・小原・内堀・井上・大串・小野寺

教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、２０２２年	参考書等	「基礎看護技術第８版」阿曽洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、２０１９年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」	評価方法	１．技術試験（５０％） ２．事前・事後課題および演習参加態度（５０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	看護技術演習Ⅱは看護技術論Ⅱと連動する科目構成となっている。手順や留意点、および自分の身体の動かし方のイメージを持ち主体的に演習に臨むことが重要となる。看護技術論Ⅱの講義内容をよく復習し、かつWEB教材や書籍を活用して毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進めること。予習復習時間は、１２時間以上を必要とする。スキルズラボ入室時はユニフォーム・名札・ナースシューズを着用し、常に身だしなみを整えること。本科目は、アクティブ・ラーニングを活用して演習を行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護技術演習Ⅲ（診断・検査時の援助）	科目責任者	内堀　真弓	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	診断・検査・治療に必要となる看護技術について、対象の安全や安楽を確保して提供する方法を習得する。
	到達目標	１.診断・検査・治療が対象の安全や安楽に与える影響を説明する。 ２.診断・検査・治療が対象に与える影響をふまえて、治療や処置に必要な看護技術を安全および安楽に提供する方法を習得する。 ３.提供した看護技術について自己の課題を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	滅菌物の取り扱い(１)	［演習］診断・治療過程での感染予防の看護技術の中から、無菌操作の基本的な技術（鑷子・滅菌パック・滅菌包の取扱い、滅菌手袋の装着）を学ぶ。	内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺
２・３	滅菌物の取り扱い(２)	［演習］診断・治療過程での感染予防の看護技術の中から、無菌操作を基にした閉鎖式膀胱留置カテーテルセットの取り扱いの方法（膀胱留置カテーテル挿入時の対象者の体位、無菌操作による留置カテーテルの挿入と固定、蓄尿バックの取り付け、留置カテーテルの抜去）を学ぶ。	内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺
４・５	検体検査時の看護技術	［演習］検体検査時の看護技術の中から、静脈血採血の方法（真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による採血方法）を学ぶ。	内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺
６・７	薬物療法時の看護技術	［演習］薬物療法時の看護技術の中から、筋肉内注射の方法（無菌操作による注射器・注射針の取り扱い、注射部位の確認）を学ぶ。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
８・９	呼吸機能障害時の看護技術	［演習］呼吸機能障害時の看護技術の中から、酸素吸入・口腔・鼻腔の一時的吸引の方法（口腔内・鼻腔内吸引、酸素療法の種類）を学ぶ。	内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺
１０・１１	診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のまとめ（１）	［演習］診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を学習する（第1回）。	内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺
１２・１３・１４	診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のまとめ（２）	［演習］診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を学習する（第2回）。	内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺
１５	試験		内堀・小原・井上・鈴木・大串・小野寺

教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、２０２２年	参考書等	「基礎看護技術第８版」阿曽洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、２０１９年 その他、必要時提示する。
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」	評価方法	１．技術試験（５０％） ２．事前・事後課題および演習参加態度（５０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	看護技術演習Ⅲは看護技術論Ⅲと連動する科目構成となっている。手順や留意点、および自分の身体の動かし方のイメージを持ち主体的に演習に臨むことが重要となる。看護技術論Ⅲの講義内容をよく復習し、かつWEB教材や書籍を活用して毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進めること。スキルズラボ入室時は、ユニフォーム・名札・ナースシューズを着用し、常に身だしなみを整えること。予習復習時間は、１２時間以上を必要とする。アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護過程演習	科目責任者	小原　泉	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	看護過程を用いた看護展開の実際を学習する。
	到達目標	１．看護過程の意義と方法を説明する。 ２．事例に対する看護過程の各段階を説明する。 ３．事例に対する看護展開の実際について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	看護過程の意義と方法	科目ガイダンス [講義］看護過程とは何か、看護過程の展開の基盤となる考え方、問題解決過程およびクリティカルシンキングについて学習する。	小原
２・３	看護過程の各段階（１）	[講義、演習]看護過程の各段階① アセスメント（情報の収集と分析）の方法を学習する。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
４	看護過程の各段階（２）	[講義、演習]看護過程の各段階② アセスメント（関連図と全体像）の方法を学習する。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
５・６	看護過程の各段階（３）	[講義、演習]看護過程の各段階③ 看護問題の明確化の方法を学習する。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
７・８	看護過程の各段階（４）	[講義、演習]看護過程の各段階④および⑤ 看護計画実施および評価の方法を学習する。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
９・１０	看護過程の実際（１）	［演習］事例に対する看護過程の各段階の理解を深める。加えて、看護過程を用いた看護展開の実際について、模擬患者を導入したシミュレーションで学習する。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
１１・１２	看護過程の実際（２）	[演習］事例に対する看護過程の各段階の理解を深める。加えて、看護過程を用いた看護展開の実際について、模擬患者を導入したシミュレーションで学習する。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
１３・１４	看護過程の実際（３）	[演習］事例に対する看護過程の各段階の理解を深める。加えて、看護過程を用いた看護展開の実際について、模擬患者を導入したシミュレーションで学習する。	小原・内堀・井上・鈴木・大串・小野寺
１５	評価		小原

教科書	なし	参考書等	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[２]基礎看護技術Ⅰ」茂野香おるほか著、医学書院、２０２３年 「ナーシンググラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」松尾ミヨ子ほか著、メディカ出版、２０２２年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」	評価方法	１．事前・事後課題を含むレポート（８０％） ２．授業参加態度（２０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	看護過程は、看護を実践する上で不可欠な方法論である。人体の構造・機能や病態学など既習科目を復習しながら事前・事後の課題に緻密に取り組み、看護過程を用いた看護展開について日常生活援助実習の前に十分に理解できるよう学習を進めていくこと。予習や復習時間は、１２時間以上を必要とする。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	生涯発達看護論	科目責任者	春山　早苗	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	個体としての人間の生涯にわたる発達の概略を理解する。
	到達目標	１．成長・発達・成熟の概念を説明する。 ２．人間の生涯にわたる発達の概要を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	人間の生涯発達と看護 生涯発達の影響要因	［講義］生涯発達という見方と人類の進化と人間の成長・発達・成熟の概念、生涯発達の影響要因の概要、発達課題とは、生涯発達と看護実践との関連について学ぶ。	春山
2	周産期の発達課題と看護	［講義］周産期にある対象の成長・発達の特徴、発達課題と看護実践との関連について学ぶ。	川野
3	小児期の発達課題と看護	［講義］小児期にある対象の成長・発達の特徴、発達課題と看護実践との関連について学ぶ。	田村
4	成人期の発達課題と看護	［講義］成人期にある対象の成長・発達の特徴、発達課題と看護実践との関連について学ぶ。	村上
5	自己と言語の生涯発達	［講義］対象恒常性および自己感の発達ならびにコミュニケーションの基盤としての言語の生涯発達の概要について学ぶ。	大塚
6	老年期の発達課題と看護	［講義］老年期にある対象の成長・発達の特徴、発達課題と看護実践との関連について学ぶ。	浜端
7	認識と対人関係の発達 認知・思考・情動の生涯発達	［講義］共同注視および対人関係と社会性の生涯発達の概要について学ぶ。また、認知・思考・情動の生涯発達の概要の発達について学ぶ。	大塚
8	試験		春山

教科書	なし	参考書等	授業の中で紹介する。
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験(６０%) ２．授業の小レポート(４０%) ３．学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、看護学分野の基礎となる科目の一つである。予習として乳児から高齢者までさまざまな年齢の人の生活や特徴に注目して観察したり、それらの人々と接した体験を振り返ったりして授業に臨む。授業後は配布資料やノートで復習して学修を進めていくこと。古今東西の映画や演劇、小説などの登場人物の成長や発達を検討することや、学生自身の母子健康手帳、成長記録、アルバムなどを確認することも予習や復習となる。予習と復習はあわせて２３時間以上必要である。		

2025年04月11日　時点

授業科目	精神看護方法	科目責任者	路川 達阿起	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の具体的な方法について学習する。
	到達目標	１．精神疾患･障害の回復段階に応じた看護実践について説明する。 ２．主な精神疾患･障害、問題行動の特徴と看護過程について説明する。 ３．精神科領域の治療の基本と看護実践の原則について説明する。 ４．精神科における医療安全と治療的環境と看護実践の基本について説明する。 ５．精神障害者の人権と人権擁護活動と看護に関する倫理的課題について説明する。 ６．入院治療の可能性における看護実践の基礎を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１・２・３	精神疾患・障害の回復段階に応じた看護実践	［講義］当事者の希望に基づいた看護過程の展開について、急性期、回復期、慢性期という回復過程の特徴、リハビリテーションの特徴、就労支援の現状と課題を学習する。	路川
４・５	精神科領域の治療と看護実践	［講義］薬物療法の特徴と薬物療法を受けている人の看護について、心理社会的療法、集団療法（認知行動療法など）の特徴と看護職の役割を学習する。	永井
６	精神疾患・障害の受容過程	［講義］精神疾患・障害の受容過程における病識、薬物療法の必要性の理解、長期予後などを学習する。	路川
７・８	精神科における医療安全と治療的環境と看護実践	［講義］精神科における医療安全と治療的環境リスクとして、攻撃的な行動・暴力および自殺・自傷行為などの問題行動のアセスメントと危機介入の看護について学習する。	永井
９・10・11	主な精神疾患・障害、問題行動の特徴	［講義］主な精神疾患（不安障害・ストレス関連障害・身体表現性障害、総合失調症、気分障害、物質関連障害、器質障害）の経過、治療について学習する。	大塚
12	集団を対象とした看護および感情、認知および自我に焦点を当てた看護	［講義］集団力動の基礎および集団を対象とした看護方法、感情を表出し、コントロールするための援助、認知への働きかけと自我を強化するための援助方法について学習する。	路川
13	入院治療の可能性における看護実践	［講義］精神疾患・障害を持つ対象の入院治療の必要性、入院患者の特徴、入院形態、病棟環境の特徴、行動制限とリスクマネジメント、患者の人権擁護、チーム医療について学習する。	路川
14	精神障害者の人権擁護	［講義］患者の権利を擁護しつつも、適正な精神科医療サービス及び福祉サービスを提供するための必要な法制度、精神保健福祉法における保護者の義務の今日的課題、精神科医療が必要な精神障害者が係る課題を学習する。	永井
15	試験		

教科書	指定しない	参考書等	授業の中で紹介する。
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅱ」	評価方法	１．筆記試験　最終回（９０%） ２．e-learning の学習状況（１０%） ３．学習態度(減点法) 【評価のフォードバック方法】 学生に講評を行う。
備考	本科目は「地域精神看護方法」の内容と相互に関連して進行し、「精神保健看護実習」につながる基礎的な知識を整理するための重要な科目となる。事前準備（予習）では「実践基礎看護学概論Ⅱ」で学修した関連の知識の確認、事後の展開（復習）では授業のレジメや関連の資料を見直し、理解が不十分な箇所は教科書の関連の事項を読むこと、授業で紹介するwebsiteを参考にするなどし、必要とされる知識を整理しておくこと。また、予習および復習にあたり、アクティブラーニングを活用し、e-learningの課題に取り組み、理解の程度を確認することを勧める。以上の予習復習時間は４６時間以上が必要である。		

2025年04月11日　時点

授業科目	地域精神看護方法	科目責任者	路川 達阿起	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害から回復を促進する場と看護の具体的な方法について理解する。
	到達目標	１．精神の健康の増進および回復を促進する場について説明する。 ２．精神障害者の家族に対する看護実践について説明する。 ３．地域(在宅・学校・職場を含む)における看護実践について説明する。 ４．外来における看護実践について説明する。 ５．精神障害者の権利擁護に関する看護実践について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	地域精神看護とは	［講義］コースオリエンテーション 精神の健康の増進および回復を促進する場としての地域の考え方について理解する。	路川
2	精神障害者のリカバリーと包括的ケアマネジメント	［講義］精神障害者のリカバリーとそれを支える包括的ケアマネジメントおよび地域資源の活用と看護職の役割について理解する。	路川
3	精神障害者の地域生活を支える看護実践	［講義］訪問看護実践と精神科医療の外来(精神科デイケアを含む)における看護実践について理解する。	地神
4	精神障害者の家族に対する看護	［講義］精神障害者の家族の特徴および家族に対する看護について理解する。	路川
5	学校および職域における精神保健看護実践	［講義］思春期・青年期を中心とした学校および職場における精神的問題をもつ人に関するメンタルヘルス看護実践について理解する。	永井
6	精神障害者の権利擁護活動	［演習］設定した場面や状況における精神障害をもつ教育支援者との対話により権利擁護活動と看護実践について具体的に理解する。	路川
7	地域を基盤とした看護	［演習］地域のさまざまな資源を活用して生活する精神障害者(教育支援者)の話を聞き、精神的健康の維持･回復のための地域看護実践について理解する。	路川 地神・戸田
8	当事者組織の活動支援	［演習］精神障害者または家族等の当事者である教育支援者と組織支援者である非常勤講師の話を聞き、当事者活動を理解し、看護職としての組織支援について理解する。	土屋
9・10・11・12	事例を用いた看護計画の立案	［演習］地域で生活する精神障害者のグループ別に提示された事例についてアセスメントを行い、看護計画を作成する過程を通して、援助の優先性と具体的な援助方法を考える。	路川 地神・戸田
13・14	地域で生活する精神障害者の特性理解とその看護	［演習］地域で生活する精神障害者のグループ別に提示された施設についてアセスメントを行い、施設と施設利用者の特性を理解し、その場における看護実践を考える。	路川 地神・戸田
15	試験		

教科書	「障害者総合支援法とは　改訂第３版」 丸山晃監修、東京都社会福祉協議会、２０２０年 授業のなかで紹介するリストから、必ず１冊を購入する（「実践基礎看護学概論Ⅱ」で購入した教科書を含む）。	参考書等	・「病態・治療論［１２］　精神疾患改訂第２版」 編集: 加藤温/森真喜子, 南江堂, ２０２４. ・その他、適宜授業の中で紹介する
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅱ」	評価方法	１．e-learningおよびレポート課題（４０%） ２．学習状況・授業の参加状況・学習態度（３０%） ３．筆記試験（最終回）（３０%） 【評価のフォードバック方法】 学生に講評を行う。
備考	「精神看護方法」の内容と相互に関連して進行する。看護計画の立案は実習記録用紙等を使用し、事例を用いて行うものであり、当該年度の「精神保健看護実習」と連動している。 学習課題ごとに、アクティブラーニングを活用し、e-learning等により予習復習時間は１２時間以上行うことが求められる。		

2025年04月11日　時点

授業科目	公衆衛生看護活動論	科目責任者	塚本　友栄	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護、ヘルスケアシステムを整備したり機能させたりするための看護の実践方法を習得する
	到達目標	１．公衆衛生の理念と目標を追求する看護の実践方法を説明する。 ２．発達段階や生活集団の特性をふまえたヘルスケアシステム別の看護の実践方法を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１～３	母子保健福祉システムと看護の実践方法 学校保健システムと看護の実践方法	[講義] １）母子保健福祉にかかわる健康課題および個別支援方法について理解する。 ２）母子保健福祉にかかわるグループ・地区組織支援、システムづくり、地域づくりにおける保健師の役割と実践方法を理解する。 ３）学校保健にかかわる健康課題ならびに看護職の実践方法および養護教諭との連携につい理解する。	青木・安藤
４～６	成人・高齢者保健システムと看護の実践方法 産業保健システムと看護の実践	[講義] １）成人・高齢者保健にかかわる健康課題（健康づくり、生活習慣病予防、介護予防等）および保健師の実践方法を理解する。 ２）地域の特性に応じた成人・高齢者への看護の実践方法を学ぶ。 ３）産業保健にかかわる健康課題ならびに産業看護職の実践方法および行政保健師との連携について理解する。	塚本
７	在宅ケアシステムおよび介護支援システムと看護の実践方法	[講義] １）在宅療養者および家族の健康課題を理解する。 ２）在宅ケアシステムおよび介護支援システムにおける保健師の役割と実践方法を理解する。	安藤
８～９	障害者支援システムと看護の実践方法	[講義] １）障害者および家族の健康課題、障害者支援システムにおける保健師の役割と実践方法を理解する。 ２）地域の特性に応じた障害者への看護の実践方法と支援体制づくりについて学ぶ。	島田
１０～１１	難病療養者支援システムと看護の実践方法	[講義] １）難病療養者および家族の健康課題を理解する。 ２）難病療養者支援システムにおける保健師の役割と実践方法を理解する。	市川
１２～１４	感染症対策システムと看護の実践方法	[講義] １）感染症対策システムにおける保健師の役割を理解する。 ２）感染症発症時、並びに平常時における保健師の実践方法を学ぶ。 ３）結核対策、並びにエイズ対策における保健師の実践方法を学ぶ。	春山
１５	へき地医療保健福祉システムと看護の実践方法	[講義] １）へき地保健医療福祉システムにおける保健師の役割と実践方法を理解する。	青木
１６	試験		塚本

教科書	「最新公衆衛生看護学　第３版　各論１」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２５年版 「最新公衆衛生看護学　第３版　各論２」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２５年版 「国民衛生の動向２０２４/２０２５」厚生労働統計協会、２０２４年	参考書等	「保健学講座３公衆衛生看護活動展開論」村嶋幸代,　岸恵美子編、メヂカルフレンド社、２０２２年 「新版保健師業務要覧 第４版２０２５年版」井伊久美子他編、日本看護協会出版会、２０２５年 「国民の福祉と介護の動向２０２４/２０２５」厚生労働統計協会、２０２４年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」	評価方法	１．筆記試験（８５％） ２．課題提出物（１５％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	「保健医療福祉システム論」で得たヘルスケアシステムに関する知識と、「実践基礎看護概論Ⅲ」で得た公衆衛生看護のあり方に関する知識を基盤に、ヘルスケアシステム別の看護の展開方法を具体的に学ぶ。効果的に学ぶために、夏季休業中に予習課題を、開講後は実習に向けた復習課題を随時提示する。予習復習時間は４６時間以上。教科書、授業資料及びMoodle等を活用して行うこと。本科目の単位取得は「公衆衛生看護実習」の履修条件（見込み含む）である。		

2025年04月11日　時点

授業科目	公衆衛生看護方法論	科目責任者	青木　さぎ里	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	地域のヘルスニーズを明らかにし、地域の特性に合わせて公衆衛生の理念・目標を追求する看護を実践していく方法と技術を習得する。
	到達目標	１．地区活動および保健福祉事業の展開方法を説明する。 ２．既存資料や地区探査から実習市町の地域診断を行い、優先順位を付けて地域のヘルスニーズを説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	地区活動の展開方法の実際	［講義］地区活動計画づくり、地区活動計画のあり方や考え方について学ぶ。	青木
２	地区活動・地域診断に活用される理論	［講義］コミュニティ・アズ・パートナー･モデルやプリシード・プロシード・モデルなど、地区活動・地域診断に用いられる理論や地域把握の手法等について学ぶ。	青木
３・４	演習オリエンテーション 地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（１）	［演習］栃木県内の実習市町を例にして、地域のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
５・６	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（２）	［演習］地域診断に必要な情報の種類と、情報を収集する方法を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
７・８・９	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（３）	［演習］地域診断に必要な情報を整理し統合する方法を学ぶ。 図表を用いた情報の整理や解釈の方法を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
１０・１１・１２	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（４）	［演習］収集した情報から地域診断を行い、地域のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
１３・１４	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（５）	［演習］演習により明確にした実習市町のヘルスニーズについて、地区探査を通して得られた情報を追加し、実習市町の保健師から得た助言をもとに深める方法を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
１５	保健福祉事業の展開方法の実際（計画立案、評価）	［講義］地区活動方法と保健事業の成り立ち・展開方法について学ぶ。	青木

教科書	「最新公衆衛生看護学第３版総論２０２４年版」宮﨑美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２４年 「最新公衆衛生看護学第３版各論２　２０２５年版」宮﨑美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２５年	参考書等	「標準保健師講座〈1〉公衆衛生看護学概論」第６版、標美奈子著、医学書院、２０２２ 「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術」第５版、中村裕美子他著、医学書院、２０２３
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」	評価方法	１．演習態度および提出物（９０％） ２．講義において提出を求める記録物（１０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	公衆衛生看護活動において必要となる地区活動や地域診断の技術について実践的に学習する。 演習を効率的に実施するために、夏季休業中に予習課題を課す。演習で作成した地域診断等の資料について、公衆衛生看護実習に向けて復習を行うこと。予習復習時間は１２時間以上。演習内容は公衆衛生看護実習と連動しており、演習で取り組んだ地域診断について、実習を通して確認・修正し深める。演習はアクティブ・ラーニングを活用する。		

2025年04月11日　時点

授業科目	健康生活支援技術Ⅰ（個人・家族への看護実践）	科目責任者	青木　さぎ里	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	３年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	人々の保健行動の特性をふまえた健康問題の予防や健康の保持増進を図るための個人および家族を対象とした看護の方法を理解し、基本的な看護実践の技術を習得する。
	到達目標	１．人々の保健行動に関連した理論および保健指導の基本を説明する。 ２．家族を単位とした看護の方法について説明する。 ３．模擬事例の保健指導計画を立案し、ロールプレイを行い、他者評価もふまえて自己評価する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	保健指導のねらいと基本	［講義］保健指導の目的・目標、保健指導を実施する際の姿勢や信頼関係形成技術などの保健指導の基本を学習する。	塚本
2	人々の保健行動に関連した理論、行動変容を促す保健指導技術	［講義］Health Belief Model、Transtheoretical Model、自己効力理論等の人々の保健行動に関連した理論について学習する。行動変容を促す保健指導技術について学習する。	塚本
3	保健指導の実践方法	［講義］個別の保健指導事例、地区活動の一手段として行う健康相談事例、保健指導をポピュレーションアプローチと連動させた保健事業事例等をとおして、保健指導の実践方法を学習する。	塚本
4	家族を単位とした看護の方法	［講義］家族アセスメントとその基礎となる理論について学習する。健康課題をもつ家族員のいる家族の生活を理解し、家族を単位とした看護の実践方法について学習する。	青木
５・６	保健指導技術演習	［演習］保健指導技術演習オリエンテーション 模擬事例（生活習慣病・メタボリックシンドローム予備群）を用いて、健康レベルの高い対象の行動変容を促し、健康問題を予防するための保健指導計画の立案方法を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
7	保健指導技術演習	［演習］立案した保健指導計画に合わせて、ロールプレイを行い、行動変容を促す保健指導技術を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
8	保健指導技術演習	［演習］ロールプレイ演習の振り返りおよびグループ討議をとおして、保健指導において重要となることおよび健康問題の予防や健康の保持増進を図ることを目的とした看護の方法を学ぶ。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤

教科書	「最新公衆衛生看護学総論第３版２０２４年版」　宮﨑美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２４年	参考書等	「標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　第５版」中村裕美子他著、医学書院、２０２３年 「保健学講座２　公衆衛生看護支援技術」岸恵美子他編、メヂカルフレンド社、２０２２年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」	評価方法	１．演習記録物及び演習参加態度（８０％） ２．授業中に出す課題（１０％） ３．講義中のワークシート（１０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	生活習慣病やメタボリックシンドロームの疫学・成因・診断・病態・予防法・治療法について、予習した上で授業に臨むこと。「公衆衛生看護実習」の準備となる科目である。授業後は前学期及び後学期の実習における患者教育や保健指導に向けて復習をしっかり行うこと。予習復習時間は２３時間以上。演習はアクティブ・ラーニングを活用する。		

2025年04月11日　時点

授業科目	健康生活支援技術Ⅱ（集団への看護実践）	科目責任者	安藤　恵	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	アウトリーチ型の看護実践および生活集団を対象とした看護実践の技術を習得する。
	到達目標	１．保健師が行う家庭訪問および健康教育ならびにセルフヘルプ・グループづくりの意義ならびに実践方法を説明する。 ２．模擬事例の家庭訪問計画を立案し、ロールプレイを行い、他者評価もふまえて自己評価する。 ３．実習市町の住民の健康課題をふまえた健康教育を企画し、説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	ガイダンス 家庭訪問技術演習	［講義］家庭訪問技術演習オリエンテーション 家庭訪問の目的と特徴および家庭訪問に必要となる技術について学習する。	島田・春山・塚本・市川・青木・安藤
２	家庭訪問技術演習	［演習］模擬事例（乳児をもつ家庭）への家庭訪問計画の立案をとおして、家庭訪問計画を立案する方法を学ぶ。	島田・春山・塚本・市川・青木・安藤
３	家庭訪問技術演習	［演習］立案した家庭訪問計画に合わせて家庭訪問のロールプレイを行うことをとおして、家庭訪問技術を学ぶ。	島田・春山・塚本・市川・青木・安藤
４	家庭訪問技術演習 まとめ	［演習］ロールプレイ演習の振り返りおよびグループ討議をとおして、家庭訪問において重要となることならびに家族を単位とした看護実践方法およびアウトリーチ型の看護実践方法を学ぶ。	島田・春山・塚本・市川・青木・安藤
５	地区活動の一手段としての家庭訪問 セルフヘルプ・グループづくりと支援	［講義］保健師が行う家庭訪問と地区活動との関連について学習する。 セルフヘルプ・グループの特徴とグループ・ダイナミクス、並びに、グループづくりとグループへの支援について学習する。	春山
６	健康教育の目的と方法 健康教育の企画と評価	［講義］健康教育のパラダイムシフトおよびヘルスプロモーションの理念ならびにエンパワメントについて学習する。 健康教育の方法および特徴ならびに教育媒体について学習する。 健康教育の企画書および指導案の作成方法ならびに健康教育の評価方法について学習する。	塚本
７～１５	健康教育演習	［演習］健康教育演習オリエンテーション 実習市町の健康課題をふまえた健康教育を企画し、企画書及び指導案を作成する。また、企画した健康教育で用いる教育媒体を作成する。 企画した健康教育のリハーサルを行い、その結果に基づいて健康教育内容を洗練する。	安藤・春山・塚本・島田・市川・青木

教科書	「最新　公衆衛生看護学　第３版　総論　２０２４年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２４年	参考書等	「標準保健師講座２　公衆衛生看護技術　第５版」中村裕美子他著、医学書院、２０２３年 「保健学講座２　公衆衛生看護支援技術　第１版」岸恵美子他編、メヂカルフレンド社、２０２２年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」	評価方法	１．健康教育演習の参加態度と記録物（７０％） ２．家庭訪問技術演習の参加態度と記録物（３０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	対象の生活の場で行われる看護に必要な技術を、アクティブラーニングを活用した演習を通して学ぶ。後に続く公衆衛生看護実習では、学生の皆さんが実際に家庭訪問や健康教育を行う。演習を効果的に実施するために、夏季休業中に予習課題を課す。教科書の該当部分を読んで予習し、授業後は授業資料や教科書を活用して復習し実習に臨むこと。予習復習時間は１２時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	行政看護管理論	科目責任者	市川　定子	単位数	1.0	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	生活集団を対象とした看護領域における看護管理に必要な基本的知識および看護職の役割を理解し、その看護管理の方法の基本を習得する。
	到達目標	１．地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理の目的と方法の概要を説明する。 ２．公衆衛生看護実習で参加した事業の成果と課題の検討に基づき、ＰＤＣＡサイクルに基づく既存事業の改善や事業化の基本的な方法を説明する。 ３．地域ケアのシステム化および施策化のプロセスを説明する。 ４．学校や事業所を単位とした保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法の概要を説明する。 ５．住民グループの育成および支援の方法を説明する。

回数 （1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理の目的と方法、事業化のプロセス	［講義］行政看護領域における看護管理（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成、人事管理、情報管理）の目的と方法の概要を学習する。事業化のプロセスを学習する。	市川
2	システム化および施策化のプロセス	［講義］地域ケアのシステム化および施策化のプロセスについて学習する。	市川
３・４	学校保健システムに関わる看護職の管理的活動	［講義］学校を単位とした保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。	青木
5	保健事業企画評価演習（1）	［演習］演習オリエンテーション 演習で取り組む保健事業を選定し、事業の実施方法、成果や課題を整理することを通して、地方自治体における保健事業の展開方法を学習する。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
6	保健事業企画評価演習（2）	［演習］対象とする事業の必要性を、地域診断、法的根拠、当該自治体の施策における事業の位置づけ、事業開始の契機・理由から検討することをとおして、ＰＤＣＡサイクルに基づく既存事業の改善や事業化の基本的な方法を学習する。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
７・８	産業保健システムに関わる看護職の管理的活動	［講義］事業所を単位とした保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。	伊藤
９～１２	保健事業企画評価演習（3）	［演習］演習で取り組んだ事業評価の結果について、対象を住民および他職種と想定してプレゼンテーションする。プレゼンテーションをとおして、住民および他職種に説明する目的や留意点を学習する。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
１３・１４	住民グループの育成および支援	［演習］住民の自主グループづくりの事例を素材として、住民グループの育成および支援の方法ならびに地域資源として発展させる方法を学習する。	青木・春山・塚本・島田・市川・安藤
１５	試験		

教科書	「最新公衆衛生看護学　第３版　各論１」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２４年版 「最新公衆衛生看護学　第３版　各論２」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２４年版	参考書等	「保健学講座２　公衆衛生看護支援技術」岸恵美子他編、メヂカルフレンド社、２０２４年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「公衆衛生看護実習」	評価方法	１．筆記試験（５０％） ２．演習態度及び演習の提出物（５０％） 【評価のフィードバック方法】 １．模範解答等を掲載する　２．学生に講評する
備考	これまでの公衆衛生看護学の講義・演習・実習科目の学びを踏まえて、市町村、保健所、学校や事業所における看護管理活動に焦点をあてて学習する。公衆衛生看護実習の各フィールドでの学習を振り返り、教科書の該当部分を読んで授業に臨むこと。第７回～第１２回については、公衆衛生看護実習（市町）における「保健事業の展開方法に関する学習」を素材に学習を深める。演習課題への取り組みと教員の助言・指導を踏まえて復習すること。予習復習時間は１２時間以上。アクティブラーニングを活用すること。		

2025年04月11日　時点

授業科目	地域健康危機管理論	科目責任者	島田　裕子	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の役割、健康危機の種別に応じた実践方法を理解し、地域の健康危機管理における自治体保健師の実践方法の基本を習得する。
	到達目標	１．地域の健康危機管理の概念、活動体制と自治体保健師の役割を説明する。 ２．地域における健康危機の種別（感染症・児童虐待・DV・自然災害、放射線災害など）に応じた、また平時および発生後の各フェーズに応じた自治体保健師の実践方法を説明する。 ３．地域の健康危機管理における自治体保健師の実践方法の基本を習得する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	地域の健康危機管理とは	［講義］健康危機の概念、健康危機管理の概念、地域の健康危機管理体制、地域の健康危機管理における自治体（都道府県・市町村）保健師の役割を学習する。	島田
２	感染症健康危機管理における保健所保健師の役割と実践方法（１）	［講義］感染症健康危機の特徴、初動期・対応時・終息後～平時の保健所保健師の実践について、情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。	春山
３～６	感染症健康危機管理における保健所保健師の役割と実践方法（２）	［演習］演習オリエンテーション 感染症集団発生事例のケースメソッドにより、初動期・対応期・終息後～平時の保健所保健師の実践方法を具体的に考える。	春山・塚本・島田・市川・青木・安藤
７・８	自然災害にかかわる自治体保健師の役割と実践方法（１）	［講義］災害時に対応した看護職の話を聞き、自治体保健師の実践方法について考える。 自然災害の種別による特徴、平時および発生後の各フェーズにおける被災者の支援ニーズと自治体保健師の実践について、情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。	島田
９・１０	自然災害にかかわる自治体保健師の役割と実践方法（２）	［演習］演習オリエンテーション 自然災害発生時事例のケースメソッドにより、発生時フェーズ毎の自治体保健師の実践方法を具体的に考える。	島田・春山・塚本・市川・青木・安藤
１１・１２	児童虐待およびDVの予防対策と発生時対応に関わる自治体保健師の役割と実践方法	［講義］児童虐待のアセスメント、予防対策と発生時対応にかかわる自治体保健師の役割と実践方法について学習する。 DVの予防対策と発生時に関わる自治体保健師の役割と実践方法について学習する。	春山・島田
１３・１４	放射線災害に関わる自治体保健師の活動方法	［講義］放射線災害にかかわる自治体保健師の役割と活動方法について学習する。 ［演習］放射線災害の被災者の話を聞き、放射線災害に関わる自治体保健師の活動方法を考える。	島田 島田・春山・塚本・市川・青木・安藤
１５	試験		島田

教科書	「最新　公衆衛生看護学　第３版　総論　２０２３年度版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２３年 「最新　公衆衛生看護学　第３版　各論１／各論２　２０２４年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、２０２４年	参考書等	「公衆衛生看護学テキスト　第３巻　公衆衛生看護活動Ⅰ　第２版」岡本玲子編、医歯薬出版株式会社、２０２２年 「保健学講座２　公衆衛生看護支援技術　第１版」岸恵美子他編、メジカルフレンド社、２０２２年 「みんなで取り組む災害時の保健・医療・福祉活動　１版」國井修他編、南山堂、２０２２年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」	評価方法	１．演習の参加態度、記録物（５０%） ２．試験（５０%） 【評価のフィードバック方法】 １．学生に講評する　２．模範解答等を掲載する
備考	講義とアクティブラーニングを活用した演習を組み合わせることにより、到達目標の達成を目指す。３年次後学期の公衆衛生看護活動論と公衆衛生看護実習で学習した行政看護職の活動を振り返るとともに、教科書も活用して演習前の予習課題に取り組み授業に臨むこと。授業後は授業資料や教科書を用いて復習すること。予習復習時間は４６時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護倫理学	科目責任者	小原　泉	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	保健医療福祉の場で生じる倫理的課題を理解し、対象の尊厳や人権を擁護して看護職の責務を果たすための基本的能力を養う。
	到達目標	１.看護実践に関わる倫理原則の意義と課題を説明する ２.看護実践に関わる倫理に関連深い概念を説明する ３.保健医療福祉の場における看護実践上の倫理的課題に気づき、説明する ４.保健医療福祉の場における看護実践上の倫理的課題に取り組む方法について、考えを述べる

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	倫理と生命倫理	[講義]倫理および生命倫理とは何か、人間の権利と生命倫理の原則について学習する。	小原
２	専門職の倫理	[講義]「ICN看護師の倫理綱領」や「看護者の倫理綱領」をはじめとする看護職の専門職倫理について学習する。	小原
３	看護実践上の倫理的概念（１）	[講義]インフォームドコンセントおよび守秘義務・個人情報保護の概念と看護者の役割について学習する。	小原
４	看護実践上の倫理的概念（２）	[講義]アドボカシー、責務/アカウンタビリティおよび協同/協力の概念と看護者の役割について学習する。	小原
５	ケアの倫理	[講義]ケアとは何か、ケアの倫理について学習する。	加藤
６	終末期ケアをめぐる倫理的課題	[講義]終末期ケアおける倫理的課題について学習する。	加藤
７	先端医療をめぐる倫理的課題	[講義]先端医療をめぐる倫理的課題について学習する。	小原
８	看護実践における倫理的問題へのアプローチ	[講義]看護実践上の倫理的問題の特徴と、倫理的問題を捉え調整していく方法について学習する。	小原
９・１０	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（１）	[演習]グループワークとディスカッションによる事例検討（１） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。	加藤・小原
１１・１２	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（２）	[演習]グループワークとディスカッションによる事例検討（２） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。	加藤・小原
１３・１４	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（３）	[演習]グループワークとディスカッションによる事例検討（３） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。	加藤・小原
１５	評価		小原

教科書	指定なし	参考書等	「医療倫理学のＡＢＣ第４版」 服部健司・伊東隆雄編著、メヂカルフレンド社、２０１８年 「系統看護学講座別巻看護倫理」宮坂道夫他、医学書院、２０１８年
履修条件	なし	評価方法	１.課題レポート（８０％） ２.学習態度（とくにグループワークやディスカッションの参加態度）（２０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	看護倫理学は覚える教科ではなく、思ったことを言葉にして自ら考えていくことが求められる。配付資料や参考書等を活用して予習・復習を十分行い、グループワークやディスカッションに積極的に取り組み、自らの考えを深めること。予習復習時間は、４６時間以上を必要とする。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護管理学	科目責任者	浜端　賢次	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	医療の質の向上・効率化を目指した他職種協働による看護ケア提供システムのありかた、看護者としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解し、相談、調整、教育、意思決定などの臨床実践能力を構築するための理論や方法を体系的に習得する。
	到達目標	１．看護管理の基礎概念および基礎的理論を理解する。 ２．チーム医療メンバーの一員としてより質の高い看護ケアを提供するための仕組みを理解する。 ３．看護管理の実際を学び、看護部門を構成する看護メンバーシップの責務と役割を理解する。 ４．看護を取り巻く多様な状況から、看護管理の直面する課題とその背景を理解する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	看護管理学の概念・基礎的理論	［講義］看護管理の概念・基礎的理論について学習する。	浜端
2	看護組織論・看護マネジメント論（１）	［講義］質の高い看護を提供するためのしくみとチームマネジメント方法について学習する。	福田
3	看護組織論・看護マネジメント論（２）	［講義］質の高い看護を提供するためのしくみとチームマネジメント方法について学習する。	福田
4	看護の質保証と人材育成-キャリア形成とその支援	［講義］質の高い看護を提供するための教育体制と、専門職としてのキャリア形成と組織におけるキャリア開発について学習する。	茂呂
5	看護管理の実際（１） -情報活用と管理-	［講義］看護における情報の活用と管理について学習する。	下田
6	看護管理の実際（２）	［講義］介護保険施設や高齢者関連施設における看護管理の実際と課題について学習する。	川上
7	看護管理の実際（３）	［講義］二次医療機関や訪問看護ステーションにおける看護管理の実際と課題について学習する。	浜端
8	評価	レポートによる評価。	浜端

教科書	「系統看護学講座　看護の統合と実践（１）看護管理」上泉和子編、医学書院、２０２４年	参考書等	適宜呈示する。
履修条件	なし	評価方法	１．課題レポート（６０％） ２．毎回の講義についての意見の表明の評価（４０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	看護・病院管理者として多様な場で活躍している方々を非常勤講師としてお迎えする。看護への熱い思いを通して看護管理を学び、毎回の受講票を活用した復習で自分の看護についての考えを深める。講義では、アクティブラーニングを活用する。予習復習に要する時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	看護政策学	科目責任者	春山　早苗	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	政策決定過程を理解するとともに、わが国の保健医療福祉介護政策の現状および課題ならびに看護やケアに関連した経済的・政策的課題を理解し、その課題を解決していくための視野をもつ。
	到達目標	１．国および都道府県の保健医療福祉介護政策の現状と課題ならびに保健医療福祉介護サービスと経済との関連を説明する。 ２．政策決定過程を説明する。 ３．看護政策の現状および課題ならびにこれらをふまえた看護職の役割を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	政策とは わが国の保健医療福祉介護政策の現状と課題 保健医療福祉介護サービスと経済	[講義] 政策とは何か、について学習する。 わが国の保健医療福祉介護政策に関わる社会経済的背景、組織運営等の現状と課題を学習する。 社会保障費や国民医療費の現状と課題を理解し、保健医療　福祉介護サービスと経済との関連を学習する。また、費用効果、費用効用、費用便益について学習する。	春山
2	看護制度 政策決定過程	[講義] 看護制度の変遷と看護に求められる社会的責務を理解する。 政策決定過程について学習する。	春山
3	保健師助産師看護師法 看護政策の現状と課題１	[講義] 保健師助産師看護師法とそれに関連する法令について学習する。また、政策決定過程の実際を学習する。 看護基礎教育の充実に向けた検討等をとおして現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、看護における政策の必要性と重要性について考える。	春山
4	看護師等の人材確保の促進に関する法律	[講義] 看護師等人材確保の促進に関する法律および看護職員確保対策等の政策決定過程の実際を学習する。	春山
5	看護政策の現状と課題２ 政策策定過程への参画	[講義] 看護職員の需給見通しに関する検討、新人看護職員研修やチーム医療の推進に関する検討などをとおして、現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、政策策定過程への看護職の参画の重要性について考える。	春山
6	都道府県における保健医療福祉介護政策と看護政策１	[講義] 都道府県における保健医療福祉介護政策の現状と課題ならびに公衆衛生活動や医療法などと看護政策との関連を考える。	市川
7	都道府県における保健医療福祉介護政策と看護政策２	[講義] 都道府県における保健医療福祉介護政策の現状と課題ならびに公衆衛生活動や医療法などと看護政策との関連を考える。	市川
8	試験		春山

教科書	なし	参考書等	なし
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「保健医療福祉システム論」	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．授業中に提出を求める記録物（２０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	「保健医療福祉システム論」で学修したわが国のヘルスケアシステム、並びに、「看護学概論」で学修した看護の変遷と役割について、よく復習するとともに、看護あるいは看護職にかかわる政策について、マス・メディア等から最近の動向を調べて授業に臨むこと。授業後は、授業で学んだことを看護あるいは看護職にかかわる政策の動向に照らし合わせながら復習し学修を進めていくこと。予習復習時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	国際看護論	科目責任者	江角　伸吾	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者	市川　定子	時間数	１５	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	世界の健康問題および世界における安全保障ならびに国際協力のしくみを理解し、グローバルな視点で看護のあり方や実践方法を考える。
	到達目標	１．世界の健康問題および世界における安全保障について説明する。 ２．国際協力のしくみを説明する。 ３．グローバルな視点で看護のあり方や実践方法について意見を述べる。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	世界の健康問題 世界における安全保障 国際協力のしくみ 国際看護の目的	［講義］世界の健康問題および途上国の保健医療問題と自然環境・社会環境・地球環境との関連を学習する。 開発・プライマリヘルスケア・人間の安全保障と持続可能な開発目標を学習する。 国際協力諸機関と協力のしくみについて学習する。 以上を踏まえ、国際看護の目的について考える。	江角
2	在日外国人の現状と看護 国際的な看護職能組織 世界の看護学教育の現状と国際的学術団体	［講義］在日外国人の現状と国際化に対応した看護のあり方や活動方法を考える。 国際看護師協会(ICN)、日本および世界における看護学教育の概要、看護の国際学術団体および学術集会について理解し、看護学の発展に関する課題を考える。	江角
3	世界の感染症の動向と対策	［講義］世界の感染症の動向及び国際保健における感染症対策の実際を通して、国際保健における感染症対策の重要性考える。	春山
4	国際協力活動の実際１	［講義・演習］現場で起こった外国人患者とのトラブルから病院でのコミュニケーション方法について考える。	江角
5	看護の国際化に関する現状と課題	［演習］異文化を知り、異文化を受け入れることがどういうことか体験を通して考える。	江角
6	国際協力活動の実際２	［講義］途上国における感染症対策支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。	江角
7	国際協力活動の実際３	［講義］途上国におけるヘルスプロモーション支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。	江角
8	試験		江角

教科書	「国際看護学　第２版」日本国際看護学会編集、医学書院、２０２０年	参考書等	「国際保健医療学　第３版」日本国際保健医療学会編、杏林書店、２０１３年 「国際看護－国際社会の中で看護の力を発揮するために－」森淑江他著、南江堂、２０１９年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（６０％） ２．授業中に提出を求める記録物（４０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	公衆衛生看護活動の展開方法（PDCAサイクル）を復習するとともに、教科書の該当部分を事前に読んで授業に臨むこと。授業後は、教科書や配付資料で復習し、看護が対応する問題と看護の役割を考えながら学習を進めていくこと。予習復習時間は２３時間以上。グローバルな視点をもち、看護専門職としての視野と可能性を広げることにつながる科目である。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

看　護　学　分　野

発達過程に焦点をあてた看護実践

2025年04月11日　時点

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）	科目責任者	角川　志穂	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	・周産期にある母子とその家族の支援における母性看護の役割と機能を理解する。 ・周産期・育児期の保健医療福祉の動向を知る。 ・周産期・生殖医療と法的・倫理的課題について考える。
	到達目標	１．妊娠・分娩・産褥の基礎となる女性の身体的状況を説明する。 ２．家族形成期にある母子と家族について、基礎となる概念や理論を説明する。 ３．周産期・育児期の保健医療福祉の動向とその支援システムについて説明する。 ４．周産期・生殖医療と法的・倫理的な課題について表現する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	周産期における母性看護において基礎となる概念と理論	[講義]周産期における母性看護の必要性とその役割について、基礎となる概念や理論を通じて学ぶ。	角川
2	家族形成期の母子と家族	[講義]家族形成期の母子と家族の変化とその促進・阻害要因について学ぶ。	角川
3	周産期・育児期の保健医療福祉の動向とその支援システム	[講義]周産期・育児期の保健医療福祉の動向とその支援システムについて学ぶ。	角川
4	妊娠・分娩・産褥の基礎となる女性の身体的状況	[講義]妊娠・分娩・産褥の基礎となる女性の身体的状況について学ぶ。	角川
5	妊娠・分娩・産褥の基礎となる女性の身体的状況	[講義]妊娠・分娩・産褥の基礎となる女性の身体的状況について学ぶ。	角川
6	周産期における生と死	[講義]周産期における生と死について考える。	角川
7	周産期・生殖医療と法的・倫理的な課題	[演習]周産期・生殖医療と法的・倫理的な課題について、演習を通して学ぶ。	角川・千葉・岡村・二宮
8	評価		角川

教科書	「母性看護学Ⅰ　概論・ライフサイクル改訂第２版　生涯を通じた性と生殖の健康を支える」斎藤いずみ他編集，南江堂，２０１８	参考書等	適宜指定する
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（６０％） ２．課題レポート（４０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	・周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱ、周産期看護実習の履修へとつながる、基盤となる科目である。 ・演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。 ・講義を受けるにあたり単元の内容に関する予習を行い、講義終了後は知識が新しいうちに復習をしっかり行い、自ら積極的に学ぶことを望む。 ・予習復習時間は23時間以上とする。

2025年04月11日　時点

授業科目	周産期実践看護学Ⅰ（妊娠・分娩期）	科目責任者	谷田部　典子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	周産期（妊娠・分娩（胎児）期）の母児とその家族の健康について理解し、必要な看護を学ぶ。
	到達目標	１．妊娠・分娩（胎児）期の母子の生理的変化とセルフケア支援の必要性について理解し、その時期にある母子と家族への看護について説明する。 ２．妊娠・分娩（胎児）期のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子と家族への看護について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１・２	妊娠期の母子（妊婦と胎児）の身体的・心理的変化	［講義］妊婦の身体的・心理的変化、胎児の成長・発達について学ぶ。	谷田部
３・４	妊娠期にある女性への看護とセルフケアの必要性	［講義］妊婦健診で行われている看護と支援ついて学び、セルフケアの必要性について考える。	谷田部・上野
５・６	分娩期の母子の身体的・心理的変化	［講義］分娩期の母子の身体的・心理的変化について学ぶ。	二宮
７・８	分娩期にある産婦と家族への支援	［講義］分娩経過に影響を及ぼす因子と、分娩が母体と胎児に及ぼす影響を学ぶ。また、産婦とその家族に対する分娩期の支援について学ぶ。	谷田部
９・１０	ハイリスク状態にある妊産婦と家族への看護	［講義］妊娠期・分娩期に起こるうる正常からの逸脱について理解し、その治療や看護について学ぶ。	谷田部
１１・１２	妊娠期の看護過程の展開	［演習］順調に妊娠期を過ごすために必要な妊婦（胎児）と家族への看護について、事例に基づいて展開し、実践的に学ぶ。	谷田部、角川、川野、上野、千葉、二宮、岡村
１３・１４	妊婦・産婦（胎児）のアセスメントに必要な看護技術と支援方法	［演習］妊産婦と胎児の健康状態をアセスメントするための観察項目とその方法について、実践的に学ぶ。	谷田部、角川、川野、上野、千葉、二宮、岡村
１５	妊娠・出産・育児における母子の支援ニーズへの理解	［講義・演習］妊娠・出産・育児における母子とその家族のニーズを理解し、妊娠期に行う支援を考える。（グループワーク）	谷田部
１６	試験		谷田部

教科書	「母性看護学テキストNice　母性看護学Ⅱマタニティーサイクル母子そして家族へのよりよい看護実践」改定第３版　大平光子他編集　南江堂、２０２２年 「根拠がわかる母性看護技術」 中村幸代編集 南江堂、２０２４年	参考書等	「病気がみえるvol.１０　産科　第４版」メディックメディア、２０１８年 「根拠がわかる母性看護過程」第３刷 中村幸代編集 南江堂、２０２０年
履修条件	「生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）」	評価方法	１．筆記試験（６０％） ２．課題（３０％） ３．学習態度（１０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する 模範解答等を掲載する
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）で学んだことを復習し、各回の講義の前には、関連する部分について教科書を読んでくる。演習ではアクティブラーニングを活用する。毎回の講義、演習で学んだことを復習して、次回の講義や演習に臨む。予習復習時間は１２時間以上とする。 周産期看護実習の履修には、本科目の単位取得が履修条件となっている。		

2025年04月11日　時点

授業科目	周産期実践看護学Ⅱ（産褥期・新生児期）	科目責任者	角川　志穂	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	周産期（産褥期・新生児期）の母子とその家族の健康について理解し、必要な看護を学ぶ。
	到達目標	１．産褥・新生児期の母子の生理的変化を理解し、生理的変化を促進する看護について説明する。 ２．産褥・新生児期のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子とその家族への看護について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	産褥早期の女性の身体的・心理的変化と看護	[講義]産褥早期の母体の正常な身体的・心理的な変化について理解し、その時期の女性が抱えやすい健康問題や不安とそれに対する看護について学ぶ。	角川
2	産褥期にある母親の母乳育児支援	[講義]母乳分泌の時期を理解し、母乳分泌促進や乳房のセルフケアについて理解し、母乳育児確立に向けた支援について学ぶ。	角川
3	出生直後の新生児の生理的な適応と蘇生	[講義]出生直後の新生児蘇生のための基礎的知識を理解し、出生直後からの胎外生活適応安定化に向けたケアについて学ぶ。	千葉
4	早期新生児期のアセスメント方法と支援	[講義]早期新生児期の正常な生理的・身体的変化を理解し、正常からの逸脱の予防や早期対処としての看護について学ぶ。	角川
5	早期新生児期のアセスメント方法と支援	[講義]早期新生児期の正常な生理的・身体的変化を理解し、正常からの逸脱の予防や早期対処としての看護について学ぶ。	角川
6	帝王切開で出産した褥婦の看護	[講義]帝王切開で出産した褥婦の看護について学ぶ。	角川
7	ハイリスク状態にある新生児と家族への支援	[講義]NICUに入院している新生児とその家族に対する看護について学ぶ。	角張
８～９	早期産褥・新生児期（施設入院中）のアセスメントに必要な看護技術と支援の方法	[演習]褥婦と新生児の健康状態をアセスメントするための観察項目とその方法や、産褥入院中の看護について、実践的に学ぶ。	角川・川野・上野・千葉・谷田部・岡村・二宮
１１～１５	産褥・新生児期にある母子と家族への看護過程の展開	[演習]産褥・新生児期にある母子とその家族の事例を通して看護計画立案を行い、褥婦・新生児のアセスメントを実践的に学ぶ。	角川・上野・千葉・谷田部・岡村・二宮
１６	試験		角川

教科書	「看護学テキストNiCE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル」大平光子他編　南江堂、２０２２年 「根拠がわかる母性看護技術」、中村幸代編、南江堂、２０２４年	参考書等	「母乳育児支援スタンダード」第２版、医学書院、２０１５年 「改訂第４版日本版救急蘇生ガイドライン２０２０に基づく新生児蘇生法テキスト」細野茂春監修、メジカルビュー、２０２１年 「新生児学入門」仁志田博、医学書院、２０１８年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）」	評価方法	１．筆記試験（７０％） ２．看護過程展開レポート（３０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）、周産期実践看護学Ⅰで学んだことを復習した上で講義・演習に臨むこと。 演習の予習として事前課題が提示されるので、必ず課題に取り組み演習に参加すること。１０～１５回で行う看護過程の展開では、生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）、周産期実践看護学Ⅰで学んだ知識、本科目で学んだ知識が必要となるため、十分に復習して臨むこと。予習復習時間は１２時間以上とする。 演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。 周産期看護実習の履修には、本科目の単位取得が履修条件となっている。		

2025年04月11日　時点

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）	科目責任者	田村　敦子	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	子ども（出生から成人に達するまでの人）を総合的に理解し、小児看護の役割を学習する。
	到達目標	１．小児看護の対象としての子どもを説明する。 ２．小児保健医療や小児看護の変遷について説明する。 ３．子どもの権利を説明する。 ４．子どもを取り巻く環境および子どもの生活について説明する。 ５．小児期（新生児・乳児・幼児・学童期・思春期）の成長発達を生活の側面から説明する。 ６．子どもと親・家族の相互作用が子どもの健康に及ぼす影響を説明する。 ７．子どもの健康を支えるための看護職の役割について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	小児看護の理念と対象 小児医療と小児看護の変遷	［講義］小児看護の理念と対象としての子どもの捉え方、および、小児保健医療・小児看護の変遷を学習する。	田村
２	小児看護における倫理と子どもの権利	［講義］子どもの権利について理解し、小児看護を行う上での倫理について学習する。	飯島
３～７	子どもの成長発達と生活　-乳幼児期から学童・思春期における成長発達と生活-（１）	［講義］乳幼児期から学童・思春期における成長発達や生活を子どもを取り巻く環境および生活行動の側面から学習する（①～⑤）。	田村
８・９	子どもの成長発達と生活　-乳幼児期から学童・思春期における成長発達と生活-（２）	［講義］乳幼児期から学童・思春期における成長発達や生活を子どもを取り巻く環境および生活行動の側面から学習する（⑥～⑦）	小西
１０	子どもの成長発達と生活　-乳幼児期から学童・思春期における成長発達と生活-（３）	［講義］子どもの成長発達についての評価方法を学習する。	田村
１１	子どもの成長発達の評価	［演習］子どもの成長発達についての評価方法の実際を学習する。	田村
１２	子どもの食の発達	［演習］乳幼児期の子どもの食の発達を離乳食の試食を通して学習する。	小西・飯島
１３	健康や病気に対する子どもと親・家族の健康・病気・死に対する認識や体験	講義］子どもが自分自身の健康や病気をどのように認識するか、また、家族が子どもの健康や病気をどのように認識するかを学習する。	田村
１４	小児看護の役割と看護実践	［講義］小児看護の役割と看護実践の特徴を学習する。	田村
１５	評価	試験	田村

教科書	「ナーシンググラフィカ　小児看護（１）小児の発達と看護」第７版、中野綾美他著、メディカ出版、２０２３年	参考書等	「国民衛生の動向２０２５/２０２６年版」 厚生統計協会編集、厚生統計協会、２０２５年
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（７５％） ２．課題レポート（２５％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	生涯発達看護論の小児期における成長発達の見方を用いながら進めていく。生涯発達看護学概論Ⅱは、小児看護学の導入であり基礎となる科目である。学生自身の成長発達を振り返りながらグループディスカッションなどを用いて行う。各授業で課題を出し、次の授業で確認をする。予習復習時間は４６時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	小児実践看護学Ⅰ（小児保健）	科目責任者	小西　克恵	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	子どもの最良の健康状態を保持・増進するための看護実践および日常的な健康問題に対しての看護実践を学習する。
	到達目標	１．小児各期（乳児・幼児・学童期・思春期）における特徴的な生活援助の方法を説明する。 ２．子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理のあり方や看護実践について政策などの観点も踏まえて説明する。 ３．親・家族の育児上の問題について説明する。 ４．小児期の日常的な健康問題と看護実践を説明する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	子どもの健康の保持・促進（１）	［講義］子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護実践について政策を踏まえて学習する。（乳幼児健診と予防接種）	小西
2	子どもに特徴的な健康問題と看護実践(１)	［講義］子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。(発熱や発疹と感染症)	飯島
3	親・家族への育児支援(乳幼児虐待予防)	［講義］乳幼児虐待の定義や現状について理解し、予防と政策等の観点を踏まえて学習する。	朝野
4	子どもに特徴的な健康問題と看護実践(２)	［講義］子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。(下痢・嘔吐・脱水と感染症)	小西
5	子どもに特徴的な健康問題と看護実践(３)	［講義］子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。（アレルギー疾患）	小西
6	子どもの健康の保持・促進（２）	［講義］子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護実践について政策を踏まえて学習する。（学童・思春期に起こりやすい問題と学校健診）	小西
7	子どもの健康の保持・促進（３）	［講義］子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護実践について政策を踏まえて学習する。（事故と応急処置）	小西
8	試験		小西

教科書	「ナーシンググラフィカ　小児看護（１）小児の発達と看護」第７版、中野綾美他著、メディカ出版、２０２３年 「ナーシンググラフィカ　小児看護（３）小児の疾患と看護　第３版」、中村友彦、西沢博子編、メディカ出版、２０２３年	参考書等	「子どもの保健　第７版」巷野悟郎編著、診断と治療社、２０１７年 「日本子ども資料年鑑〈２０２５〉」日本子ども家庭総合研究所編、KTC中央出版、２０２５年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」	評価方法	１．筆記試験（１００％） ２．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	生涯発達看護論および生涯発達看護学概論Ⅱにおける小児の成長発達の考え方を用いながら進めていく。また、この後の小児実践看護学Ⅱ・Ⅲの基本となっていく科目である。グループディスカッションを含めた教育方法を用いて授業を展開する。授業の中で課題を出し、次の授業で確認をしながら進めていく。予習復習時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	小児実践看護学Ⅱ（急性状況・看護技術）	科目責任者	飯島　早絵	単位数	1.0	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	健康課題をもつ子どもに対する特徴的な生活の援助の方法を学習する。また、小児期に特有の健康問題や日常起こりうる生命の危機状態にある子どもや家族への援助を学習する。
	到達目標	１．小児期に特徴的な診療（治療・処置・検査・診察）上の看護実践を説明する。 ２．小児各期における特徴的なヘルスアセスメントの技術について習得する。 ３．生命の危機状態にある子どもへの的確な心肺蘇生を実施する方法を習得する。 ４．小児各期に特有な健康問題の症状を理解し、看護実践について説明する。 ５．子どもの健康課題が親・家族に与える影響を説明する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	小児各期における特徴的な援助技術（１）	［講義・演習］診療（治療・処置・検査・診察）を受ける子どもと家族への看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。	飯島
2	小児各期における特徴的な援助技術（２）	［講義・演習］入院を必要とする子どもと家族への看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。	飯島
3	小児期特有の疾患（１）	［講義］小児期特有の慢性疾患（先天性心疾患、腎疾患、川崎病、Ⅰ型糖尿病など）について学習する。	田村（大）
4	小児各期における特徴的な援助技術（３）	［講義・演習］小児各期の発達特性を踏まえた子どもや親・家族とのコミュニケーション方法について学習する（プレパレーションなど含む）。	飯島
5	健康課題をもつ子どもと家族の看護（１）	［講義・演習］小児がんをもつ子どもと家族への看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。	赤羽・田村
6	健康課題をもつ子どもと家族の看護（２）	［講義・演習］小児期特有の急性状況の子どもと家族の看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。	飯島
7	健康課題をもつ子どもと家族の看護（３）	［講義・演習］疾患や障がいをもつ子どもの家族援助について学習する。	飯島
8	小児期特有の疾患（２）	［講義］小児期に手術を必要とする疾患の特徴と小児の手術の特徴を学習する。	照井
９・１０	生命の危機状態にある子どもへの的確な援助技術	［講義・演習］小児救急における子どもと家族の看護について、小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。（小児の心肺蘇生・異物除去）	赤羽・田村・飯島・小西
１１・１２	小児看護特有の生活援助技術（１）	［演習］小児看護特有の生活援助技術について、小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。（身体計測など）	飯島・田村・小西・赤羽
１３・１４	小児看護特有の生活援助技術（２）	［演習］小児看護特有の生活援助技術について、小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。（安全・安静など）	飯島・田村・小西・赤羽
１５	試験		飯島

教科書	「ナーシンググラフィカ　小児看護学（１）小児の発達と看護 第７版」、中野綾美編、メディカ出版、２０２３年 「ナーシンググラフィカ　小児看護学（２）小児看護技術　第５版」、中野綾美編、メディカ出版、２０２３年 「ナーシンググラフィカ　小児看護学（３）小児の疾患と看護 第３版」、中村友彦、西沢博子編、メディカ出版、２０２３年	参考書等	「いい顔生まれる　こどもまんなか小児看護技術　第１版」、染谷奈々子、平田美佳編、へるす出版、２０２４年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」	評価方法	１．筆記試験（５０％） ２．演習態度・演習課題レポート（５０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	生涯発達看護学概論Ⅱ・小児実践看護学Ⅰの学びを踏まえ、小児期特有の健康課題の特徴を理解し、子どもと家族に対する看護を学ぶ。また臨床教員の協力を得ながらより実践的な小児看護の技術について学習する。演習を行うための事前学習・事後学習が必要である。予習復習時間は１２時間以上。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	小児実践看護学Ⅲ（慢性状況・ヘルスアセスメント）	科目責任者	小西　克恵	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	３年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	健康課題をもちながら生活する子どもの看護を学習する。
	到達目標	１．健康課題をもちながら生活する子どもの日常生活の援助方法を説明する。 ２．健康課題が子どもの成長発達および生活に与える影響を説明する。 ３．健康課題をもつ子どもの健康状態を成長発達に応じた変化をとらえ、包括的にアセスメントする。 ４．エンドオブライフ（終末期）にある子どもと家族への看護支援について説明する。 ５．健康課題をもち、さまざまな状況にある子どもの看護について、倫理的側面および部門間、他職種・他機関との連携を踏まえて説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	健康課題をもつ子どもと家族への看護（１）	［講義・演習］在宅で療養が必要な子どもと家族の看護について他職種・他機関との連携を踏まえて理解し、その援助方法を学習する。	小西
２	健康課題をもつ子どもと家族への看護（２）	［講義・演習］在宅で療養が必要な子どもと家族の看護について他職種・他機関との連携を踏まえて理解し、その援助方法を学習する。	小西
３	小児期と神経・筋疾患	［講義］小児期に特徴的な神経・筋疾患を学習する。	村松
４	ヘルスアセスメントの技術（１）	［講義・演習］小児看護における看護過程の展開について、小児各期の発達特性や個別性を踏まえた方法を学ぶ。	小西、田村、飯島、赤羽
５	健康課題をもつ子どもと家族への看護（３）	［講義・演習］神経・筋疾患をもつ子どもおよび重症心身障害児とその家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。	小西
６	小児期と精神疾患	［講義］小児期特有の精神疾患について学習する。	柳橋
７	健康課題をもつ子どもと家族への看護（４）	［講義］被災した子どもと家族への看護ケアについて、小児各期の発達特性や個別性を踏まえて学習する。	小西
８	ヘルスアセスメントの技術（２）	［演習］事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。	小西、田村、飯島、赤羽
９	健康課題をもつ子どもと家族への看護（５）	［講義］小児期に移植を必要とする子どもと家族への看護実践について、倫理的側面および他職種連携を踏まえて学習する。	飯島
１０	健康課題をもつ子どもと家族への看護（６）	［講義・演習］エンドオブライフおける子どもと家族への看護実践について、小児各期の発達特性や個別性を踏まえて学習する。	小西
１１	ヘルスアセスメントの技術（３）	［演習］事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。	小西、田村、飯島、赤羽
１２	ヘルスアセスメントの技術（４）	［演習］事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。	小西、田村、飯島、赤羽
１３	ヘルスアセスメントの技術（５）	［演習］事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。	小西、田村、飯島、赤羽
１４	ヘルスアセスメントの技術（６）	［演習］事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。	小西、田村、飯島、赤羽
１５	試験		小西

教科書	「ナーシンググラフィカ　小児看護学（１）小児の発達と看護　第７版」、中野綾美編、メディカ出版、２０２３年 「ナーシンググラフィカ　小児看護学（３）小児の疾患と看護　第３版」、中村友彦、西沢博子編、メディカ出版、２０２３年 「ナーシンググラフィカ　小児看護学（２）小児看護技術　第５版」、中野綾美編、メディカ出版、２０２３年	参考書等	「看護がみえる vol.４ 看護過程の展開」 医療情報科学研究所 、メディックメディア、２０２０年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」	評価方法	１．筆記試験（６０%） ２．演習態度、演習課題レポート（４０%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	小児期の発達課題やその健康特性・健康障害を理解し、看護支援に関する方法を講義で教示し、演習を通じて実践力を培う。生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ、小児実践看護学Ⅱでの学びをさらに発展させ、小児期看護実習での実践への準備となる科目である。演習を行うための事前学習・事後学習が必要である。予習復習に１２時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）	科目責任者	村上　礼子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	成人期にある対象を包括的に理解し、成人看護の必要性と機能を学習する。
	到達目標	１．成人期にある対象の特性を説明する。 ２．成人期にある対象に有用な理論ならびに概念を説明する。 ３．成人期にある対象への看護の必要性と成人看護の機能を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	成人期にみられる健康課題の特徴	［講義］成人の生活および成人に生じやすい多様な健康課題について理解し、成人の生活を把握する観点と方法、ならびに成人看護の必要性と機能を学習する。	村上
2	成人教育とセルフマネジメント	［講義］学習者として成人の特徴を踏まえて、成人教育およびセルフマネジメントについて理解し、成人看護への応用を学習する。	長谷川
3	ストレスコーピングと適応	［講義］適応理論を踏まえ、ストレスコーピングについて理解し、成人看護への応用を学習する。	長谷川
4	病みの軌跡	[講義] 慢性疾患をもつ成人に有用な病みの軌跡の理論を理解し、看護への応用について学習する。	村上
5	危機理論	［講義］危機理論を理解し、危機的状況にある成人、ならびに家族への看護への応用について学習する。	村上
6	成人を取り巻く看護実践上の倫理（意思決定支援含む）	［講義］成人・家族を看護するうえで直面しやすい倫理問題とその背景について理解し、最善策を検討する方法を学習する。	村上
7	成人を取り巻く家族への支援	［講義］さまざまな健康問題をもつ成人を取り巻く家族への支援について理解し、看護への応用を学習する。	村上
8	評価	試験	村上

教科書	「ナーシンググラフィカ　成人看護学①　成人看護学概論（第５版）」安酸史子・鈴木純恵・吉田澄恵編、メディカ出版、２０２２年	参考書等	その都度、関連する書籍・文献、視聴覚教材を紹介する
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験 （７０％） ２．レポート （３０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	成人実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲならびに急性期看護実習、慢性期看護実習、診療看護実習の基盤となる科目である。各理論の理解を深めるには、事前には教科書、事後では講義資料や資料に提示してある参考文献を読み解き、授業内容を予習・復習すること。予習復習時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	成人実践看護学Ⅰ（機能障害別看護）	科目責任者	村上　礼子	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	各機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するための知識を学習する。
	到達目標	１．各機能の担い手とその障害、機能障害に伴う症状・徴候とその把握方法を説明する。 ２．各機能障害ならびに発達課題をもつ成人とその家族の特徴を説明する。 ３．各機能障害ならびに発達課題をもつ成人とその家族が安全・安楽に自律した療養生活を過ごすために必要な看護を説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］機能障害をもつ成人とその家族の特徴を把握するための視点と方法について理解する。	村上
２	呼吸機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］呼吸機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、呼吸機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	渡邉
３	循環機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］循環機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、循環機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	長谷川
４	循環機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］循環機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、循環機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	小川
８	運動機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］運動機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、運動機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	古島
５	性・生殖機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］性・生殖機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、性・生殖機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	石井／村上
６	栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］栄養代謝機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	渡邉
７	栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］栄養代謝機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	渡邉
９	脳・神経機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］脳・神経機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、脳・神経機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	渡邉
１０	造血機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］造血機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、造血機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	古島
１１	内部環境調節機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］内部環境調節機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、内部環境調節機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	佐藤
１２	免疫機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］免疫機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、免疫機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	古島
１３	感覚機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］感覚機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、感覚機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	佐藤
１４	感覚機能障害をもつ成人とその家族の看護	［講義］感覚機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、感覚機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。	佐藤
１５	試験		村上

教科書	「ナーシンググラフィカEX」 ①呼吸器、讃井將満編　②循環器、野原隆司編　③消化器、三原弘編、④血液/アレルギー・膠原病/感染症、薊隆文編　⑤脳・神経、永廣信治編　⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚、永井由巳編　⑦運動器、萩野浩編、　⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝、繪本正憲編　⑨女性生殖器、苛原稔編、メディカ出版、２０２０年	参考書等	その都度、関連のある書籍・文献を紹介する。
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）」	評価方法	１．筆記試験（１００％） ２．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	急性期看護実習、慢性期看護実習、診療看護実習の基盤となる実践的な内容である。特に、成人実践看護学Ⅲとは関連性が強い講義科目である。教科書の該当する内容を事前に読み、授業に臨むこと。事後では、授業内容の理解を深められるように講義資料や参考資料に目を通し、復習すること。履修順序は変更する可能性がある。予習復習時間は４６時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	成人実践看護学Ⅱ（診療看護）	科目責任者	古島　幸江	単位数	２.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	侵襲性の高い診療（検査・治療）を受ける健康課題をもつ成人に看護を実践するための知識を学習する。
	到達目標	１．機能障害をもつ成人に対する様々な診療（治療・検査）が与える侵襲性を説明する ２．侵襲性の高い検査・治療を受ける成人の安全・安楽な療養生活を維持するために必要な看護を説明する

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１～３	手術療法を受ける成人とその家族の看護	［講義］手術療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、周術期の看護実践を学習する。	古島
４・６	集中治療を受ける成人とその家族の看護	［講義］集中治療を受ける成人に起きる様々な機能障害や成人とその家族の置かれる背景を理解し、重症化の回避と生命の危機状況からの早期回復を目指した看護実践を学習する。	小川、古島
５	血管内治療を受ける成人とその家族の看護	［講義］血管内治療によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、療養生活を支援する看護実践を学習する。	古島
７	内視鏡療法を受ける成人とその家族の看護	［講義］内視鏡療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、療養生活を支援する看護実践を学習する。	渡邉
８	透析療法を受ける成人とその家族の看護	［講義］透析療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、療養生活を支援する看護実践を学習する。	渡邉
９～１１	化学療法・放射線療法 を受ける成人とその 家族の看護	［講義］化学療法ならびに放射線療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、療養生活を支援する看護実践を学習する。	佐藤
１２	エンド・オブ・ライフケアを要する成人とその家族の看護	［講義］エンド・オブ・ライフケアを要する成人とその家族のおかれる状況を理解し、療養生活を支援する看護実践を学習する。	渡邉
１３・１４	侵襲性の高い薬物療法をうける成人とその家族の看護	［講義］侵襲性の高い薬物療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、療養生活を支援する看護実践を学習する。	長谷川
１５	試験		古島

教科書	「周手術期看護論（第３版）」雄西智恵美、秋元典子編、ヌーヴェルヒロカワ、２０１４年 「ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント（第４版）」安酸史子、吉田澄恵、鈴木純恵編、メディカ出版、２０２２年	参考書等	その都度、関連のある書籍・文献を紹介する。
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）」	評価方法	レポート（３０％） 筆記試験（７０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	急性期看護実習、慢性期看護実習、診療看護実習の基盤となる実践的な内容である。特に、成人実践看護学Ⅲとは関連性が強い講義科目である。教科書の該当する内容を事前に読み、授業に臨むこと。事後では、授業内容の理解を深められるように講義資料や参考資料に目を通し、復習すること。履修順序は変更する可能性がある。予習復習時間は４６時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	成人実践看護学Ⅲ（実践演習）	科目責任者	長谷川　直人	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	健康課題をもつ成人とその家族の看護に必要な健康レベルに応じた看護実践を学習する。
	到達目標	１．急性期、回復期および慢性期における健康課題をもつ成人とその家族の特徴を説明する。 ２．健康課題をもつ成人とその家族の健康レベルに応じた看護実践の展開方法を説明する。 ３．健康課題をもつ成人とその家族の健康レベルに応じた看護実践を習得する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	機能障害別看護に基づく看護過程展開の実際	［講義］機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護の視点と看護過程について、急性期・回復期・慢性期の健康レベルの特徴に応じた展開方法の特徴を学習する。	長谷川
２～８	健康課題をもつ成人とその家族への看護過程（急性期）	［演習］高度医療を要する健康課題をもつ成人とその家族の事例に基づいて、急性期の看護過程を展開する方法を習得する。 ・治療による機能障害・健康障害、健康レベルの変化を把握するための看護実践 ・治療による機能障害・健康障害への影響の分析と共同問題／看護問題の抽出 ・急性期にある患者への健康の回復と悪化の予防を促す看護実践とその評価	長谷川・渡邉・佐藤・古島・佐々木・小川・石井・村松・村上
９～１５	健康課題をもつ成人とその家族への看護過程（回復期・慢性期）	［演習］高度医療を要する健康課題をもつ成人とその家族の事例に基づいて、回復期・慢性期の看護過程を展開する方法を習得する。 ・治療からの回復過程にある患者の発達課題、機能障害・健康障害を把握するための看護実践 ・治療からの回復過程にある患者の健康課題の分析と看護問題の抽出 ・健康の回復と悪化予防のための療養行動を支援する看護実践とその評価	長谷川・渡邉・佐藤・古島・佐々木・小川・石井・村松・村上

教科書	指定しない	参考書等	その都度、関連する文献・書籍を紹介する
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）」	評価方法	１．演習の看護実践内容と記録物（８０％） ２．課題レポート（２０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）ならびに成人実践看護学Ⅰ・Ⅱで習得した知識を活用し、健康課題をもつ成人とその家族の健康レベルに応じた看護実践の展開方法と看護援助技術を習得する。また、３年次の急性期看護実習、慢性期看護実習の基盤となる演習科目である。 演習成果を高めるために主体的に事前準備と事後課題に取り組み、演習で学んだ看護実践の展開方法と援助技術を繰り返し思考、実践して習得を目指す。 予習復習時間は１２時間以上。 演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）	科目責任者	浜端　賢次	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	１年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	老年期の概念及び老年期にある対象を理解し、老年看護学の基盤となる知識を習得する。
	到達目標	１．老年看護学の概念と歴史、ならびに理論的背景について説明する。 ２．老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の特徴を説明する。 ３．老年期にある対象の健康課題と看護の機能について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	老年看護学の社会的背景と定義	［講義］老年期にある対象を取り巻く社会を概観し、看護の理念と実践の特徴を学習する。	浜端
2	老年期にある対象への看護実践に活用する理論	［講義］老年期にある対象への看護実践に活用できる理論を学び、発達課題や自立した生き方を支援する看護を学習する。	浜端
3	老年看護の基本①	［講義］老年期にある対象の倫理的課題の概要を学び、老年看護における倫理の基本について学習する。	浜端
4	加齢に伴う変化と看護①	［講義］加齢による身体変化とそれによる健康課題や生活機能への影響と看護の概要を学習する。	川上
5	加齢に伴う変化と看護②	［講義］加齢による心理・精神機能の変化とそれによる健康課題や生活機能への影響と看護の概要を学習する。	川上
6	老年期にある対象を支える家族と看護	［講義］老年期にある対象と介護者との関係性を概観し、家族の介護負担ならびに家族のもつ力について学習する。	川上
7	老年看護の基本②	［講義］ 老年期にある対象の健康課題をふまえ、対象のQOL・健康維持増進ならびに予防の基本について学習する。	浜端
8	評価	試験による評価。	浜端

教科書	「老年看護学①老年期にある対象の健康と障害」堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編、メディカ出版、２０２５年	参考書等	適宜提示する
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．課題レポート（２０％） ３．学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、老年実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎となる。少子高齢多死社会であるわが国の社会状況や保健医療福祉に関する出来事に広く興味をもち、多様なメディア情報を日々把握しておくこと。また、授業前には教科書の該当ページを熟読し、授業後には学びを復習して知識を整理しておく。疑問点があれば、定期試験前には復習して試験に臨むこと。予習復習に要する時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	老年実践看護学Ⅰ（日常生活の支援）	科目責任者	浜端　賢次	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	２年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	老年期にある対象の暮らしを理解し、日常を支える看護とケアシステムについて説明する。
	到達目標	１．老年期にある対象の日常の暮らしと課題を説明する。 ２．老年期にある対象の暮らしを支える保健医療福祉施策について説明する。 ３．老年期にある対象とその家族の健康維持・増進とセルフケア能力の向上を図る看護の機能を説明する。 ４．居宅介護支援（ケアマネジメント）について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	老年期にある対象を支える保健医療福祉施策①	［講義］　地域包括ケアシステムや介護保険制度、ならびに在宅療養の基本などについて学習する。	浜端
2	老年期にある対象を支える保健医療福祉施策②	［講義］高齢者を取り巻く保健医療福祉制度の仕組みを知り、高齢者を支える制度や法律について学習する。	浜端
3	老年期にある対象を支える保健医療福祉施策③	［講義］　多様な生活の場である介護保険施設や関連する施設での高齢者の看護を学習する。	浜端
4	老年期にある対象の健康評価とリハビリテーション看護	［講義］　高齢者の生活習慣に見られる特徴的な疾患と健康評価、高齢者総合機能評価（ＣＧＡ）や日常生活動作の指標（ＦＩＭ、ＢＩ）などを知り、健康障害とリハビリテーション看護について学習する。	浜端
5	老年期にある対象のリスクマネジメント	［講義］　老年期にある対象に起こりやすい事故や緊急時の対応、災害への備えと看護について学習する。	川上
6	老年期にある対象のケアマネジメントと社会資源	［講義］　福祉用具の種類と活用方法について学ぶ。また、在宅や施設における情報通信技術（ＩＣＴ）や人工知能（ＡＩ）・ロボットなどの活用を学習する。	川上
7	地域で暮らす療養者を支える看護とケアマネジメント	［講義］　訪問看護の事例を通じて、地域で暮らす老年期にある対象を支えるためのケアマネジメント・ケースマネジメントの実際を学ぶ。	鮎澤・浜端
8	評価	試験による評価。	浜端

教科書	老年看護学①高齢者の健康と障害」堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編、メディカ出版、２０２５年「在宅療養を支えるか技術」石田千絵、臺有佳、山下留理子編著、メディカ出版、２０２５年	参考書等	適宜提示する
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）」	評価方法	１．筆記試験(８０％) ２．ワークシート(２０％) ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	生涯発達看護学概論Ⅳで学んだ内容を復習し、高齢者の特徴を理解して講義に臨む。また、講義後は必ず復習し、身近な高齢者と照らし合わせ学んだことを考える。定期試験前は集中して学習内容を復習し、試験に臨むこと。予習復習時間に要する時間は２３時間以上。		

2025年04月11日　時点

授業科目	老年実践看護学Ⅱ（看護の機能・方法）	科目責任者	川上　勝	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	加齢のプロセスにより生じる様々な健康段階を理解し、老年期にある対象の悪化予防とエンパワーメントを生み出す看護実践方法について学習する。
	到達目標	１．老年期にある対象の生活機能レベルの変化と特有の疾患及び症状について説明する。 ２．老年期にある対象に対する個別性の高い看護について説明する。 ３．老年期にある対象のQOLを高めるための看護及び多職種連携について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1・2	老年期にある対象看護の基本的アプローチ①	［講義・演習］老年期にある対象に多くみられる疾患やそれに関連する諸症状・徴候について学習する。	川上
3・４	老年期にある対象看護の基本的アプローチ②	［講義・演習］老年期にある対象のフィジカルアセスメントの特徴を学び、薬物療法や手術療法、検査を受ける高齢者の看護を学習する。	川上
5	障害・疾病を有する老年期にある対象の看護①	［講義］加齢に伴う循環・呼吸、泌尿器、排泄機能機障害等の特徴を踏まえ、療養の場の移行支援に向けた看護の実際を学習する。	川上・國府田・長田
6	障害・疾病を有する老年期にある対象の看護②	［講義］加齢に伴う脳血管・脳神経疾患 ・整形外科疾患の特徴を学び、療養の場の移行支援に向けた看護の実際を学習する。	川上・簗瀬
7	障害・疾病を有する老年期にある対象の看護③	［講義・演習］褥瘡や皮膚疾患を有する老年期にある対象への看護の特徴と、療養の場の移行支援に向けた看護の実際を学ぶ。	浜端・田口
8	障害・疾病を有する老年期にある対象の看護④	［講義・演習］老年期にある対象の認知機能障害に伴う生活上の困難を説明し、認知症高齢者への看護を学習する。	浜端・村山
9	多様な生活の場における看護①	［講義・演習］老年期にある対象の回復期看護の特徴と療養の場の移行支援に向けた看護の実際を学ぶ。	川上・浜端
１０	多様な生活の場における看護②	［講義・演習]人生の最終段階にある対象の死生観、死亡場所、臨死期の医療処置など、エンドオブライフに 関する看護について学習する。	川上・小松崎
１１～１４	老年看護過程の展開	［講義・演習］老年期にある対象にエンパワメントアプローチを活用し、QOLを高める看護展開方法を学習する。	川上
15	試験		川上

教科書	「老年看護学②高齢者看護の実践」堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編、メディカ出版、２０２５年 「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」石田千絵、山本留理子、臺有桂　編、メディカ出版、２０２５年	参考書等	「在宅看護論」石垣和子、上野まり他編、南江堂、２０２３年
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）」	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．課題レポート（看護過程の提出物含む）（２０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、生涯発達看護学概論Ⅳで学んだ老年期にある対象の特徴（加齢現象等）を基盤としている。必ず、生涯発達看護学概論Ⅳの学習内容を見直し、老年期にある対象の特徴を復習した上で講義・演習に臨む。また、既習事項に加え学習内容に記載された障害・疾病に関する予習や配布資料等を用いた復習を踏まえ、老年期にある対象の看護実践を考えながら授業に臨む。アクティブ・ラーニングを活用した講義・演習を展開する。１２時間以上を予習復習に費やして学ぶこと。		

2025年04月11日　時点

授業科目	老年実践看護学Ⅲ（看護実践方法）	科目責任者	川上　勝	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	老年期にある対象の健康障害の段階に応じ、療養生活を支援するための具体的な看護技術を習得する。
	到達目標	１．老年期にある対象のヘルスアセスメントと日常生活を支えるための看護技術を実施する。 ２．老年期にある対象の在宅療養生活を支える具体的な在宅看護技術を実施する。 ３．老年期にある対象を介護する家族への指導方法について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1・2	老年期にある対象のヘルスアセスメントと療養生活支援①	［講義・演習］ ・老年看護過程の基本とヘルスアセスメントの概要について学ぶ。	川上
3・4	老年期にある対象のヘルスアセスメントと療養生活支援②	［講義・演習］ ・老年期における身体機能の変化や活動と休息、移動のアセスメントと看護支援について学ぶ。 ・高齢者の身体状態の観察・アセスメントの方法について学ぶ。	川上・浜端 國府田・長田
５・６	老年期にある対象のヘルスアセスメントと療養生活支援③	［講義・演習］ ・高齢者の食事と栄養のアセスメントについて学ぶ。 ・摂食嚥下障害のある高齢者への食事援助および口腔ケアについて学ぶ。	川上・浜端 國府田・長田・戸田
７・８	老年期にある対象のヘルスアセスメントと療養生活支援④	［講義・演習］ ・高齢者の排泄機能のアセスメントと排泄障害のある高齢者の排泄ケアについて学ぶ。 ・高齢者の皮膚機能のアセスメントと皮膚障害のある高齢者への皮膚保護ケアについて学ぶ。	川上・浜端 國府田・長田
９・１０	老年期にある対象のヘルスアセスメントと療養生活支援⑤	［講義・演習］ ・在宅における医療行為と事故防止について学ぶ。 ・麻痺、拘縮のある高齢者へのポジショニングと更衣に関する看護実践について学ぶ。	川上・浜端 國府田・長田
１１・１２	老年期にある対象のヘルスアセスメントと療養生活支援⑥	［講義・演習］ ・認知機能障害のある老年期にある対象とのコミュニケーションの方法について学ぶ。 ・老年期にある対象の介護者への支援について学ぶ。	村山・浜端 川上・國府田・長田
１３・１４	老年期にある対象のヘルスアセスメントと療養生活支援⑦	［講義・演習］ 在宅療養生活をする対象に、アセスメントの４側面から在宅看護過程の基本を学ぶ。併せて、事例を活用した看護過程の展開方法を学習する。	浜端・川上 國府田・長田
１５	試験		川上

教科書	「老年看護学②高齢者看護の実践」堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編、メディカ出版、２０２５年 「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」石田千絵、山本留理子、臺有桂　編、メディカ出版、２０２５年	参考書等	必要時提示する。
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）」	評価方法	１．筆記試験（８０%） ２．課題レポート（２０%） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	既習事項を基盤に、老年期看護実習及び在宅看護実習での看護実践に関連する内容を学ぶ。アクティブ・ラーニングを活用した授業を展開する。教科書や配布資料などを用い、学習内容を予習・復習すること。また、演習が効率よく展開できるよう時間を意識して行動すること。さらに、授業後には身近な高齢者と照らし合わせて学習内容を復習し、実習の場で実施できるよう援助技術の習得のため、演習室を活用し１２時間以上を予習復習に費やして主体的に学ぶ。		

2025年04月11日　時点

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅴ（リプロダクティブヘルス）	科目責任者	川野　亜津子	単位数	１.０	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	リプロダクティブヘルス・ライツおよび女性特有の健康問題に対する看護・支援について説明する。
	到達目標	１．リプロダクティブヘルス・ライツの概念について説明する。 ２．ライフサイクルの各期における女性の健康問題とその支援について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	リプロダクティブヘルス・ライツの概念	［講義］リプロダクティブヘルス・ライツの概念および、女性の健康支援の必要性・あり方を考える。	川野
2	思春期女性の健康問題と看護	［講義］思春期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。	千葉
3	成熟期女性の健康問題と看護	［講義］成熟期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。	川野
4	更年期女性の健康問題と看護	［講義］更年期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。	川野
5	妊娠の意思決定および、望まない妊娠による健康問題	［講義］・受胎調節と避妊法の基本について学ぶ。 ・望まない妊娠による健康問題について学ぶ。 ・妊娠の意志決定の支援について学ぶ。	谷田部
6	不妊とその看護	［講義］不妊および、本人と家族の看護について学ぶ。	上野
7	性感染症とその予防	［講義］・性感染症による健康問題について学ぶ。 ・性感染症予防の支援について学ぶ。	川野
8	試験		川野

教科書	指定しない	参考書等	「母性看護学Ⅰ（概論）」有森直子編、医歯薬出版、２０２３年 適宜提示する
履修条件	なし	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．事後課題（２０％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	３年生までの学習内容が基礎になっているため、解剖・病態・発達段階とホルモン変化の復習をしてから臨むこと。１回ごとに学習課題が異なるため、講義内容および指定した内容を復習すること。 予習復習時間は２３時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	助産学概論	科目責任者	川野　亜津子	単位数	１.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	助産および助産師活動の概要について学習する。
	到達目標	１.助産師および助産師活動の概念を説明する。 ２.母子保健と助産の変遷について説明する。 ３.性・生殖と人権について説明する。 ４.生命倫理について説明する。 ５.助産師の国際活動と海外の母子保健の課題を説明する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	助産の概念、助産師とは	［講義］助産の概念、助産師の業務範囲、助産師の役割など、助産学の基本的概念について理解する。	川野
2	助産師活動の概要、 母子保健と助産の変遷	［講義］分娩の歴史と助産の変遷、保健医療の推移について学ぶ。	角川
3	性・生殖の健康と人権	［講義］助産実践との関連で、性と生殖の健康と人権について理解する。	川野
4	助産師の国際活動と海外の母子保健	［講義］助産師の国際活動と海外の母子保健について学ぶ。	谷田部
５～７	助産に関わる生命倫理	［講義・演習］助産に関連する倫理、助産師の倫理綱領、助産実践に関連する生命倫理について理解する。	川野・上野・二宮
8	試験		川野

教科書	指定しない	参考書等	「助産学講座Ⅰ助産学概論」我部山キヨ子・安達久美子編集、医学書院、２０２２年 「助産師基礎教育テキスト　第3巻　周産期における医療の質と安全」日本看護協会出版会、２０２５年 他　適宜提示する
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「周産期看護実習」	評価方法	１．筆記試験（６０％） ２．事後課題（３５％） ３．学習態度（５％） 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する 筆記試験：模範解答等を掲載する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 保健師およびNICU就職希望者など、助産師希望学生以外の就職の場合も役立つ内容である。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 各自で資料を収集し、積極的に講義・演習に参加すること。毎回の講義資料に基づいて復習し、次回の講義に備えること。 演習はアクティブ・ラーニングを活用して行う。予習復習時間は２３時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	基礎助産学Ⅰ（妊娠期・分娩期）	科目責任者	川野　亜津子	単位数	１.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	妊娠期・分娩期の生理と病態について学習する。
	到達目標	１．妊娠期の生理的変化と母体の適応について説明する。 ２．妊娠経過および妊娠期の正常からの逸脱について説明する。 ３．胎児の成長・発達および胎児付属物の機能について説明する。 ４．胎児および胎児付属物の正常からの逸脱について説明する。 ５．分娩の生理を説明する。 ６．分娩期の正常からの逸脱について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	妊娠期の生理的変化	［講義］妊娠の生理、妊娠の診断、妊娠期の心身の変化について学ぶ。	上野
2	妊娠期の正常からの逸脱と対応	［講義］妊娠経過の診断、妊娠期の各種検査、正常からの逸脱の予防、妊娠経過中に起こる異常と対応、妊娠の合併する異常と対応について学ぶ。	二宮
3	胎児の成長と発育および胎児の正常からの逸脱 胎児付属物の構造・機能と異常	［講義］胎児の成長と発育について学ぶ。胎児の正常からの逸脱、胎児付属物の構造・機能・役割、胎児付属物に関する異常と診断方法について学ぶ。	谷田部
４～５	分娩の生理	［講義］分娩の概念、分娩経過、分娩の３要素、分娩機序について学ぶ。	川野
６～７	分娩期の正常からの逸脱と対応	［講義］分娩経過の診断、分娩経過の異常（分娩停止・分娩遷延）、娩出力の異常（微弱陣痛・過強陣痛）、産道の異常（骨産道・軟産道）、分娩期の正常からの逸脱の予防と異常への対応について学ぶ。	川野
8	試験		川野

教科書	「助産学講座６助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２３年 「助産学講座７助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２３年 「助産学講座８助産診断・技術学Ⅳ（新生児期・乳幼児期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２３年	参考書等	「病態・治療論［１３］ 産科婦人科疾患」百枝幹雄他、南江堂、２０１９年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．課題レポート（１５％） ３．学習態度（５％） 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する 筆記試験：模範解答等を掲載する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 毎回の講義で学んだことを復習して、次回の講義に臨むこと。予習復習時間は２３時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	基礎助産学Ⅱ（産褥期・新生児期・乳児期）	科目責任者	川野　亜津子	単位数	１.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	産褥期、新生児・乳児期の生理と病態について学習する。
	到達目標	１．産褥期の生理的変化・経過について説明する。 ２．産褥期の正常からの逸脱について説明する。 ３．新生児の生理的変化について説明する。 ４．新生児および新生児期の正常からの逸脱について説明する。 ５．乳児期の成長・発達とその評価について説明する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１～２	産褥期の生理的変化、 産褥期の局所的変化	［講義］産褥期の身体的変化、心理・社会的変化について理解し、進行性変化と退行性変化および、正常な変化を促進する要因について学ぶ。	川野
３～４	産褥期の正常からの逸脱と対応	［講義］産褥期の正常からの逸脱の予防、産褥期に起こりやすい異常と対応について学ぶ。	川野
５～６	新生児の生理的変化、新生児・新生児期の正常からの逸脱と対応、ハイリスク新生児・低出生体重児の変化と対応	［講義］周生期にある胎児・新生児の生理的変化、子宮外生活への適応、新生児の異常徴候、新生児期の正常からの逸脱、ハイリスク新生児・低出生体重児とその対応について学ぶ。	千葉
７	乳児期の成長・発達とその評価	［講義］乳児期の成長・発達とその評価について学ぶ。	小林
８	試験		川野

教科書	「助産学講座7助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２１年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅲ（新生児期・乳幼児期）我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２１年	参考書等	「病態・治療論［13］産科婦人科疾患」百枝幹雄他、南山堂、２０１９年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」	評価方法	１．筆記試験（８５％） ２．事後課題（１５％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考法は別途周知する。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 毎回の講義前に関連する内容について教科書を読んでおくこと。また、毎回の講義で学んだことを復習して、次回の講義に臨むこと。予習復習時間は２３時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践助産学Ⅰ（妊娠期）	科目責任者	上野　知奈	単位数	１.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	妊娠期の助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。
	到達目標	１.妊娠のフィジカルアセスメントについて説明する。 ２.妊婦、胎児および家族の健康状態のアセスメントと支援に必要な基礎的技術について説明する。 ３.妊婦、胎児および家族に必要な健康教育について説明する。 ４.妊婦と家族への健康教育に必要な基礎的技術について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１・２	妊婦のフィジカルアセスメントと助産診断	［講義］妊娠各期の経過を診断するためのフィジカルアセスメント、妊娠各期の助産診断に必要な項目について学ぶ。	上野
３・４	妊婦のフィジカルアセスメントの実践	［講義・演習］妊娠中期・後期における、妊婦のフィジカルアセスメントの実際について学ぶ。	上野・川野・角川・谷田部・千葉・二宮・岡村
５・６	妊娠期の異常と妊娠合併症の診断と対応	［講義］妊娠期の異常や合併症の診断（妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病など）と対応について学ぶ。	高橋
７～１０	妊娠期の助産過程の展開	［講義・演習］正常経過にある妊婦とその家族の支援方法および、フィジカルアセスメントに基づく妊娠中期・後期の助産過程の展開について学ぶ。	上野・川野・角川・谷田部・千葉・二宮・岡村
１１～１４	妊婦と家族への健康教育	［講義・演習］助産過程に基づく、妊婦と家族への個別健康教育の意義および実践について学ぶ。	上野・川野・角川・谷田部・千葉・二宮・岡村
１５	試験		上野

教科書	「助産学講座６助産診断・技術学Ⅱ［１］妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２１年 「今日の助産　マタニティサイクルの助産診断・実践過程　改定第３版」北川眞理子編集、南山堂、２０１９年 「産婦人科診療ガイドライン　産科編２０２３」日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、日本産科婦人科学会事務局、２０２３年	参考書等	「標準産科婦人科学」綾部琢哉・板倉敦夫編集、医学書院、２０２１年 「新訂第２版　写真でわかる助産技術アドバンス」、中根直子・馬目裕子監修、インターメディカ、２０２５年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」	評価方法	１.筆記試験（６０％） ２.演習における事前・事後課題（４０％） ３.学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 ４年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考法は別途周知する。 この科目における演習では、シミュレーション学習によるアクティブ・ラーニングを活用して行う。また、助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 予習復習時間は１２時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践助産学Ⅱ（分娩期）	科目責任者	上野　知奈	単位数	２.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	分娩期および出生直後の新生児に対する助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。
	到達目標	１.分娩進行に伴う身体的・心理的変化について説明する。 ２.胎児のウェルネスの指標について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術について説明する。 ３.妊娠期・分娩期の助産過程に必要な知識と技術について説明する。 ４.分娩経過中の産婦と家族への支援について説明する。 ５.分娩介助に必要な基礎的技術について説明する。 ６.出生直後の新生児の生理的変化と胎外生活への適応について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	分娩進行に伴う身体・心理的変化のアセスメント	［講義］分娩各期の分娩経過に伴う身体・心理的変化のアセスメントとケアについて学ぶ。	上野
２	分娩経過中の産婦と家族の支援	［講義］無痛分娩を含めた分娩経過中の産婦と家族へのアセスメントと支援について学ぶ。	川野
３・４	妊娠期の超音波断層法・胎児心拍モニタリング	［講義］妊娠期における超音波検査法と胎児心拍モニタリングを学び、母体および胎児の評価について学ぶ。	桑田
５・６	母体と胎児のアセスメント	［講義・演習］分娩経過中の母体と胎児のアセスメントについて学ぶ。	上野
７～９	分娩期の助産過程の展開	［講義・演習］分娩期の母体と胎児のウェルネスの評価、産婦と家族への支援について、事例をもとに助産過程を展開し学ぶ。	上野・川野・角川・谷田部・千葉・二宮・岡村
１０～１３	分娩介助に必要な基礎的技術とその実践	［講義・演習］分娩介助に必要な基礎的技術について学ぶ。	上野・川野・角川・谷田部・千葉・二宮・岡村
１４・１５	出生直後の新生児のアセスメントとケア	［講義・演習］出生直後の新生児の成長・発達・成熟度の診断と胎外生活への適応の診断を含む分娩介助に必要な基礎的な基礎技術を習得する。	二宮・上野
	試験		上野

教科書	「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［２］分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２１年 「今日の助産　マタニティサイクルの助産診断・実践過程　改定第３版」北川眞理子編集、南山堂、２０１９年 「産婦人科診療ガイドライン　産科編２０２３」日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、日本産科婦人科学会事務局、２０２３年	参考書等	「標準産科婦人科学」綾部琢哉・板倉敦夫編集、医学書院、２０２１年 「分娩のしくみと介助法」竹田省、高橋眞理編集、メジカルビュー社、２０１６年 「図説CTGテキスト」中井章人、メジカルビュー社、２０１６年 「分娩介助学　第２版」進純郎、医学書院、２０１４年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」	評価方法	１.筆記試験（８５％） ２.演習における事前・事後課題（１５％） ３.学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 ４年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 予習復習時間は４６時間以上とする。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践助産学Ⅲ（産褥・新生児期））	科目責任者	川野　亜津子	単位数	２.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	早期産褥・新生児期の母子と家族について理解し、そのアセスメントと支援の基礎的技術を習得する。
	到達目標	１．早期産褥期の身体・心理的変化とその支援について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術について説明する。 ２．褥婦と新生児および家族の心理・社会的変化とその支援について説明する。 ３．早期産褥期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について説明する。 ４．新生児期の生理的変化と胎外生活への適応について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術について説明する。 ５．新生児期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について説明する。 ６．母子分離の際の母子と家族の理解とその支援について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	分娩直後の褥婦の正常からの逸脱のアセスメントとケア	［講義］分娩直後の褥婦のアセスメントとケアについて学ぶ。	川野
２	産褥早期の身体的変化、心理・社会的変化	［講義］産褥早期の褥婦の身体的変化、心理・社会的変化について学ぶ。（マタニティブルーや産褥精神障害を含む）	川野
３～４	分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応	［講義］分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応について学ぶ。	川野
５	母子分離された母子と家族の理解とその支援	［講義］母子分離となった母子と家族の理解とその支援について学ぶ。	千葉
６	産褥期退行性変化のフィジカルアセスメント	［講義・演習］産褥期の退行性変化のフィジカルアセスメントについて学ぶ。	岡村・上野
７	母乳育児支援と授乳中に起こりうるトラブル	［講義］母乳育児支援と授乳中に起こりやすいトラブルとケアについて学ぶ。	所
８	産褥期進行性変化のフィジカルアセスメント	［演習］母乳育児支援の実際・フィジカルアセスメントについて学ぶ。	所
９～１０	新生児の生理的変化と胎外生活への適応	［講義］早期新生児期の生理的変化、胎外生活への適応について学ぶ。	川野
１１～１２	新生児期の正常からの逸脱を踏まえた新生児のフィジカルイグザミネーション	［講義・演習］新生児期の正常からの逸脱を踏まえ、早期新生時期の正常経過のアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションの基本的技術を習得する。	岡村・上野
１３～１４	出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応	［講義］出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応について学ぶ。	矢田
１５	試験		川野

教科書	「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ［３］新生児期・乳幼児期」横尾京子編集、医学書院、２０２１年 「今日の助産　マタニティサイクルの助産診断・実践過程　改定第3版」北川眞理子編集、南山堂、２０１９年	参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、２０１９年 「母乳育児支援スタンダード第３版」日本ラクテーションコンサルタント協会、医学書院、２０２５年 「新生児学入門第６版」仁志田博司、医学書院、２０２４年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」	評価方法	１．筆記試験（８５％） ２．課題レポート（１５％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。４年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された内容だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。予習復習時間は４６時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践助産学Ⅳ（母子の健康支援）	科目責任者	川野　亜津子	単位数	２.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	・母子の健康に関わる栄養・運動、感染、生活環境の基礎とその支援について学ぶ。 ・妊娠･出産に関わる社会・文化的側面について学習する。
	到達目標	１．母子の健康に関わる栄養・食生活とその支援について学習する。 ２．母子の健康に関わる運動とその支援について学習する。 ３．母子の健康に関わる感染とその予防・治療等について学習する。 ４．母子の健康に関わる生活環境について説明する。 ５．母子の心理および、社会的側面に影響を与える要因について学習する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１～２	母子の健康と栄養とその支援	［講義・演習］母子の健康と関わる栄養の基礎、妊娠期・授乳期の食事の基礎とその支援について学ぶ。	川野・上野
３～４	母子の健康と栄養とその支援	［講義・演習］母子の健康と関わる栄養の基礎、妊娠期・授乳期の食事の基礎とその支援について学ぶ（保健指導）。	川野・上野
５～６	母子の健康と運動とその支援	［講義・演習］母子の健康と運動について学ぶ。	清水
７～８	母子の健康と感染	［講義］妊娠・分娩・産褥期の感染、母乳育児と感染、その予防・治療・感染キャリア者の支援について学ぶ。	川野
９～１０	母子の健康と感染	［演習］妊娠・分娩・産褥期の感染、母乳育児と感染、その予防・治療・感染キャリア者の支援について学ぶ（母乳育児）。	上野・川野
１１～１２	母子の健康と生活環境	［講義］母子と生活環境とその影響について学ぶ。	川野・上野
１３～１４	母子と家族の心理的・社会文化的側面に影響を与える要因	［講義］母子と家族の心理的・社会文化的側面に影響を与える要因について学習する。	川野
１５	評価		川野

教科書	指定しない	参考書等	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２３年 「助産学講座7助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、２０２３年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」	評価方法	１．事前・事後課題（８０％） ２．課題レポート（２０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 ４年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。演習はアクティブ・ラーニングを活用して行う。予習復習時間は４６時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	実践助産学Ⅴ（切れ目のない支援）	科目責任者	川野　亜津子	単位数	1.0	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	３０	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	妊娠、分娩、産褥、育児期に継続する切れ目のない支援に必要な基礎的技術を習得する。
	到達目標	１．妊婦の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 ２．分娩期にある産婦と胎児の包括的なアセスメントと介助に必要な基礎的技術を習得する。 ３．産褥、育児期の母子と家族の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 ４．妊娠、分娩、産褥、育児期に継続する切れ目のない支援と助産師の役割について説明する。

回数 （１回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	妊娠、分娩、産褥、育児期に継続する切れ目のない支援と助産師の役割	［講義］妊娠、分娩、産褥、育児期に継続する切れ目のない支援と助産師の役割について考える。	川野・上野
2	妊婦の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術の習得	［演習］妊婦の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術を修得する（沐浴①）。	上野・川野
3	妊婦の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術の習得	［演習］妊婦の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術を修得する（沐浴②）。	上野・川野
4	妊婦の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術の習得	［演習］妊婦の包括的なアセスメントと支援に必要な基礎的技術を修得する（分娩介助）。	川野
5	分娩期にある産婦と胎児の包括的なアセスメント技術の習得	［演習］分娩期にある産婦と胎児の分娩介助に必要な基礎的技術を修得する（産褥期アセスメント①）。	上野・川野
６～７	分娩期にある産婦と胎児の包括的なアセスメント技術の習得	［演習］分娩期にある産婦と胎児の包括的なアセスメント技術を修得する（導尿・内診）。	二宮・岡村
８～１１	分娩期にある産婦と胎児の分娩介助に必要な基礎的技術の習得	［演習］分娩期にある産婦と胎児の分娩介助に必要な基礎的技術を修得する（産褥期アセスメント②）。	上野・川野
１２～１３	分娩期にある産婦と胎児の分娩介助に必要な基礎的技術の習得（初期アセスメントを含む）	［演習］分娩期にある産婦と胎児の分娩介助に必要な基礎的技術を修得する。	上野・岡村・角川・谷田部・千葉・二宮・川野
１４～１５	技術試験		上野・岡村・角川・谷田部・千葉・二宮・川野

教科書	指定しない	参考書等	指定しない
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」	評価方法	１．技術試験（５０％） ２．事前事後課題（４５％） ３．学習態度（５％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 ４年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。 予習復習時間は１２時間以上とする。

2025年04月11日　時点

授業科目	実践地域助産学	科目責任者	角川　志穂	単位数	１.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	地域における母子保健活動の意義と実践について理解し、地域につなげるケアの基本的技術を習得する。
	到達目標	１．地域における母子保健活動の意義と活動の場について説明する。 ２．助産所や自宅分娩の利点と課題を説明する。 ３．助産師による地域の子育て支援について説明する。 ４．産褥期の退院に向けた健康教育・保健指導の意義を説明する。 ５．産褥期の健康教育・保健指導に必要な基礎的技術を取得する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	地域における母子保健活動の意義と実際	[講義]地域母子保健の概念と意義および、地域母子保健活動の歴史、法的基盤、助産師による様々な場での母子保健活動について学ぶ。	角川
2	地域における母子保健活動の意義と実際	[講義]地域母子保健の概念と意義および、地域母子保健活動の歴史、法的基盤、助産師による様々な場での母子保健活動について学ぶ。	角川
3	産後1年間の母子を支える仕組み	[講義]子育て世代包括支援センター、産後ケアの法的基盤、社会体制整備について知り、産後1年間の母子を支える仕組みについて考える。	角川
4	助産院における産後ケアの実際と課題	[講義]退院後の助産院における産後ケアの実際と課題について学ぶ。	鳥内
５～６	地域の母子保健活動の実際と課題	[講義]助産師による地域母子保健活動の実際と課題について学ぶ。	藤川
7	在日外国人母子の現状と課題	[演習]在日外国人母子の現状と課題および必要な助産ケアについて学習する。	角川
8	評価		角川

教科書	「助産学講座９地域母子保健・国際母子保健　第6版」我部山キヨ子編集、医学書院、2023年	参考書等	適宜提示する。
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」	評価方法	１．筆記試験（８０％） ２．課題レポート（２０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する 筆記試験：模範解答等を掲載する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 周産期看護実習での体験を振り返り、毎回の講義・演習に積極的に参加すること。 演習では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。 予習復習時間は23時間以上とする。		

2025年04月11日　時点

授業科目	助産管理学	科目責任者	川野　亜津子	単位数	１.０	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	１５	受講セメスター	４年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	助産師の活動に関わる管理の概念とその実際について理解し、助産師活動の場と責任について学ぶ。
	到達目標	１．助産管理の概要について説明する。 ２．母子に対する社会保障について説明する。 ３．助産所と病産院の助産管理の機能について説明する。 ４．災害時の助産師の役割と活動について説明する。 ５．医療事故と助産師業務について説明する。

回数 (１回９０分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	助産管理の概要 医療保険制度と母子に対する社会保障制度	［講義］助産管理の目的と概要を学習する。日本の医療保険制度と母子に対する社会保障制度について学ぶ。	川野
2	助産所の業務と管理	［講義］助産所での妊娠・分娩管理、その役割と課題について学ぶ。助産所の業務と管理および、助産業務ガイドラインについて学ぶ。	小嶋
3	産科外来と助産師外来	［講義］助産師外来における助産師の主体的な妊婦・褥婦支援について学ぶ。	小嶋
4	病院での助産管理	［講義］病棟における助産管理について学ぶ。産科病棟、分娩棟、MFICUそれぞれの機能と役割、その中での助産実践について学ぶ。	大貫
５～７	助産実践におけるリスクマネジメント （災害時の助産師の役割と活動／助産業務と医療事故）	［講義］助産実践におけるリスクマネジメントの概要を学ぶ。災害時の助産師の役割と母子ケアについて学ぶ。助産業務に関連する医療事故と助産師の業務責任について学ぶ。	上野・二宮・川野
8	試験		川野

教科書	「助産師基礎教育テキスト　第３巻　周産期における医療の質と安全」成田伸編、 日本看護協会出版会、２０２３年	参考書等	「助産業務ガイドライン２０２４」 日本助産師会編集、２０２４年
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」	評価方法	１．事後課題（６０%） ２．課題レポート（３５%） ３．学習態度（５%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 周産期に関連する法律・制度・看護管理を復習してから受講し、講義内容を理解して試験に臨むこと。 予習復習時間は２３時間以上とする。		

看　護　学　分　野

各　看　護　実　習

2025年04月11日　時点

授業科目	対象の理解実習	科目責任者	内堀　真弓	単位数	１.０	必修選択別	必修
				時間数	４５	受講セメスター	１年次 前学期

学習目的と到達目標	目的	対象の健康と生活環境、提供される医療のしくみと看護職の役割を学ぶことを通して、対象を理解する基礎的能力を養う。
	到達目標	１．対象とコミュニケーションを図る方法を説明する。 ２．対象の健康状態を説明する。 ３．対象の生活環境を説明する。 ４．対象に提供される医療のしくみと看護職の役割を説明する。 ５．自らの行動や態度を振り返り、看護職にふさわしい態度を学ぶ。

学習内容ならびに方法

実習期間	５日間
実習方法	編成されたグループで課題に取り組む。
実習内容	１日目：実習オリエンテーションを受け実習内容を理解し、看護の対象とのコミュニケーションについての課題学習に取り組む。 ２～４日目：編成されたグループに分かれ、以下の課題に取り組む。 １．　入院患者および看護職の役割の理解 ① 病棟オリエンテーションを受け、入院患者の療養環境を学ぶ。 ② 看護実践場面を見学し、看護職の役割を学ぶ。 ③ 入院患者１名とコミュニケーションを図る時間をもち、対象の健康、環境、看護について理解を深めるとともに、自らのコミュニケーションを振り返る。 ２．　地域で生活する人の理解 ① 地域で生活する人とコミュニケーションを図る時間をもち、対象の健康や生活環境について理解を深めるとともに、自らのコミュニケーションを振り返る。 ３．　医療のしくみと看護職の役割の理解 ① 見学部署の役割や機能を事前学習し、医療のしくみや看護職の役割について質問事項をまとめておく。 ② 見学場面で質問し、医療のしくみや看護職の役割について理解を深める。 ③ カンファレンスに参加し、他の部署を見学した学生と学びを共有する。 ５日目：カンファレンスに参加し、学生相互に学びを共有する。
担当教員	小原、内堀、井上、鈴木、大串、小野寺 大塚、倉科、関山、平尾、鹿野 自治医科大学附属病院所属の本看護学部臨地教授等
実習場所	自治医科大学附属病院

履修条件	・単位取得していることが必要な科目 「看護学概論」(見込み)	評価方法	１．実習目標に対する達成度 ２．実習記録物 ３．実習態度 上記を総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	初めての実習となるため、自己の健康管理をおこない、学習者として誠実な態度で臨み、報告、連絡や相談を主体的に行うこと。既習の看護学概論、実践基礎看護学概論Ⅰ、看護技術論Ⅰ、看護技術演習Ⅰの学習内容を活かして、本実習での学びを深めること。予習復習時間として２時間以上を必要とする。 本科目では、看護職としての実務家教員や基礎科学分野の教員らが、その経験と知識を活用して指導する。本科目は、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	日常生活援助実習	科目責任者	小原　泉	単位数	３.０	必修選択別	必修
				時間数	１３５	受講セメスター	２年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	対象と援助的関係を築き、日常生活上のニードに対する看護過程の展開を通して、看護職にふさわしい態度を養う。
	到達目標	１．対象とコミュニケーションを図り、援助的関係の形成を行う。 ２．対象の日常生活を理解し、日常生活上の基本的なニードの充足状況を説明する。 ３．対象のニードに合った看護計画を立案し、安全・安楽な看護を実践する。 ４．自らの看護実践を振り返り、看護職にふさわしい態度を学ぶ。

学習内容ならびに方法

実習期間	３週間
実習方法	学生をグループに分け、実習場所での実習（病棟実習）を１０日間、学内での実習を５日間行う。 実習場所では、日常生活援助を必要とする患者を１名以上受け持ち、看護過程を展開する。
実習内容	１．病棟実習 ① 受け持ち患者とコミュニケーションを図り、援助的関係を形成する。 ② 受け持ち患者の日常生活上の基本的なニードの充足状況をアセスメントし、看護問題を明らかにする。 ③ 受け持ち患者の看護問題に対する看護計画を立案・実施し、結果を評価する。 ④ カンファレンスに参加し、学生相互に学びを共有して、自らの看護展開や看護実践の振り返りに活用する。 ２．学内実習 ① 実習オリエンテーションを受け、実習の内容を理解して、事前学習に取り組む。 ② 受け持ち患者に合った日常生活援助を安全・安楽に行うため、看護技術の習得度を向上させる。 ③ 受け持ち患者の情報を整理し、看護問題を明確化して、対象に合った看護計画を立案する。 ④ 評価面接を活用して自らの看護実践を振り返り、自己の課題を明確にする。
担当教員	小原、内堀、井上、鈴木、大串、小野寺、村松 自治医科大学附属病院所属の本看護学部臨地教授等
実習場所	自治医科大学附属病院成人系病棟

履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」「看護技術論Ⅰ」「看護技術演習Ⅰ」「対象の理解実習」、「看護技術論Ⅱ」「看護技術演習Ⅱ」「ヘルスアセスメント演習Ⅰ」「ヘルスアセスメント演習Ⅱ」「看護技術論Ⅲ」「看護技術演習Ⅲ」「看護過程演習」	評価方法	１．事前学習課題 ２．実習目標に対する達成度 ３．実習記録物 ４．実習態度 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	事前学習課題は、看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程演習、ヘルスアセスメント、人体の構造と機能で既習内容について提示する。また各実習病棟の主な疾患に関連する病態生理、アセスメント等も提示するので、しっかりと事前学習をすること。夏季休暇後の実習となるため、自己の健康管理を十分におこなって臨むこと。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 予習復習時間は、６時間以上を必要とする。アクティブ・ラーニングを活用して実習を展開する。

2025年04月11日　時点

授業科目	周産期看護実習	科目責任者	角川　志穂	単位数	２.０	必修選択別	必修
				時間数	９０	受講セメスター	３年次 前学期

学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ周産期における母子とその家族への看護について学ぶ。
	到達目標	１．妊娠・出産・育児期にある母子とその家族の生活を説明する。 ２．入院している母子に対する基礎的援助を実践する。 ３．受け持ち母子をアセスメントし、必要な看護実践を考えて実践する。 ４．地域での看護職による母子への支援の必要性とその実際を説明する。 ５．妊娠・出産・育児期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について学ぶ。

学習内容ならびに方法

実習期間	3年次前学期　1クール2週間で全５クール
実習方法	学生は自治医科大学附属病院または附属さいたま医療センターの産科病棟にて妊婦または産後の母子1組を受け持ち、ケース受け持ちを1週間行う。もう1週間は、機能別実習として、自治医科大学附属病院のNICUや産科病棟、産科外来にて妊娠期・分娩期・新生児期の母子とその家族への支援実習を行うとともに、地域での育児支援実習も行う。
実習内容	初日は、自治医科大学附属病院や附属さいたま医療センター、地域での育児支援施設での実習について、全体およびグループ毎にオリエンテーションを行う。また、周産期の母子への看護に関する技術と知識の確認を行う。さらに、自治医科大学附属病院での病棟オリエンテーションを臨地実習指導者より受ける。 詳しい実習内容は「周産期看護実習要項」を参照。 ケース受け持ち実習では、妊婦あるいは産後の母子をケースとして受け持ち、看護を展開すると共に、適宜臨地実習指導者とともにショートカンファレンスを行い、健康課題を持つ周産期における母子と家族への看護について理解を深める。 機能別実習では、様々なリスクを持つ、妊娠期・分娩期・新生児期にある母子と家族への看護について、地域での育児支援を含んで、多様な側面から学ぶ。 最終日は各自が作成したレポートをもとにカンファレンスを行い、実習における学びの統合を図る。
担当教員	角川、上野、谷田部、岡村、二宮、川野
実習場所	自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター 一般社団法人栃木県助産師会（下野市を中心として活動）、陽だまり助産院

履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「病態学概論」「病態学各論Ⅰ」「病態学各論Ⅱ」 「日常生活援助実習」 「周産期実践看護学Ⅰ」 「周産期実践看護学Ⅱ」	評価方法	周産期看護実習　実習評価票に基づき、評価する（全体を通した実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度）（１００%） 【学生へのフィードバック方法】 学生に講評する
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）および周産期実践看護学ⅠⅡでの学びを統合し、周産期における母子とその家族への看護について、実践を通して看護展開を学んでいく。さらに、周産期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について、さまざまな病棟や地域での実習およびショートカンファレンス等を通して学ぶ。 本科目では、看護職としての実務経験のある教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 予習復習時間として4時間以上を使うこと。本科目は、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	小児期看護実習	科目責任者	田村　敦子	単位数	２.０	必修選択別	必修
				時間数	９０	受講セメスター	３年次 前学期

学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ子どもの看護の展開を学ぶ。
	到達目標	１．入院している子どもの生活を説明する。 ２．入院している子どもおよび親・家族についてアセスメントし、必要な援助を説明する。 ３．入院している子どもおよび親・家族への援助を計画し実践する。 ４．行った実践を評価し、さらなる看護の展開を説明する。 ５．医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割を説明する。

学習内容ならびに方法

実習期間	２週間
実習方法	学生は１グループ７名程度で、入院および外来に通院する子どもを対象に実習を行う。
実習内容	初日は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターでの実習について、全体およびグループ毎に実習オリエンテーション、病棟オリエンテーションおよび患者選定を行う。 各実習場所における実習内容と実習方法は、「小児期看護実習要項」を参照。 最終日は、カンファレンスをもち、実習全体の振返りを通して学びを統合する。
担当教員	田村、飯島、小西、赤羽 自治医科大学とちぎ子ども医療センター所属の本看護学部臨地講師
実習場所	自治医科大学とちぎ子ども医療センター　２Ａ病棟、３Ａ病棟、４Ａ病棟、外来 栃木県立岡本特別支援学校　おおるり分教室

履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「病態学概論」「病態学各論Ⅰ」「病態学各論Ⅱ」 「日常生活援助実習」 「小児実践看護学Ⅰ」 「小児実践看護学Ⅱ」 単位取得見込みが必要な科目 「小児実践看護学Ⅲ」	評価方法	１．実習態度 ２．実習記録物、実習課題レポート ３．カンファレンスの参加状況 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ～Ⅲでの学びを統合し、健康障害や入院によってさまざまな状況にある子どもと親・家族に対する看護について実践を通して看護展開を学ぶ。さらに、子どもと親・家族を取り巻く保健・教育・福祉などの各組織の機能と組織間の連携・調整についてカンファレンスなどを用いて学ぶことで、医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割について学ぶ。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。予習復習時間は４時間以上。実習ではアクティブラーニングを活用して行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	急性期看護実習	科目責任者	佐藤　幹代	単位数	２.０	必修選択別	必修
				時間数	９０	受講セメスター	３年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	急性期における健康課題をもつ成人・老年期にある個人とその家族を多面的に捉え、最適な健康状態を導くための看護を学ぶ。
	到達目標	１．周術期にある成人・老年期の個人とその家族を多面的に理解し、健康課題を整理して、必要な看護展開を表現する。 ２．周術期における健康課題をもつ成人・老年期にある対象の健康の回復と生活への適応を促す支援を実践する。 ３．急性期における看護実践上の倫理的問題に対する考え方、態度を表現する。 ４．看護職として、先見性を持つ看護を提供するための探求的姿勢を表現する。

学習内容ならびに方法

実習期間	２週間
実習方法	急性期における健康課題をもつ成人・老年期の個人とその家族を1名以上受けもち、看護過程を展開する。具体的には、周術期にある成人・老年期の個人とその家族を受け持ち、手術侵襲からの早期回復を促し、生活への適応を目指した看護実践を行う。中央手術部門や集中治療部等で実習を展開することもある。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。
実習内容	１. 周術期にある成人・老年期の個人の機能障害とその症状、手術侵襲や麻酔が心身におよぼす影響の理解に基づき、対象の健康レベルの的確なアセスメント、および看護上の問題の明確化を行い看護計画を立案する。 ２. 立案した看護計画に基づいて、医療専門職と連携しながら対象の異常の早期発見に努め回復過程に応じた看護を実践する。 ３. 対象の反応に基づき、最善な看護実践を行うために常に実践内容を評価し続ける。 ４. カンファレンスを行い相互に学習を深める。 ※実習内容の詳細は、急性期看護実習要項を参照する
担当教員	村上、佐藤、古島、長谷川、渡邉、佐々木、小川、石井 自治医科大学附属病院所属の本看護学部臨地教授等
実習場所	自治医科大学附属病院の主に外科系の病棟

履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人実践看護学Ⅰ」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「病態学概論」 「病態学各論Ⅰ」 「病態学各論Ⅱ」	評価方法	１.実習内容、態度、到達目標の達成度 ２.実習記録 ３.カンファレンスへの参加状況 上記を総合的に評価する 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	本科目は成人実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とし、主に周術期にある成人・老年期の個人とその家族への看護過程を展開する科目である。科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）、多職種連携論Ⅰ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、病態学概論、病態学各論Ⅰ・Ⅱ、栄養学ほか、基礎科学分野の知識を十分に復習した上で臨む。 実習では、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ個人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢をもてるよう、担当教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的な学習活動と、実習に向けた十分な予習と復習を求める。本科目は、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。予習復習時間は４時間以上。 本科目は、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。

2025年04月11日　時点

授業科目	慢性期看護実習	科目責任者	長谷川　直人	単位数	２.０	必修選択別	必修
				時間数	９０	受講セメスター	３年次 前学期

学習目的と到達目標	目的	回復期および慢性期における健康課題をもつ成人・老年期にある個人とその家族の個別性を踏まえ、対象が健康を保持し、生活を再構築する過程を支える看護を学ぶ。
	到達目標	１．回復期および慢性期にある成人・老年期の個人とその家族の個別性の理解に基づいて健康課題を整理し、必要な看護展開を表現する。 ２．回復期および慢性期における健康課題をもつ成人・老年期にある対象の継続的な療養生活支援を実践する。 ３．回復期および慢性期における看護実践上の倫理的問題に対する考え方、態度を表現する。 ４．看護職として、自律性を高める看護を提供するための探求的姿勢を表現する。

学習内容ならびに方法

実習期間	２週間
実習方法	主に回復期および慢性期における健康課題をもつ成人・老年期にある個人とその家族を１名以上受け持ち、看護過程を活用して看護実践を行う。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。 また、実習目的を達成するために外来・検査・治療部門で実習を展開することもある。
実習内容	１．回復期および慢性期にある成人・老年期の個人とその家族の健康課題を把握するための情報を集め、アセスメントを行い、看護問題を明確にし、看護計画を立案する。 ２．立案した看護計画に基づいて、医療専門職と連携しながら患者やその家族が健康を保持し、生活を再構築できるよう支援するための看護を実践する。 ３．看護実践に対する患者やその家族の反応や変化に基づいて、看護実践が最善となるよう看護計画を評価、修正する。 ４．各種カンファレンスに主体的に参加し、相互に学習を深める。 ※実習内容の詳細は、慢性期看護実習要項を参照する。
担当教員	長谷川、佐藤、古島、渡邉、小川、石井、村上 自治医科大学附属病院所属の本看護学部臨地教授等
実習場所	自治医科大学附属病院の主に内科系の病棟

履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人実践看護学Ⅰ」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「病態学概論」 「病態学各論Ⅰ」 「病態学各論Ⅱ」	評価方法	１．実習内容、態度、到達目標の達成度 ２．実習記録 ３．各種カンファレンスへの参加状況 上記を総合的に評価する 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	本科目は成人実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とし、主に回復期および慢性期にある成人・老年期の個人とその家族への看護過程を展開する科目である。 科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）、多職種連携論Ⅰ、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、病態学概論、病態学各論Ⅰ・Ⅱ、栄養学ほか、基礎科学分野の知識を十分に復習した上で臨む。 実習では、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ個人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢をもてるよう、担当教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的な学習活動と、実習に向けた十分な予習と復習を求める。予習復習時間は４時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 本科目は、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。

2025年04月11日　時点

授業科目	診療看護実習	科目責任者	村上　礼子	単位数	１.０	必修選択別	必修
				時間数	４５	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	高度医療の場における成人・老年期にある対象の健康課題の特性を捉え、円滑な診療提供体制を支える看護を学ぶ。
	到達目標	１．多様な診療提供体制の場における侵襲性の高い治療・検査を受ける成人・老年期にある対象の健康課題の特性と看護の特徴を説明する。 ２．侵襲性の高い治療・検査の場における医療チームの連携を学び、看護職の役割を説明する。

学習内容ならびに方法

実習期間	１週間
実習方法	侵襲性の高い治療や検査を受ける患者を１名以上受けもち、治療や検査の影響を把握し、対象の健康課題の特性ならびに看護の特徴を理解する。看護職と共に対象の看護実践を行い、様々な診療提供を受ける患者の健康課題と看護に関する気づきや学びを得る。また、カンファレンスを通して、経験した診療提供体制の場における医療チームの在り方、看護職の役割について学習を深める。
実習内容	１．多様な診療提供体制の場における侵襲性の高い治療・検査を受ける対象の健康課題の特性を理解する。 ２．治療・検査の侵襲により引き起こしやすい、または引き起こしている健康課題をもつ対象に必要な看護実践を経験し、理解する。 ３．対象の健康課題の解決に向けた医療チームの在り方と看護職の役割を理解する。 ４．カンファレンスを行い、相互に学習を深める。
担当教員	村上、長谷川、佐藤、古島、渡邉、小川、石井 自治医科大学附属病院所属の本看護学部臨地教授等
実習場所	自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター 中央手術部、集中治療部（ICU）、冠動脈集中治療部（CCU）、救命救急センター、画像診断部・放射線治療部、内視鏡部、外来治療センター、透析センター　など

履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「急性期看護実習」 「慢性期看護実習」 「基礎薬理学」 「臨床薬理学」 「臨床検査学」	評価方法	１．実習内容、態度、到達目標の達成度 ２．実習記録 ３．カンファレンスの参加状況 以上を総合的に評価する 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は成人実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、多職種連携論Ⅰ、急性期看護実習、慢性期看護実習を基盤とした科目である。 実習では、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢をもてるよう、担当教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的な学習活動と、実習に向けた十分な予習と復習を求める。予習復習時間は２時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 本科目は、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。		

2025年04月11日　時点

授業科目	老年期看護実習	科目責任者	川上　勝	単位数	１.０	必修選択別	必修
				時間数	４５	受講セメスター	３年次 前学期

学習目的と到達目標		
	目的	老年期にある対象の療養の場の移行に関わる看護、または生活の場における看護の実際と、介護職等他職種との連携の実際を学ぶ。
	到達目標	１．急性期医療を終え、療養の場の移行を目指す老年期にある対象への看護の実際を学ぶ。 ２．第二次医療機関や介護老人保健施設における継続看護について説明する。 ３．生活の場である施設（介護老人福祉施設、グループホームなど）における看護の実際を学ぶ。 ４．老年期にある対象が退院後も必要な医療が継続されるように、他部門・他機関、リハビリテーション専門職や介護職との協働の必要性を説明する。

学習内容ならびに方法

実習期間	5日間（臨地実習４日＋学内演習）
実習方法	１．医療機関または介護保険施設において、老年期にある対象者を受け持たせていただき、行われているケアや処置等に参加する。 ２．1日のケアを通してコミュニケーションを図り、老年期にある対象者の思いや目標等を理解し、看護課題の抽出から看護計画の立案までを展開する。 ３．老年期にある対象者や認知症高齢者へのケアを理解し、看護職をはじめとした多職種がそれぞれどのように支援しているのか、そして看護職と多職種はどのように連携しているのかを学ぶ。 ４．臨地実習４日間のうちの１日は、実習施設の関連機関等について学ぶ機会とする。 ５．実習最終日の金曜日は学内とし、各施設の学びを共有する機会とする。
実習内容	【対象（高齢者）の理解】 １．高齢者への看護を通して、高齢者の身体・精神・心理的変化を捉えることができる。 ２．加齢に伴う変化や生活歴、疾患等から、高齢者の健康課題を見出すことができる。 ３．高齢者のADLの維持と向上をふまえ、エンパワメントの視点を含めた看護計画が立案できる。 ４．高齢者の意思を尊重し、自立度を維持した安全な看護が提供できる。 ５．高齢者との関わりを通して自己の老年観を養い、高齢者を尊重した態度をとることができる。 【療養の場への移行や生活の場（二次医療機関や施設）の理解】 ６．医療機関（療養病棟等）や介護保険施設（特養、老健、GH等）の場を知り、高齢者の生活を支える職種の役割とチームにおける看護師の役割が説明できる。 ７．多職種との協働や連携の視点から、療養生活を継続する高齢者とその家族に必要な看護について説明することができる。
担当教員	浜端、川上、國府田、長田
実習場所	１．医療機関：那須中央病院、宇都宮中央病院、真岡病院、光南病院 ２．介護老人保健施設：晃南・しらさぎ荘、白楽園、かみつが、わたのみ荘 ３．介護老人福祉施設：いずみ苑・敬祥苑 ４．認知症対応型共同生活介護：グループホームすみれ大寛の苑 ５．小規模多機能型居宅介護：デイホーム すみれ西川田

履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「病態学概論」「病態学各論Ⅰ」「病態学各論Ⅱ」 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 「老年実践看護学Ⅲ」	評価方法	１．実習記録物・実習課題レポートの提出状況（８０％） ２．実習態度（１０％） ３．自己評価の実施状況（１０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	これまでの講義・実習で学んだ知識・技術を想起し，老年期にある対象の尊厳を守り、指導者･教員とともに学習内容を確認しながら、自律的・主体的に取り組むことを重視する。また、アクティブ・ラーニングを活用して実習を展開する。実習前に事前学習として課題レポートを作成し、事前の予習、事後の復習に2時間以上の時間を費やす。 本科目では、看護職としての実務家教員らがその経験と知識を活用して指導する。		

2025年04月11日　時点

授業科目	在宅看護実習	科目責任者	浜端　賢次	単位数	２.０	必修選択別	必修
				時間数	９０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標	目的	在宅療養者が日常生活の場で必要とする看護と支援方法について学ぶ。
	到達目標	１．在宅療養者の健康課題に関連する日常生活への影響を説明する。 ２．在宅療養者を介護する家族の課題について説明する。 ３．在宅療養者とその家族への具体的な介護支援方法について説明する。 ４．在宅療養者を支える制度や地域ケアシステムについて学ぶ。 ５．在宅療養者を支援するための他職種・多機関との連携方法について学ぶ。

学習内容ならびに方法

実習期間	実習場所及び学内での演習を合わせて１０日
実習方法	１．訪問看護ステーションと併設する在宅サービス事業所等において、同行訪問・見学実習を行い、在宅看護・介護・医療の実際を知る。 ２．在宅療養者を支える訪問看護以外の介護サービスの実際を見学し、地域包括ケアシステムの全体像とシステム駆動の実際を理解し、今後必要とされる制度やサービスについても考察する。 ３．設置主体の違いによる訪問看護活動の特徴や、併設事業所との連携、地域の他機関・多職種との連携について学ぶ。 ４．在宅看護過程の展開を学ぶ。
実習内容	＜訪問看護ステーション＞ １．受け持った療養者やその家族とのコミュニケーションを通して、どのような看護ニーズが存在し、訪問看護師に求められる役割について考察する。 ２．1名の在宅療養者を受け持ち、同行訪問を複数回行い、在宅における看護過程の展開方法を学ぶ。 ３．受け持ちの在宅療養者を支える専門職や非専門職の果たす役割について学ぶ。 ４．在宅療養者への看護を通して、急性期、慢性期（回復期）における看護と継続看護を学ぶ。 ＜訪問看護ステーションの併設事業所や連携している保健医療福祉サービス事業所＞ １．訪問看護ステーションと同法人内に併設されている在宅サービス事業所や連携している他事業所が、在宅療養者に果たしている役割を知り、看護職同士の連携や他職種・多機関との連携について学ぶ。 ２．訪問看護ステーションが活動する地域の保健医療福祉サービスについて学び、今後必要とされるサービス内容について考察する。 ３．地域住民の健康管理を担う地域の保険医療福祉制度や社会資源を学ぶ。 ＜学内演習およびカンファレンス＞ １．中間カンファレンス：実習開始数日後に、半日を利用して学生個々の体験は学び、受け持ち利用者への看護について情報・意見交換し、そこでの気づきをその後の実習における学びに活かす。 ２．最終カンファレンス：臨地実習の最終日に実習場において、指導者・教員等を交えて学生の学びを共有し、指導者等からの助言を得て、学びをまとめ整理する。 ３．学内カンファレンス：実習最終日に、学内において半日を利用して学生個々の学びを発表して経験を共有し、助言を得て学びを共有する。学びの共有を通して、実習目標に沿って個々に考えたこと（テーマを設定し）をレポートにまとめる。
担当教員	浜端・春山・塚本・島田・川上・市川・青木・安藤・長田・國府田
実習場所	訪問看護ステーション：１８箇所 ＊訪問看護ステーションでの同行訪問する利用者は、小児・精神障がい者・難病患者などを含む。

履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「病態学概論」「病態学各論Ⅰ」「病態学各論Ⅱ」 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 「老年実践看護学Ⅲ」	評価方法	１．実習記録物・実習課題レポートの提出状況（８０%） ２．実習態度（１０%） ３．自己評価の実施状況（１０%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	これまでの講義・実習で学んだ知識・技術を想起し、対象の尊厳を守り、指導者･教員とともに学習内容を確認しながら、自律的・主体的に取り組むことを重視する。実習前に事前学習として課題レポートを作成し、予習復習時間は４時間以上。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。実習では、アクティブ・ラーニングを活用する。		

2025年04月11日　時点

授業科目	精神保健看護実習	科目責任者	春山　早苗	単位数	２.０	必修選択別	必修
				時間数	９０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標		
	目的	精神疾患および精神障害をもつ個人およびその家族を全人的にとらえて援助し、地域資源を活用して支援する方法を学ぶ。
	到達目標	１．精神障害者を生活者としてとらえ、精神疾患・精神障害が生活に及ぼす影響のアセスメントを実施する。 ２．精神の健康上の課題および精神疾患・精神障害をもつ個人およびその家族を身体的・心理的・社会的に援助する。 ３．精神障害を持つ個人が地域資源を活用できるように支援する方法を学ぶ。

学習内容ならびに方法

実習期間	１０日間
実習方法	１）複数のグループを編成し、実習施設の特性を考慮して、学生が自由に考え、自分の判断で工夫して、組織内外の多職種と協働する。 ２）地域で療養生活を営む精神疾患・精神障害をもつ個人(以下精神障害をもつ個人とする)と家族を対象として担当し、対象者の状態と生活に即し、集団力動を考慮して個別および施設の利用者集団の看護を実践する。 ３）精神科の医療機関が果たす役割について、通院および入院における連携を中心に検討し、地域における看護実践との協働を考察する。
実習内容	１）精神および身体的な健康課題について、病態・治療および心理社会的な環境要因についてアセスメントし、精神障害をもつ個人とその家族への看護を計画・実施・評価する。 ２）精神障害をもつ個人およびその家族の生活歴、それぞれの希望、そして生活上の困難と工夫を踏まえ、回復過程に応じた基本的な看護を計画・実施・評価する。 ３）精神障害をもつ個人およびその家族について、生活者という視点から、利用可能な社会資源・制度等の利用と組織内外の人的資源と協働することも含めた看護計画を立案し、実施・評価する。 ４）精神障害をもつ個人やその家族、そして当事者組織を含めたつながりを持つ人々の精神的・身体的・社会的な健康を維持・増進する看護について、計画・実施・評価する。
担当教員	春山、路川、地神、戸田
実習場所	県内の複数の精神科医療施設(精神科デイケアを含む)および精神障害者が利用する通所型福祉施設

履修条件		評価方法	
	・単位を取得していることが必要な科目 「病態学概論」「病態学各論Ⅰ」「病態学各論Ⅱ」「日常生活援助実習」 ・単位取得見込みが必要な科目 「精神看護方法」 「地域精神看護方法」		１.実習の参加状況と学習態度 ２.対象者(受け持ち以外を含む)とのかかわり ３.実習記録および報告の内容および提出状況 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	
	「地域精神看護方法」で行う演習では、本実習の記録用紙の活用方法、実習施設のアセスメント、対象者を想定したロールプレイを行い、講義内容を含めて本実習の準備となるため、同一年度に履修する必要がある。 「生涯発達看護論」、「グループアプローチ」、「実践基礎看護学概論Ⅱ」、「精神看護方法」を十分に復習し、実習の直前および期間内にe-learningによる課題を行う。本実習では、身体上の課題を併せもつ青年期から老年期にわたる幅広い年齢層の対象者を受け持つため、基礎看護学、成人看護学、老年看護学等の既習知識と技術を活用する。また、公衆衛生看護学に関する知識と技術、「公衆衛生看護実習」「在宅看護実習」で学ぶ内容と本科目の内容は関連が深く、本実習を円滑に展開するため活用する必要がある。以上の予習と復習を４時間以上必要とする。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 本科目は看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。本科目は、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。

2025年04月11日　時点

授業科目	公衆衛生看護実習	科目責任者	島田　裕子	単位数	４.０	必修選択別	必修
				時間数	１８０	受講セメスター	３年次 後学期

学習目的と到達目標	目的	公衆衛生看護実践の実際をとおして、看護職の役割ならびに生活集団のヘルスニーズの把握方法とその充足のための公衆衛生の理念に基づく看護実践方法およびヘルスケアシステムづくりのための看護実践方法の理解を深め、公衆衛生看護の実践方法の基本を習得する。
	到達目標	１．地域・学校・職場の生活集団のヘルスニーズの把握方法およびその充足のための個人・家族・生活集団を対象とした看護実践方法の基本を習得する。 ２．ヘルスケアシステムを整え機能させるための行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職の役割および実践方法を説明する。 ３．行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職との関わりをとおして、特定生活集団の健康生活を守るということに責任を持つ看護職のあり方について説明する。 ４．現在行われている公衆衛生看護実践から、地域・学校・職場の生活集団の健康レベルおよび生活の質をより向上させるための看護の課題について意見を述べる。

学習内容ならびに方法

実習期間	20日間
実習方法	学生をグループに分け、栃木県内の保健所（健康福祉センター）で４日間、市町村で１０日間（事前訪問実習１日間を含む）、小中学校で２日間、事業所で１日間の実習をする。 詳細は「公衆衛生看護実習要項」に示す。
実習内容	１．実習オリエンテーション 学内において全体オリエンテーションの他、保健所（健康福祉センター）毎、市町村毎、小中学校毎、事業所毎のオリエンテーションを行う。また、保健所及び市町村については実習初日に実習施設においてもオリエンテーションを行う。 ２．行政分野における看護実習 １）保健所（健康福祉センター）実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習保健所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において４日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 ２）市町村実習 ①「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」「健康生活支援技術Ⅱ」と連動して学生各々が実習に関わる事前学習や実習のための準備を行い、実習に臨む。 ②実習期間中に各実習施設で予定されている事業や保健師活動を参考に、実習計画及び行動計画を立てる。 ③②に沿って、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ④最終日にはカンファレンスを行い、実習目標に対する学びを発表する。 ３．学校保健分野における看護実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②小中学校毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（養護教諭）及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において２日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 ④学内演習において、事前学習や実習後の学習内容の整理、課題レポートの作成等を行う。 ４．産業保健分野における看護実習 ①３．①と同様。 ②事業所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（産業看護職）及び教員の指導により実習する。 ③３．④と同様。 ５．統合カンファレンス 全分野の実習終了後、学内で統合カンファレンスを行う。学生は小グループに分かれ、保健所実習における学びを共有するとともに各分野で現在行われている看護活動に共通する課題及びその課題を改善するための方法について討議する。 ６．実習統合レポートの作成 統合カンファレンスでの学びを基に、「地域・学校・職場の各フィールドで現在行われている看護活動に共通する課題、及び、その課題を改善するための方法」について考察し、レポートを作成する。
担当教員	地域看護学科目担当教員：春山、塚本、島田、市川、青木、安藤 看護基礎科学科目教員（産業分野における看護実習のみ）：大塚、倉科、平尾、関山、鹿野 ・各実習グループに担当教員を置く。
実習場所	県西、県東、県南、県北、安足、栃木、今市、烏山、矢板の健康福祉センター（保健所）９カ所 宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、日光市、小山市、真岡市、大田原市、那須塩原市（黒磯保健センター）、さくら市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、芳賀町、壬生町、野木町 下野市内の小中学校12カ所 ホンダテクノフォート、ＩＪＴＴ、住友電工電子ワイヤー、日野自動車

履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「病態学概論」「病態学各論Ⅰ」「病態学各論Ⅱ」「日常生活援助実習」「健康生活支援技術Ⅰ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「健康生活支援技術Ⅱ」「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」	評価方法	出席状況を前提に、実習担当教員が、実習態度、実習記録物の提出状況、自己評価の実施状況、実習目標の到達度を総合的に評価する。その後、科目責任者が確認し最終評価する。詳細は「公衆衛生看護実習要項」のとおり。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	「実践基礎看護学概論Ⅲ」で学習した公衆衛生看護の目的と原則等、並びに、「健康生活支援技術Ⅰ」で学習した保健指導技術及び家族相談援助論を、よく復習して臨むこと。直前の「公衆衛生看護活動論」と「健康生活支援技術Ⅱ」の学習内容、並びに、実習市町をフィールドとして演習する「公衆衛生看護方法論」も、本実習をする上で非常に重要である。 「公衆衛生看護実習要項」に記載されている事前学習に取り組んだ上で実習に臨み、本実習による学びを復習しながら、４年次の「行政看護管理論」及び「地域健康危機管理論」において、さらに学びを深める。予習復習時間は８時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 また、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。

2025年04月11日　時点

授業科目	助産学実習	科目責任者	川野　亜津子	単位数	１０.０	必修選択別	選択
				時間数	４５０	受講セメスター	４年次 後学期

学習目的と到達目標	目的	周産期の母子と家族を支援するための助産実践の基礎的技術を習得し、助産業務について説明する。
	到達目標	１．出産･育児に向けた妊娠中の健康教育・保健指導について説明する（集団指導・個別指導）。 ２．出産に向けた一般外来・助産師外来での妊婦管理について説明する。 ３．分娩進行中の産婦・胎児および出生直後の新生児のアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 ４．分娩期に必要な看護・助産技術および基礎的な分娩介助技術を習得する。 ５．早期産褥期・早期新生児期の母子と家族アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 ６．育児期の支援としての産後ケアの実際について説明する。

学習内容ならびに方法

実習期間	８週間
実習方法	１．妊娠期実習 １）妊娠期外来実習（一部助産（師）外来）…妊婦健診に参加し、妊婦のアセスメントの基礎的技術を学ぶと共に、妊婦への関わりについての実際や必要な支援について考える。 ２）妊婦健康教育実習（出産準備教室）…妊娠週数に応じた集団指導での健康教育を見学し、その支援について考える。 ２．分娩・育児期実習 １）分娩期実習…分娩入院した産婦を受け持ち、分娩期にある母子とその家族に必要な基礎的助産活動を展開する。直接介助を行う受け持ちは９ケース以上とする。うち1ケースは産褥・新生児期までの継続ケースとする。 ２）新生児期実習…間接介助として出生直後の新生児ケアを行う。そのケースについては、できるかぎり、出生後２時間および出生後２４時間の観察・評価を行う。 ３）母子の継続実習（継続ケース） ① 入院中の母子受け持ち実習…「分娩期助産実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）のうち１ケースを継続して受け持ち、入院中の母子に必要な基礎的援助活動を展開する。 ② 退院後の母子受け持ち実習…「入院中の母子受け持ち実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）を継続して受け持ち、退院後１～２週間の時点での家庭訪問、産後１ヶ月健診（可能ならば新生児１ヶ月健診も）の実習を行い、新生児・乳児を養育する家庭における母子とその家族に必要な基礎的援助活動を展開する。 ４）帝王切開術およびその前後の母子のケア実習…帝王切開術を受ける母子に行われるケアを見学し、その状況を理解すると共に、母子とその家族に必要な支援について考える。 ３．地域を中心とした実習 地域で開業する助産師の活動を見学し、その実際を学ぶ（助産所、産後ケア含む）。
実習内容	周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）の助産師の役割、助産ケア・健康教育の意義と方法、助産過程の展開について学び、助産技術の基本的実践を習得する。
担当教員	川野、角川、上野、谷田部、千葉、二宮、岡村
実習場所	自治医科大学附属病院産科病棟・外来、自治医科大学附属さいたま医療センター病棟・外来、池羽レディースクリニック、大野医院、ことり助産院、マザーズヘイブン佐藤助産院

履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅰ」「実践助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅲ」「実践助産学Ⅳ」「実践助産学Ⅴ」「実践地域助産学」「助産管理学」	評価方法	助産学実習最終評価票に基づき、評価する（全体を通した実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度） （１００％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する

備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 ４年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選抜方法は別途周知する。 分娩介助実習の進行状況により、延長実習があり得る。長期間の実習で負担も大きいが、高い知識と技術を獲得できる。これまでの学びを総括する実習であり、関連する科目の復習を同時進行で行う。教員、臨床教員、臨地実習指導者、臨地スタッフ等の支援があって成り立っており、適時助言・指導を得ながら、進めていくようにする。 実習開始にあたっては、分娩介助の技術チェックを学内で行う。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。また、アクティブ・ラーニングを活用して実習展開を行う。 予習復習時間として２０時間以上を使うこと。